

**P7P55D
EVO**

ASUS

Motherboard

J4647

初版 第1刷
2009年8月

Copyright © 2009 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合には、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ	iii
ご注意	viii
安全上のご注意	ix
このマニュアルについて	x
P7P55D EVO 仕様一覧	xii

Chapter 1: 製品の概要

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容	1-1
1.3	独自機能	1-2
1.3.1	製品の特長	1-2
1.3.2	ASUS Xtreme Design—Hybrid Processor	1-2
1.3.3	ASUS Xtreme Design—Hybrid Phase	1-3
1.3.4	ASUS Xtreme Design—Hybrid OS	1-3
1.3.5	ASUSの独自機能	1-3

Chapter 2: ハードウェア

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.2.1	マザーボードのレイアウト	2-2
2.2.2	レイアウトの内容	2-3
2.2.3	設置方向	2-4
2.2.4	ネジ穴	2-4
2.3	CPU	2-5
2.3.1	CPUを取り付ける	2-5
2.3.2	CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	2-8
2.3.3	CPUからヒートシンクとファンを取り外す	2-9
2.4	システムメモリ	2-10
2.4.1	概要	2-10
2.4.2	メモリ構成	2-11
2.4.3	メモリを取り付ける	2-19
2.4.4	メモリを取り外す	2-19
2.5	拡張スロット	2-20
2.5.1	拡張カードを取り付ける	2-20
2.5.2	拡張カードを設定する	2-20
2.5.3	割り込み割り当て	2-21
2.5.4	PCI スロット	2-22
2.5.5	PCI Express 2.0 x1 スロット (2.5GT/s)	2-22
2.5.6	PCI Express 2.0 x16 スロット	2-22

もくじ

2.6	オンボードスイッチ	2-24
2.7	コネクタ	2-27
2.7.1	バックパネルコネクタ	2-27
2.7.2	オーディオ I/O 接続	2-28
2.7.3	内部コネクタ	2-31
2.7.4	ASUS Q-コネクタ(システムパネル)	2-40
2.8	オンボードLED	2-41
2.9	初めて起動する	2-42
2.10	コンピュータをオフにする	2-42

Chapter 3: BIOS Setup

3.1	BIOSとは	3-1
3.2	BIOSを更新する	3-1
3.2.1	ASUS Update	3-2
3.2.2	ASUS EZ Flash 2	3-4
3.2.3	ASUS CrashFree BIOS 3	3-5
3.3	BIOS Setup プログラム	3-6
3.3.1	BIOSメニュー画面	3-6
3.3.2	メニューバー	3-6
3.3.3	ナビゲーションキー	3-7
3.3.4	メニュー	3-7
3.3.5	サブメニュー	3-7
3.3.6	構成フィールド	3-7
3.3.7	ポップアップウィンドウ	3-7
3.3.8	スクロールバー	3-7
3.3.9	ヘルプ	3-7
3.4	メインメニュー	3-8
3.4.1	SATA 1-6	3-8
3.4.2	記憶装置の設定	3-10
3.4.3	AHCI Configuration	3-11
3.4.4	システム情報	3-11
3.5	Ai Tweaker メニュー	3-12
3.5.1	Ai Overclock Tuner [Auto]	3-12
3.5.2	CPU Ratio Setting [Auto]	3-13
3.5.3	Intel(R) SpeedStep(TM) Tech [Enabled]	3-13
3.5.4	Intel(R) TurboMode Tech [Enabled]	3-14
3.5.5	Xtreme Phase Full Power Mode [Auto]	3-14
3.5.6	BCLK Frequency [XXX]	3-14
3.5.7	PCIe Frequency [XXX]	3-14
3.5.8	DRAM Frequency [Auto]	3-14

もくじ

3.5.9	QPI Frequency [Auto].....	3-14
3.5.10	DRAM Timing Control.....	3-14
3.5.11	CPU Differential Amplitude [Auto].....	3-16
3.5.12	CPU Clock Skew [Auto].....	3-16
3.5.13	CPU Voltage Mode [Offset]	3-17
3.5.14	IMC Voltage [Auto]	3-17
3.5.15	DRAM Voltage [Auto].....	3-17
3.5.16	CPU PLL Voltage [Auto].....	3-17
3.5.17	PCH Voltage [Auto].....	3-18
3.5.18	DRAM DATA REF Voltage on CHA/B [Auto].....	3-18
3.5.19	Load-Line Calibration [Auto].....	3-18
3.5.20	CPU Spread Spectrum [Auto]	3-18
3.5.21	PCIe Spread Spectrum [Auto].....	3-18
3.6	拡張メニュー	3-19
3.6.1	CPUの設定	3-19
3.6.2	North Bridge Configuration.....	3-21
3.6.3	オンボードデバイス設定構成	3-22
3.6.4	USB設定	3-23
3.6.5	PCIePnP	3-24
3.6.6	Intel VT-d [Disabled]	3-24
3.6.7	T.Probe [Enabled]	3-24
3.7	電源メニュー	3-25
3.7.1	Suspend Mode [Auto].....	3-25
3.7.2	Repost Video on S3 Resume [No].....	3-25
3.7.3	ACPI 2.0 Support [Disabled]	3-25
3.7.4	ACPI APIC Support [Enabled].....	3-25
3.7.5	EuP Ready [Disabled]	3-25
3.7.6	APMの設定	3-26
3.7.7	ハードウェアモニタ	3-27
3.8	ブートメニュー	3-28
3.8.1	ブートデバイスの優先順位	3-28
3.8.2	起動設定	3-29
3.8.3	セキュリティ	3-30

もくじ

3.9	ツールメニュー	3-32
3.9.1	ASUS O.C. Profile	3-32
3.9.2	Drive Xpert Configuration	3-33
3.9.3	AI NET 2	3-35
3.9.4	ASUS EZ Flash 2	3-35
3.9.5	Express Gate [Auto]	3-35
3.10	終了メニュー	3-36
 Chapter 4: ソフトウェア		
4.1	OSをインストールする	4-1
4.2	サポートDVD情報	4-1
4.2.1	サポートDVDを実行する	4-1
4.2.2	ソフトウェアのユーザーマニュアルを閲覧する	4-2
4.3	ソフトウェア情報	4-3
4.3.1	ASUS PC Probe II	4-3
4.3.2	ASUS AI Suite	4-4
4.3.3	ASUS Fan Xpert	4-5
4.3.4	ASUS EPU	4-6
4.3.5	ASUS Express Gate	4-7
4.3.6	VIA® High Definition Audio ユーティリティ	4-8
4.3.7	ASUS Drive Xpert	4-9
4.3.8	ASUS T.Probe	4-10
4.4	ASUSだけのオーバークロックユーティリティ—TurboV EVO	4-11
4.4.1	ASUS TurboVを使用する	4-11
4.4.2	ASUS TurboV Auto Tuning モードを使用する	4-12
4.4.3	ASUS Turbo Key を使用する	4-13
4.5	RAID	4-14
4.5.1	RAID の定義	4-14
4.5.2	Serial ATAハードディスクを取り付ける	4-15
4.5.3	BIOSでRAIDを設定する	4-15
4.5.4	Intel® Matrix Storage Manager option ROMユーティリティ	4-15
4.6	RAIDドライバディスクを作成する	4-19
4.6.1	OSに入らずにRAIDドライバディスクを作成する	4-19
4.6.2	RAIDドライバディスクを Windows® 環境で作成する	4-19
4.6.3	Windows® OSインストール中にRAIDドライバをインストールする	4-19
4.6.4	USBフロッピーディスクドライブを使用する	4-20

もくじ

Chapter 5: マルチGPUテクノロジーサポート

5.1 ATI® CrossFireX™ テクノロジー 5-1

5.1.1 必要条件 5-1

5.1.2 始める前に 5-1

5.1.3 CrossFireX™ ビデオカードを 2 枚取り付ける 5-2

5.1.4 CrossFireX™ ビデオカードを 3 枚取り付ける 5-3

5.1.5 デバイスドライバをインストールする 5-4

5.1.6 ATI® CrossFireX™ テクノロジーを有効にする 5-4

5.2 NVIDIA® SLI™ テクノロジー 5-6

5.2.1 必要条件 5-6

5.2.2 SLI対応ビデオカードを 2 枚取り付ける 5-6

5.2.3 デバイスドライバをインストールする 5-7

5.2.4 NVIDIA® SLI™ テクノロジーを有効にする 5-7

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

REACH (原文)

Complying with the REACH (Registration, Evaluation, Authorisation, and Restriction of Chemicals) regulatory framework, we published the chemical substances in our products at ASUS REACH website at <http://green.asus.com/english/REACH.htm>.



本機は電気製品または電子装置であり、地域のゴミと一緒に捨てられません。また、本機のコンポーネントはリサイクル性を考慮した設計を採用しております。なお、廃棄の際は地域の条例等の指示に従ってください。



本機のバッテリーには水銀が含まれています。通常ゴミとして廃棄しないでください。

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 周辺機器の取り付け・取り外しの際は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ ケーブルの接続・取り外しの際は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電圧がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。
- ・ 光デジタルS/PDIFは、光デジタルコンポーネントで、クラス1レーザー製品に分類されています。(本機能の搭載・非搭載は製品仕様によって異なります)



不可視レーザー光です。ビームを直接見たり触れたりしないでください。

- ・ バッテリーを火気に投じないでください。爆発し有害物質が発生する恐れがあります。
- ・ バッテリーは通常ゴミとして廃棄しないでください。廃棄の際はお住まいの地域の区分に従ってください。
- ・ バッテリーは製造元指定のものをご使用ください。



- ・ 製造元指定のバッテリー以外を使用した場合、爆発や液漏れ等の恐れがあります。
- ・ 使用済みバッテリーを廃棄する際は、上記の指示に従って廃棄してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本パッケージに付属のマニュアル及び取り付ける部品のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。



本マザーボードは環境温度 5°C (41°F) ~ 40°C (104°F) でご使用ください。

- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: BIOS セットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 4: ソフトウェア**
マザーボードパッケージに付属のサポート DVD とソフトウェアの内容。
- **Chapter 5: マルチGPUテクノロジーサポート**
マルチATI® CrossFireX™とNVIDIA SLI™ビデオカードの取り付けと設定方法。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト** (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考になしてください。



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

< > で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter> → Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+Del>

P7P55D EVO 仕様一覧

CPU	LGA1156 ソケット: Intel® Core™ i7 / Core™ i5 プロセッサ対応 Intel® Turbo Boost Technology 対応 * 詳細はASUS Web サイト (www.asus.co.jp) のCPUサポートリスト をご参照ください。
チップセット	Intel® P55 Express チップセット
メモリ	メモリ × 4 : 最大16GB, DDR3 2133 (O.C.)* / 1600 / 1333 / 1066 MHz, non-ECC, un-buffered メモリサポート デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ Intel® Extreme Memory Profile (XMP) に対応 * CPUによってはハイパーメモリ (DDR3 1800MHz 以上のメモリ) をサポートしない場合があります。 ** 詳細はASUS Web サイト (www.asus.co.jp) 、またはユーザーマ ニュアルの最新の推奨ベンダーリスト (QVL) をご参照ください。
拡張スロット	PCI Express 2.0 x16 スロット × 2 (シングル @ x16, デュアル @ x8 / x8 モード) PCI Express 2.0 x16 スロット × 1 (@ x4 モード, 2.5GT/s) PCI Express 2.0 x1 スロット × 2 (2.5GT/s) PCI スロット × 2
マルチGPUサポート	NVIDIA® Quad-GPU SLI™ Technology サポート ATI® Quad-GPU CrossFireX™ Technology サポート
記憶装置	Intel® P55 Express チップセット: - SATA 3.0 Gb/s ポート × 6 - Intel® Matrix Storage Technology : SATA RAID 0, 1, 5, 10に対応 JMicron® JMB363 SATA & PATA コントローラ: - Ultra DMA 133/100/66 × 1 : PATAデバイス2台に対応 - 外部SATA 3.0 Gb/s ポート × 1 : (SATA On-the-Go) JMicron® JMB322 コントローラ (Drive Xpert Technology) - SATA 3.0 Gb/s ポート × 2 (ダークブルーとグレー) - EZ Backup 機能と Super Speed 機能搭載 * Drive Xpert 機能はハードディスクドライブをデータドライブにす ると利用可能になります。
LAN	Dual Gigabit LAN コントローラ Realtek® 8112L / 8110SC Gigabit LAN コントローラ: AI NET2 搭載
USB	USB 2.0 ポート × 14 (ボード上に 6 基、バックパネルに 8 基)
IEEE 1394	VIA® VT6308P コントローラ: IEEE 1394a ポート 2 基に対応 (ボード上に 1 基、バックパネルに 1 基)
オーディオ	VIA® VT1828S 8チャンネルHD オーディオコーデック - Absolute Pitch BD192/24 - DTS Surround Sensation UltraPC - Jack-Detection, Multi-streaming、 Front Panel Jack-Retasking 機能対応 - コアキシャル/光デジタルS/PDIF 出力ポート (バックパネル/O)

(次項へ)

P7P55D EVO 仕様一覧

ASUS だけの機能	ASUS Hybrid Processor – TurboV EVO - Auto Tuning, TurboV, Turbo Key ASUS Hybrid Phase - T.Probe Technology: アクティブクーリング - 12+2 フェーズ電源設計 ASUS Hybrid OS – Express Gate ASUS Xtreme Design ASUS だけの機能: - ASUS Drive Xpert - MemOK! - ASUS EPU ASUS 静音サーマルソリューション: - ASUSファンレス設計: ヒートパイプソリューション - ASUS ファンレス設計: Stack Cool 3 - ASUS Fan Xpert ASUS クリスタルサウンド - ASUS ノイズフィルタリング ASUS EZ DIY - ASUS Q-Shield - ASUS Q-Connector - ASUS O.C. Profile - ASUS CrashFree BIOS 3 - ASUS EZ Flash 2 - ASUS MyLogo 2™ - 多言語 BIOS
ASUS Q-Design	ASUS Q-LED (CPU, DRAM, VGA, Boot Device LED) ASUS Q-Slot ASUS Q-DIMM
ASUS だけの オーバークロック機能	Precision Tweaker 2: - vCore: 0.00625V刻みでCPU電圧を調節 - vIMC: 0.00625V刻みでIMC電圧を調節 - vDRAM Bus: 81ステップ DRAMbus 電圧コントロール - vPCH: 2ステップ チップセット電圧コントロール - vCPU_PLL: 4ステップ リファレンス電圧コントロール SFS (Stepless Frequency Selection): - 内部ベースクロック: 1 MHz刻みで80MHz ~500 MHz - PCI Express 周波数: 1 MHz刻みで100MHz ~200MHz オーバークロック保護機能: - ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)

(次項へ)

P7P55D EVO 仕様一覧

バックパネル I/O ポート	PS/2 キーボードポート×1 (パープル) PS/2 マウスポート×1 (グリーン) Clear CMOS ボタン×1 コアキシャルS/PDIF出力×1 光デジタル S/PDIF出力×1 IEEE 1394a ポート×1 外部SATA ポート×1 LAN (RJ-45) ポート×2 USB 2.0/1.1 ポート×8 8チャンネルオーディオ I/Oポート
内部 I/O コネクタ	USBコネクタ×3 : 追加USBポート 6 基に対応 IDEコネクタ×1 SATAコネクタ×6 Drive Xpert SATA コネクタ×2 (ダークブルーとグレー) CPUファンコネクタ×1 ケースファンコネクタ×2 (4ピン×1、3ピン×1) 電源ファンコネクタ×1 IEEE1394a コネクタ×1 COMコネクタ×1 フロントパネルオーディオコネクタ S/PDIF 出力ヘッダー×1 CDオーディオ入力 24ピンATX電源コネクタ 8ピン EATX 12V 電源コネクタ システムパネル (Q-Connector) MemOK! ボタン×1 電源 (Power on) スイッチ×1 リセットスイッチ×1
BIOS機能	16 Mb Flash ROM、AMI BIOS、PnP、DMI 2.0、WfM 2.0、 SM BIOS 2.5、ACPI 2.0a、多言語BIOS、ASUS EZ Flash 2、 ASUS CrashFree BIOS 3
マネージメント機能	WfM 2.0、DMI 2.0、WOL by PME、WOR by PME、PXE
サポート DVD	各ドライバ ASUS ユーティリティ ASUS Update アンチウイルスソフトウェア (OEM 版)
フォームファクタ	ATXフォームファクタ:30.5cm ×24.4cm (12インチ× 9.6インチ)

*製品改善のため仕様は予告なく変更することがあります。

Chapter 1

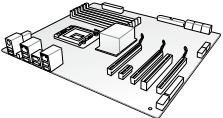
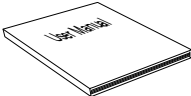

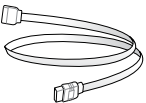

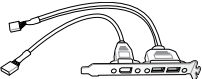
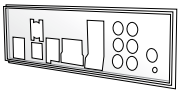

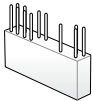
1.1 ようこそ

本マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。本マザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供するASUSの高品质マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中にリストに掲載されている部品が揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

		
ASUS P7P55D EVO マザーボード	ユーザーマニュアル	サポートDVD
		
Serial ATA 3.0 Gb/s ケーブル×4	Ultra DMA 133/100/66 ケーブル×1	2ポートUSB 2.0& 1ポート 外部SATA モジュール×1
		
ASUS Q-Shield×1	ASUS SLI™ ブリッジコネクタ×1	2イン1 ASUS Q-Connector kit×1



- 付属品が足りないときや破損しているときは、販売店様にご連絡ください。
- 本マニュアルに記載のイラスト及び写真は参考用です。モデルにより実際とは異なる場合があります。ご了承ください。

1.3 独自機能

1.3.1 製品の特長

Intel® LGA1156 Lynnfield プロセッサ対応

本マザーボードは最新のLGA1156 パッケージ Intel® Lynnfield プロセッサをサポートしています。このプロセッサは、メモリとPCI Express コントローラを統合することで、2チャンネル（メモリ4枚）DDR3メモリと16 PCI Express 2.0 を16レーンサポートすることが可能で、優れたグラフィックパフォーマンスを実現します。Intel® Lynnfield プロセッサは現在もっともパワフルで省電的なプロセッサです。（詳細：ページ 2-5 参照）

Intel® P55

Intel® P55 Express チップセットは最新のワンチップセット設計を採用し、最新の1156ソケット Intel® Core™ i7 / Core™ i5 プロセッサをサポートします。Intel P55 はシリアルポイントツーポイント型リンクを使用することでパフォーマンスを大幅に向上させ、帯域の増加とより高い安定性を実現します。

Quad-GPU SLI™ & Quad-GPU CrossFireX™ サポート

本マザーボードは、マルチGPU搭載で、SLI™ またはCrossFireX™のいずれかを選択することができます。最も強力な Intel® P55 プラットフォームを搭載し、複数のGPU構成でPCIeの割り当てを最適化します。新しいゲームスタイルをぜひ体感してください！

デュアルチャンネルDDR3 2133(O.C.) / 1600 / 1333 / 1066 サポート

本マザーボードはデータ転送率 2133(O.C.) / 1600 / 1333 / 1066 MHz の DDR3 メモリをサポートし、最新の3Dゲーム、マルチメディア、インターネットアプリケーションといった用途での高い帯域での要求を満たします。デュアルチャンネルDDR3 アーキテクチャは、システムのメモリの帯域を増強し、パフォーマンスを向上させます。（詳細：ページ 2-10 参照）

Green ASUS

このマザーボードとパッケージは、欧州連合（EU）のRoHS指令（電気電子機器の特定有害物質使用規制）の基準を充たしています。これは環境に優しきリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

1.3.2 ASUS Xtreme Design—Hybrid Processor

TurboV EVO

最適なO.C. プロセッサであらゆるレベルのオーバークロッカーを満足させる—熱狂的オーバークロッカーからビギナーまで。Auto Tuning は効果的にシステムの安定性をキープしながら最速のクロックまで持っています。Turbo Key はワンタッチでパフォーマンスを上げることができ、TurboVは上級者向けに多彩なオプションを提供します。世界記録達成も夢ではありません。

（詳細：ページ 4-11 参照）

Auto Tuning

Auto Tuning はインテリジェントなツールで、オーバークロックを自動化し、システム全体のレベルを引き上げます。安定性をテストする機能も搭載していますので、オーバークロックのビギナーでも安定したオーバークロック設定を楽しむことができます！（詳細：ページ 4-12 参照）

1.3.3 ASUS Xtreme Design—Hybrid Phase

T.Probe

T.Probe マイクロチップは、リアルタイムで電源フェイズの負荷と温度を検出し、そのバランスを保ちます。この機能は電源フェイズの機能を最適化し、コンポーネントの温度を抑えるため、結果コンポーネントの寿命が延びます。

ASUS 12+2 フェイズ電源設計

本マザーボードは驚異的な12+2 フェイズVRM設計の採用により、CPU内部の12+2 フェイズ電源設計 (vCore用12フェイズ+メモリコントローラ用2フェイズ) により、最高の電力効率を実現するため、発熱を抑えオーバークロック性能が向上します。低RDS (on) MOSFET、ヒステリシス損失の極めて少ないフェライトコアチョーク、日本製高品質導電性高分子キャパシタ等の電源コンポーネントは最高品質のものを使用しており、コンポーネントの寿命を延ばし電源のロスを最小限にすることに成功しました。その結果、優れたオーバークロックパフォーマンスを実現することができます。

1.3.4 ASUS Xtreme Design—Hybrid OS

Express Gate

ASUS独自のマザーボード内蔵型OSで、Windows を起動しなくても、インターネットや各アプリケーションが起動できます。(詳細: ページ 3-35、4-7 参照)

1.3.5 ASUSの独自機能

ASUS Drive Xpert

BIOS設定等の面倒な操作を行うことなく、HDD内のデータのセキュリティレベルを上げる、またはHDDのパフォーマンスを上げることができます。ユーザーフレンドリーなGUIにより、データのバックアップの設定、転送速度の向上ができます。それにより、毎日いつでもデータが保護されていることを確認できます。(詳細: ページ 2-33、3-33、4-9 参照)

MemOK!

コンピュータのアップグレードで悩みの種になるのがメモリの互換性ですが、MemOK! ならもう大丈夫です。MemOK! は現在最速のメモリ起動ソリューションといっても良いでしょう。このツールを使用すれば、ボタンを押すだけで、メモリの問題を解決し、システムを起動します。MemOK! を使用すれば、起動エラーを未然に解決し、システムが起動する確率を劇的に向上させることができます。(詳細: ページ 2-25 参照)

ASUS EPU

ASUS EPU (Energy Processing Unit) は PCの負荷を検出してリアルタイムで効果的かつ段階的に電力を抑えることで各コンポーネントの電力消費をリアルタイムで制御し、システムの電源管理を総合的に行います。コスト削減に効果を発揮するEPUは、オーバークロックユーザーに理想的な電源管理ソリューションと言えます。

(詳細: ページ 4-6 参照)

DTS Surround Sensation UltraPC

DTS Surround Sensation UltraPCは、より先進的な5.1サラウンド体験をご提供します。このソリューションは最も一般的なPCオーディオセットを使用し、各種のサウンド補正機能を使用することを可能とします。バーチャルサラウンドはもちろん、「バス・エンハンスメント (重低音強調)」の採用で、より力強い低周波数バスサウンドを実現します。また、「Dialogue Clarity (会話音強調)」は人間の会話音を検出して強調し、大音量のBGMでも会話をクリアに再現することが可能です。これらの技術の採用で、ホームシアターオーディオ環境がより身近に楽しめるようになります。

ASUS 静音サーマルソリューション

ASUS 静音サーマルソリューションはシステムをより安定させ、オーバークロック能力を向上させます。

ASUS ファンレス設計—ヒートパイプソリューション

ヒートパイプはvCore からの熱を効果的にバックパネルIOポートのヒートシンクに伝え、その熱はCPUファンまたは付属のオプションファンによってシステム外に排出されます。この斬新で画期的なファンレスヒートパイプは、従来のチップセットファンと違い寿命もありません。サイドフローファンやパッシブクーラーの追加も可能で、このヒートパイプデザインは最も安定したファンレスサーマルソリューションと言えます。



ヒートパイプを取り外さないでください。チューブが曲がり、放熱効果が下がる原因となります。

Fan Xpert

ASUS Fan Xpert により、気候条件や地理条件、システム負荷により変動する環境温度に対応し、効果的にCPUファン、ケースファンをコントロールすることが可能です。ファンスピードのコントロールにより、静かで適切に冷却した環境を実現します。
(詳細: ページ 4-5 参照)

ASUS EZ DIY

ASUS EZ DIY 機能は、コンピュータのコンポーネントの取り付けや、BIOS 更新、設定データのバックアップに便利な機能が満載です。

ASUS オンボードスイッチ

このスイッチを利用することで、オーバークロックの際にピンをショートさせることなくパフォーマンスのファインチューニングを可能にします。(詳細: ページ 2-24 参照)

ASUS Q-Design

ASUS Q-Design は自作をトータルサポートします。Q-LED、Q-Slot、Q-DIMM 設計により、自作が簡単スピーディーに行えます!

ASUS Q-Shield

ASUS Q-Shield は取り付けが非常に簡単で、優れた電気伝導率により、静電気と電磁波妨害によるダメージから大切なマザーボードを守ります。

ASUS Q-Connector

ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単かつ短時間で行えます。(詳細: ページ 2-40 参照)

ASUS EZ-Flash 2

数回クリックするだけでBIOSの更新が簡単に行え、OSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。(詳細: ページ 3-4 参照)

2.1 始める前に

マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。



-
- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
 - ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
 - 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置くか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
 - パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFF の位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。
-

2.2.2 レイアウトの内容

コネクタ/ジャンパ/スロット	ページ
1. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン EATX12V)	2-38
2. LGA1156 CPUソケット	2-5
3. DDR3 メモリスロット	2-10
4. DRAMオーバervoltage設定スイッチ (OV_DRAM)	2-26
5. CPUファン、ケースファン、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、4ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2、3ピン PWR_FAN)	2-36
6. Serial ポートコネクタ (10-1ピン COM1)	2-35
7. MemOK! スイッチ	2-25
8. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_EIDE)	2-31
9. Intel® P55 Serial ATA 3.0 Gb/s コネクタ (7ピン SATA1-6 [ブルー])	2-32
10. JMicron® JMB322 Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA_E1 [グレー]、7ピン SATA_E2 [ダークブルー])	2-33
11. システム/パネルコネクタ (20-8ピン PANEL)	2-39
12. USB コネクタ (10-1ピン USB910、USB1112、USB1314)	2-34
13. リセットスイッチ	2-24
14. 電源 (Power-on) スイッチ	2-24
15. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1ピン IE1394_2)	2-35
16. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)	2-34
17. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピン AAFP)	2-37
18. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF_OUT)	2-37

2.2.3 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。
下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

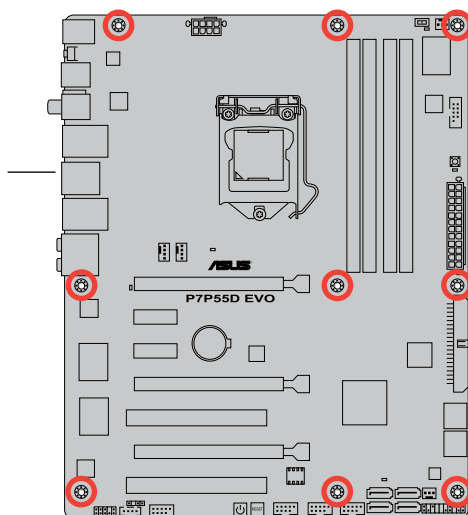
2.2.4 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの損傷の原因となります。

この面をケースの背面に
合わせます。



2.3 CPU

本製品には Intel® Core™ i7 / Core™ i5 プロセッサ用に設計された LGA1156 ソケットが搭載されています。



CPUを取り付ける際は、全ての電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

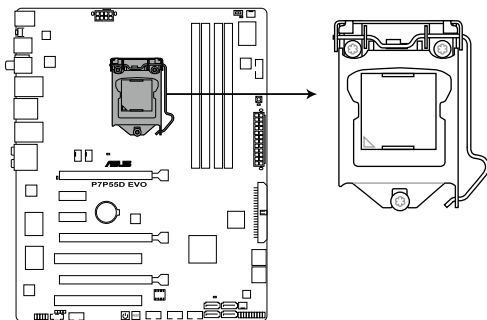


- マザーボードのご購入後すぐにソケットキャップがソケットに装着されていること、ソケットの接触部分が曲がっていないかを確認してください。ソケットキャップが装着されていない場合や、ソケットキャップ/ソケット接触部/マザーボードのコンポーネントに不足やダメージが見つかった場合は、すぐに販売店までご連絡ください。不足やダメージが出荷及び運送が原因の場合に限り、ASUSは修理費を負担いたします。
- マザーボードを取り付けた後も、ソケットキャップを保存してください。ASUSはこのソケットキャップが装着されている場合にのみ、RMA（保証サービス）を受け付けます。
- 製品保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障及び不具合には適用されません。

2.3.1 CPUを取り付ける

手順

- マザーボードの CPU ソケットの位置を確認します。

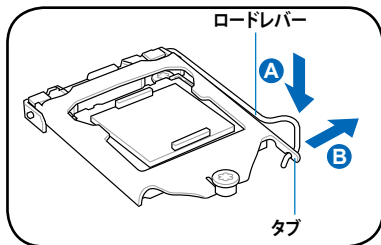


P7P55D EVO CPU LGA1156

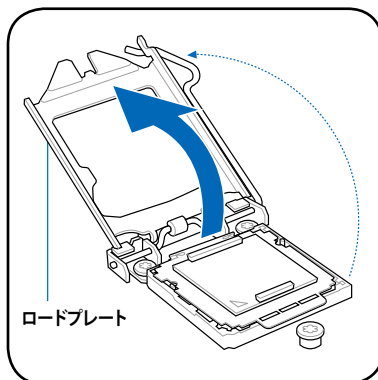
- 親指でロードレバーを押し (A)、タブから外れるまで右に動かします (B)。



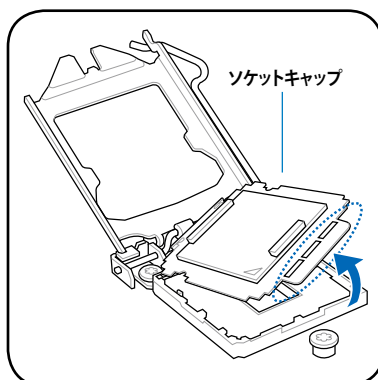
ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。



3. 矢印の方向にロードプレートを完全に持ち上げます。



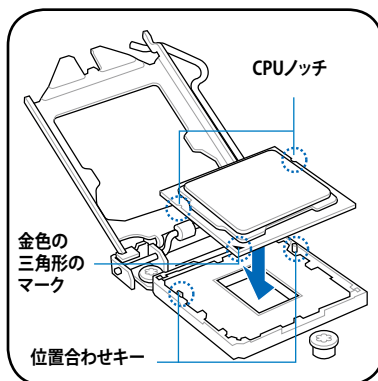
4. CPUソケットからソケットキャップを取り外します。



5. CPUに書かれている金色の三角形がソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に載せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったり合わせる必要があります。



CPUは一方方向にのみぴったり合うようになっています。CPUをソケットに無理に押し込まないでください。ソケットのコネクタが曲がる、あるいはCPUが損傷する等の原因となります。



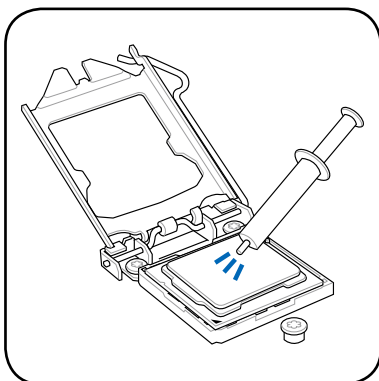
6. ヒートシンクを取り付けるため、サーマルグリスをCPUの表面に薄く均一に塗布します。



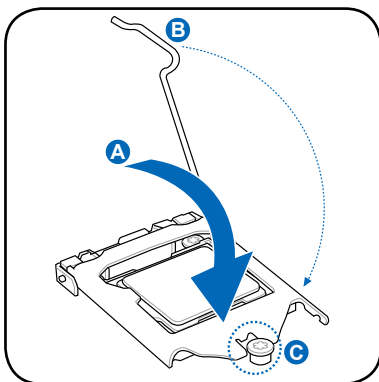
ヒートシンクによっては既にサーマルグリスが塗布されています。その場合はこの手順は行わず、次の手順に進んでください。



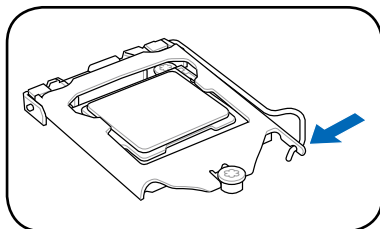
サーマルグリスは有毒物質を含んでいます。万一目に入った場合や、肌に直接触れた場合は洗浄後、すぐに医師の診断を受けてください。



7. ロードプレート (A) を閉じ、ロードレバー (B) を押し下げ、ロードプレートがノブ (C) に収まるよう、所定の位置まで戻します。



8. ロードレバーがタブに収まるまで押します。



2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® LGA1156 プロセッサ用に特別に設計されたヒートシンクとファンを組み合わせることで、効率的な冷却を行いCPUのパフォーマンスを引き出します。



- 箱入りの Intel® プロセッサを購入した場合、パッケージにはヒートシンクとファンが入っています。CPU のみをお求めになった場合、Intel® が認定したマルチディレクションヒートシンクとファンを必ずご使用ください。
- Intel® LGA1156 用のヒートシンクとファンにはプッシュピンデザインが採用されており、取り付けの際に特別な工具は必要ありません。
- LGA1156 互換の CPU ヒートシンクとファンをご使用ください。LGA1156 ソケットは LGA775 ソケットと LGA1366 ソケットとはサイズが異なり互換性がありません。



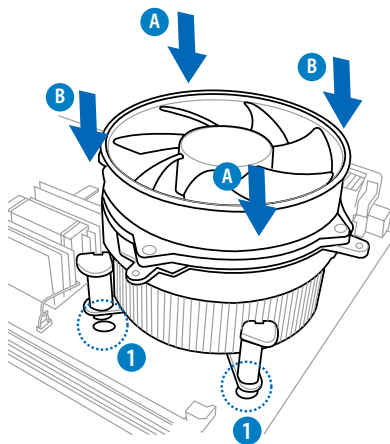
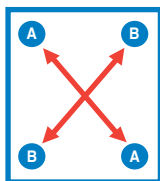
CPU ヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリスがヒートシンクまたは CPU に塗布されていることを確認してください。



組み立てに支障がない限り、CPU ファンとヒートシンクを取り付ける前に、ケースにマザーボードを取り付けてください。

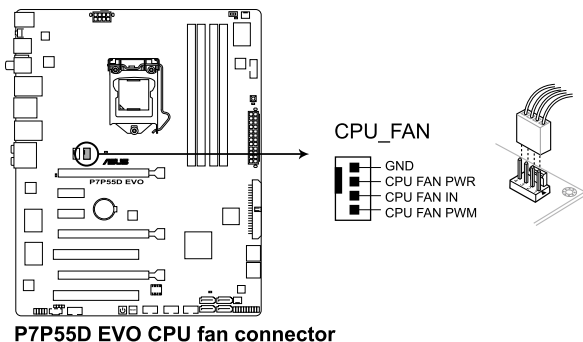
ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 4つのプッシュピンがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。
2. 対角線上にある2つのプッシュピンを同時に押し下げ、ヒートシンクとファンを正しい場所に固定します。



CPU ファンケーブルと CPU ファンコネクタをできるだけ近づけて、ヒートシンクとファンを配置してください。

3. マザーボード上のCPU_FAN コネクタにCPUファン電源ケーブルを接続します。

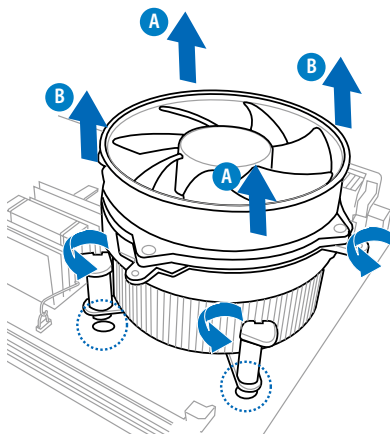
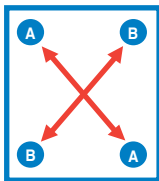


ハードウェアモニタリングエラーが発生した場合は、CPUファンの接続を再度確認してください。

2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す

手順

1. マザーボードのコネクタからCPUファンのケーブルを抜きます。
2. 各プッシュピンを左へ回します。
3. 対角線上の2つのプッシュピンを同時に引き抜いて、マザーボードからヒートシンクとファンを外します。



4. マザーボードからヒートシンクとファンを慎重に取り外します。

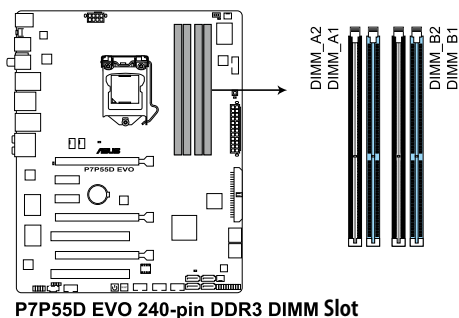
2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本製品には、DDR3 メモリに対応したメモリスロットが4基搭載されています。

DDR3メモリはDDR2メモリと同様の大きさですが、DDR2メモリスロットに誤って取り付けることを防ぐため、ノッチの部分は異なります。DDR3メモリは電力消費を抑えて性能を向上させます。

次の図は、スロットの場所を示しています。

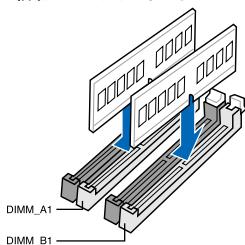


推奨メモリ構成

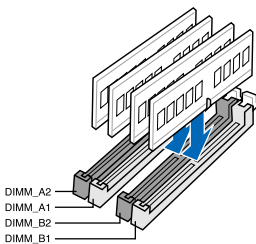
メモリ1枚:

メモリを1枚取り付ける場合は、スロットA1、B1 をご使用ください。

メモリ2枚 (デュアルチャンネルオペレーション):



メモリ4枚 (デュアルチャンネルオペレーション):



2.4.2 メモリ構成

512MB、1GB、2GB、4GB unbuffered/non-ECC DDR3 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。



- サイズの異なるメモリを Channel A と Channel B に取り付けることができます。異なる容量のメモリをデュアルチャンネル構成で取り付けただけの場合、アクセス領域はメモリ容量の合計値が小さい方のチャンネルに合わせて割り当てられ、サイズの大きなメモリの超過分に関してはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- Intel の仕様により、X.M.P. メモリ、DDR3-1600 は各チャンネルにメモリ 1 枚としてサポートされます。
- Intel CPU の仕様により、1.65V を超過する電圧の必要なメモリを取り付けると CPU が損傷することがあります。1.65V 未満の電圧を必要とするメモリを取り付けることをお勧めします。
- Intel CPU の仕様により、コア周波数 2.66G の CPU がサポートする最大メモリ周波数は DDR3-1333 です。周波数 DDR3-1333 以上のメモリと 2.66G の CPU を組み合わせて使用する際は、BIOS の **DRAM O.C. Profile** 機能を有効にしてください。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- メモリの割り当てに関する制限により、32bit Windows OS では 4 GB 以上のシステムメモリを取り付けても、OS が実際に使用できるメモリは約 3 GB またはそれ未満となります。メモリリソースを効果的にご使用いただくため、次のいずれかのメモリ構成をお勧めします。
 - Windows 32bit OS では、3 GB 以下のシステムメモリ構成にする
 - 4 GB 以上のシステムメモリ構成では、64bit Windows OS をインストールする
 詳細は Microsoft® のサポートサイトでご確認ください。
<http://support.microsoft.com/kb/929605/ja>
- 本マザーボードは 512 Mb (64MB) 以下のチップで構成されたメモリをサポートしていません。512 Mbit のメモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証致しかねます。(メモリチップセットの容量は Megabit で表し、8 Megabit/Mb=1 Megabyte/MB)



- 初期設定のメモリ動作周波数はメモリの SPD に左右されます。初期設定では、特定のメモリはオーバークロックしてもメーカーが公表する値より低い値で動作する場合があります。メーカーが公表する値、またはそれ以上の周波数で動作させる場合は、「**3.5 Ai Tweaker メニュー**」を参照し手動設定してください。
- メモリを 4 枚取り付ける場合やメモリをオーバークロックする場合は、それに対応可能な冷却システムが必要となります。

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1067MHz : CPU (2.66/2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング タイムベル(BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
CORSAIR	CMX31024-1066C7	1024MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	7	1.1	•	•	•
Crucial	CT12864BA1067.8FF	1024MB	SS	MICRON	D9KPT	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
Crucial	CT12864BA1067.85FD	1024MB	SS	MICRON	D9JNL	7		•	•	•
Crucial	CT12872BA1067.9FF	1024MB	SS	MICRON	D9KPT (ECC)	7(1066-9-9-9-25)		•	•	•
Crucial	CT25664BA1067.16FF	2048MB	DS	MICRON	D9KPT	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
Crucial	CT25664BA1067.16SFD	2048MB	DS	MICRON	D9JNL	7		•	•	•
Crucial	CT25672BA1067.18FF	2048MB	DS	MICRON	D9KPT (ECC)	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
ELPIDA	EBJ10UE8BAW0-AE-E	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
ELPIDA	EBJ11RD8BAFA-AE-E	1024MB	DS	ELPIDA	J5308BASE-AC-E (ECC)	7		•	•	•
ELPIDA	EBJ11UD8BAFA-AG-E	1024MB	DS	ELPIDA	J5308BASE-AC-E	8		•	•	•
ELPIDA	EBJ21UE8BAW0-AE-E	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
Hynix	HMT112U6AFP8C-G7N0	1024MB	SS	HYNIX	H5TQ1G83APPG7C	7		•	•	•
Hynix	HYMT112U64ZNFB-G7	1024MB	SS	HYNIX	HYSTQ1G831ZNFP-G7	7		•	•	•
Hynix	HMT125U6AFP8C-G7N0	2048MB	DS	HYNIX	H5TQ1G83APPG7C	7		•	•	•
Hynix	HYMT125U64ZNFB-G7	2048MB	DS	HYNIX	HYSTQ1G831ZNFP-G7	7		•	•	•
KINGSTON	KVR1066D3N7/1G	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	1066-7-7-7-20	1.5	•	•	•
KINGSTON	KVR1066D3N7/2G	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	1066-7-7-7-20	1.5	•	•	•
KINGSTON	KVR1066D3N7/4G	4096MB	DS	SAMSUNG	K4B2G0846B-HCF8	1066-7-7-7-20	1.5	•	•	•
MICRON	MT8JTF12864AY-1G1D1	1024MB	SS	MICRON	7VD22	7		•	•	•
MICRON	MT8JTF12864AZ-1G1F1	1024MB	SS	MICRON	8ZF22 D9KPV	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
MICRON	MT8JTF12864AZ-1G1F1	1024MB	SS	MICRON	D9KPT	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
MICRON	MT9JSF12872AZ-1G1F1	1024MB	SS	MICRON	D9KPT (ECC)	7(1066-9-9-9-25)		•	•	•
MICRON	MT16JTF25664AY-1G1D1	2048MB	DS	MICRON	7VD22	7		•	•	•
MICRON	MT16JTF25664AZ-1G1F1	2048MB	DS	MICRON	8ZF22 D9KPV	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
MICRON	MT16JTF25664AZ-1G1F1	2048MB	DS	MICRON	D9KPT	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
MICRON	MT18JSF25672AZ-1G1F1	2048MB	DS	MICRON	D9KPT (ECC)	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
SAMSUNG	M378BS273BH1-CF8	4096MB	DS	SAMSUNG	K4B2G0846B-HCF8	8(7-7-7-20)	1.5	•	•	•
Transcend	TS256MLK64V1U	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BAGB-AE-E	7(1066-7-7-7-20)		•	•	•
Asint	SLY3128M8-EAE	1024MB	SS	Asint	DDRIII1208-AE	(7-7-7-20)		•	•	•
Asint	SLZ3128M8-EAE	2048MB	DS	Asint	DDRIII1208-AE	(7-7-7-20)		•	•	•
WINTeC	3DU3191A-10	1024MB	DS	Qimonda	IDSH51-03A1F1C-10F	7		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1333MHz : CPU (2.66/2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
A-DATA	AD133301GOU	1024MB	SS	A-DATA	AD30908C8D-15IG	1333-9-9-9-24		•	•	•
A-DATA	AD1333002GOU	2048MB	DS	A-DATA	AD30908C8D-15IG	1333-9-9-9-24		•	•	•
A-DATA	AD1333002GOU	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1333-9-9-9-24)	1.65-1.85	•	•	•
Apacer	78.01GC6.420	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Apacer	78.01GC6.9L0	1024MB	SS	Apacer	AMS5D808AEWSBG	9(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Apacer	78.01GC8.422	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E (ECC)	(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Apacer	78.A1GC6.421	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E	(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Apacer	78.A1GC6.9L1	2048MB	DS	Apacer	AMS5D808AEWSBG	9(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Apacer	78.A1GC8.423	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BAGB-DJ-E (ECC)	(1333-9-9-9-24)		•	•	•
CORSAIR	TR3XG1333C9 (Ver.2.1)	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.5	•	•	•
CORSAIR	CMX31024-1333C9DHX	1024MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)	1.1	•	•	•
CORSAIR	BoxP/NTW1N3X2048-1333C9 (CMX31024-1333C9) Ver1.1	2048MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.70	•	•	•
CORSAIR	BoxP/NTW3X4G1333C9DHX (CMX32048-1333C9DHX) Ver3.2	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.70	•	•	•
CORSAIR	TR3XG61333C9 (Ver.2.1)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.5	•	•	•
Crucial	CT12864BA1339.8FF	1024MB	SS	MICRON	D9KPT	9(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Crucial	CT12864BA1339.85FD	1024MB	SS	MICRON	MT8JF12864AY-1G4D1	(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Crucial	CT12872BA1339.9FF	1024MB	SS	MICRON	D9KPT (ECC)	9(1333-9-9-9-24)		•	•	•
Crucial	CT25664BA1339.16FF	2048MB	DS	MICRON	D9KPT	9(1333-9-9-9-24)		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1333MHz : CPU (2.66/2.8/2.93GHz) (続き)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Crucial	CT25672BA1339.18FF	2048MB	DS	MICRON	D9KPT (ECC)	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Crucial	BL25664BA1336.16SFB1	4096MB (Kit of 2)	DS	NA	Heat-Sink Package	6-6-6-20 (1333-9-9-9-24)	1.8	*	*	*
ELPIDA	EBJ10UE8BAW0-DJ-E	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BARG-DJ-E	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
ELPIDA	EBJ21UE8BAW0-DJ-E	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BARG-DJ-E	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
G.SKILL	F3-10600CL7D-2GBPI	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1337-7-7-7-18)	1.65	*	*	*
G.SKILL	F3-10600CL8D-2GBHK	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1337-8-8-8-22)	1.65	*	*	*
G.SKILL	F3-10666CL7T-6GBPK (XMP)	2048MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-18 (1333-7-7-7-18)	1.5-1.6	*	*	*
G.SKILL	F3-10666CL8D-4GBHK (XMP)	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-21 (1333-7-7-7-20)	1.5-1.6	*	*	*
G.SKILL	F3-10666CL9T-6GBNQ	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.5	*	*	*
GEIL	GV34GB1333C7DC	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-24 (1333-8-8-8-28)	1.5	*	*	*
Hynix	HMT112U6BFR8C-H9	1024MB	SS	Hynix	H5TQ1G83BFR	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Hynix	HMT125U6BFR8C-H9	2048MB	DS	Hynix	H5TQ1G83BFR	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Hynix	HMT125U6BFR8C-H9	2048MB	DS	Hynix	H5TQ1G83BFRH9C	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
KINGMAX	FLFD45F-8BEEF	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BASE-DJ-E	(1333-9-9-9-24)		*	*	*
KINGSTON	KVR1333D3N9/1G	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BARG-DJ-E	9 (1066-8-7-7-20)	1.5	*	*	*
KINGSTON	KVR1333D3N9/2G	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BARG-DJ-E	(1333-9-9-9-24)	1.5	*	*	*
KINGSTON	KVR1333D3N9/2G	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BARG-DJ-E	9 (1066-8-7-7-20)	1.5	*	*	*
MICRON	MT8JTF12864AY-1G4BYES	1024MB	SS	MICRON	Z9HWR	(1333-9-9-9-24)		*	*	*
MICRON	MT8JTF12864AZ-1G4F1	1024MB	SS	MICRON	9FF22 D9KPT	9 (1066-8-8-8-20)		*	*	*
MICRON	MT8JTF12864AZ-1G4F1	1024MB	SS	MICRON	D9KPT	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
MICRON	MT9J5F12872AZ-1G4F1	1024MB	SS	MICRON	D9KPT (ECC)	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
MICRON	MT116JF25664AZ-1G4F1	2048MB	DS	MICRON	D9KPT	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
MICRON	MT116JF25664AZ-1G4F1	2048MB	DS	MICRON	9FF22 D9KPT	9 (1066-8-8-8-20)		*	*	*
MICRON	MT118JF25672AZ-1G4F1	2048MB	DS	MICRON	D9KPT (ECC)	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
OCZ	OC23RPX1333EB2GK	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1066-6-5-5-20)		*	*	*
OCZ	OC23G1333LVGK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9 (1066-7-7-7-20)	1.65	*	*	*
OCZ	OC23P1333LVGK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1066-7-7-7-16)	1.65	*	*	*
OCZ	OC23P13332GK	1024MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
OCZ	OC23P13334GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7 (1333-7-7-7-20)	1.8	*	*	*
OCZ	OC23G1333LVGK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9 (1066-7-7-7-20)	1.65	*	*	*
OCZ	OC23P1333LVGK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1066-7-7-7-20)	1.65	*	*	*
OCZ	OC2X1333LV6GK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	NA	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-16)	1.6	*	*	*
SAMSUNG	M37882873DZ1-CH9	1024MB	SS	SAMSUNG	K4B1G0846D	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
SAMSUNG	M37882873EH1-CH9	1024MB	SS	SAMSUNG	K4B1G0846E	1066-8-7-7-20		*	*	*
SAMSUNG	M39182873DZ1-CH9	1024MB	SS	SAMSUNG	K4B1G0846D (ECC)	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
SAMSUNG	M37885673DZ1-CH9	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G0846D	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
SAMSUNG	M37885673EH1-CH9	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G0846E	1066-8-7-7-20		*	*	*
SAMSUNG	M39185673DZ1-CH9	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G0846D (ECC)	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
SAMSUNG	M37885273BH1-CH9	4096MB	DS	SAMSUNG	K4B2G0846B-HCH9	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Super Talent	W1333UX2GB (XMP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8 (1333-8-8-8-24)	1.8	*	*	*
Transcend	TS128MLK64V3U	1024MB	SS	SAMSUNG	K4B1G0846D	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Transcend	TS256MLK64V3U	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G0846D	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Asint	SLY3128M8-EDJ	1024MB	SS	Asint	DDR111208-DJ	(9-9-9-24)		*	*	*
Asint	SLY3128M8-EDJE	1024MB	SS	ELPIDA	J1108BASE-DJ-E	1066-8-8-8-20		*	*	*
Asint	SLZ3128M8-EDJ	2048MB	DS	Asint	DDR111208-DJ	(9-9-9-24)		*	*	*
Asint	SLZ3128M8-EDJE	2048MB	DS	ELPIDA	J1108BASE-DJ-E	1066-8-8-8-20		*	*	*
ASUS	N/A	1024MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)		*	*	*
BUFFALO	FSX1333D3G-1G	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1066-7-7-7-20)		*	*	*
BUFFALO	FSH1333D3G-T3G (XMP)	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-8-7-7-20)		*	*	*
BUFFALO	FSX1333D3G-2G	2048MB	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1066-7-7-7-20)		*	*	*
Patriot	POC32G1333LLK	1024MB	SS	PATRIOT	Heat-Sink Package	7 (1337-7-7-7-20)	1.7	*	*	*
Patriot	PVT3G1333ELK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	*	*	*
Patriot	PVS34G1333ELK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.5	*	*	*
Patriot	PVS34G1333LLK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-7-7-7-20)	1.7	*	*	*
Patriot	PVT36G1333ELK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	*	*	*
Silicon Power	SP001GBLTU133502	1024MB	SS	S-POWER	I0YT3E0	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*
Silicon Power	SP002GBLTU133502	2048MB	DS	S-POWER	I0YT3E0	9 (1333-9-9-9-24)		*	*	*

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-1600MHz : CPU (2.66GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/ DS	チップ ブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
A-DATA	AD31600E001GMU	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1333-9-9-9-24)	1.65-1.85	•	•	•
A-DATA	AD31600F002GMU (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1333-9-9-9-24)	1.75-1.85	•	•	•
CORSAIR	TR3X3G1600C8D (XMP) Ver2.1	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1601-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3X3G1600C8D	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1600-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3X3G1600C9 (XMP) Ver1.1	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1601-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	Box/P:TW3X4G1600C9DHXNV (CM3X2G1600C9DHHNV) Ver4.1	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)	1.80	•	•	•
CORSAIR	TR3X6G1600C8D (XMP) Ver2.1	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1601-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3X6G1600C8D	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1600-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3X6G1600C9 (XMP) Ver2.1	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
Crucial	BL12864BA1608.8SFB (XMP)	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1601-8-8-8-24)	1.8	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL9D-2GBNQ	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)	1.6	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL8T-6GBHK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-21 (1333-8-8-8-21)	1.6-1.65	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL8T-6GBPI (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-21 (1066-8-8-8-20)	1.6~1.65	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL9T-6GBNQ	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1601-9-9-9-24)	1.5-1.6	•	•	•
GEIL	GV34GB1600C8DC	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-28 (1600-8-8-8-28)	1.6	•	•	•
KINGMAX	FLGD45F-8BK9G-NAES	1024MB	SS	KINGMAX	KFB8FNGXF-ANX-12A	9 (1600-9-8-9-28)	1.5	•	•	•
KINGMAX	FLGEB5F-8BK9G-NEES	2048MB	DS	KINGMAX	KFB8FNGXF-ANX-12A	9 (1600-9-8-9-28)	1.5	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3LLK3/3GX (XMP)	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	1600-8-8-8-20	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3K2/4G	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3LLK3/6GX (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600EB1G	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-6-6-24 (1333-7-7-7-20)		•	•	•
OCZ	OCZ3G1600LV3GK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600LV3GK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P16004GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1333-7-7-7-20)	1.9	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600E84GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-6 (1333-7-7-7-20)	1.8	•	•	•
OCZ	OCZ3G1600LV6GK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-16)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3X1600LV6GK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-16)	1.65	•	•	•
Cell Shock	CS322271	2048MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-14 (1066-7-7-7-20)	1.7-1.9	•	•	•
Mushkin	996657	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20		•	•	•
Mushkin	998659 (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.5-1.6	•	•	•
Patriot	PVT33G1600ELK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
Patriot	PVS34G1600ELK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.8	•	•	•
Patriot	PVS34G1600LLK (XMP)	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-7-7-7-20)	1.9	•	•	•
Patriot	PVS34G1600LLKN	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-7-7-7-20)	2.0	•	•	•
Patriot	PVT36G1600ELK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
Patriot	PVT36G1600ELK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1600-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
PQI	MFADR401PA0102 (XMP)	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G08460	1066-8-8-8-20		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1600MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/ DS	チップ ブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
A-DATA	AD31600E01GMU	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1333-9-9-9-24)	1.65-1.85	•	•	•
A-DATA	AD31600F02GMU (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1333-9-9-9-24)	1.75-1.85	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C8D (XMP) Ver.2.1	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1601-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C8D	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1600-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C9 (XMP) Ver.1.1	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1601-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	BoxP/N-TW3X4G1600C9DHXNV (CM3X2G1600C9DHXNV) Ver.4.1	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)	1.80	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C8D (XMP) Ver.2.1	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1601-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C8D	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1600-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
CORSAIR	TR3XG1600C9 (XMP) Ver.2.1	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
Crucial	BL12864BA1608.85FB (XMP)	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	(1601-8-8-8-24)	1.8	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL9D-2GBNQ	2048MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1333-9-9-9-24)	1.6	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL8T-6GBHK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-21 (1333-8-8-8-21)	1.6-1.65	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL8T-6GBPI (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-21 (1066-8-8-8-21)	1.6~1.65	•	•	•
G.SKILL	F3-12800CL9T-6GBNQ	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1601-9-9-9-24)	1.5-1.6	•	•	•
GILL	GV34GB1600C8DC	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-28 (1600-8-8-8-28)	1.6	•	•	•
KINGMAX	FLGD45F-B8KG9-NAES	1024MB	SS	KINGMAX	KFB8FNGXF-ANX-12A	9 (1600-9-8-9-28)	1.5	•	•	•
KINGMAX	FLG85F-B8KG9-NEES	2048MB	DS	KINGMAX	KFB8FNGXF-ANX-12A	9 (1600-9-8-9-28)	1.5	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3LLK3/3GX (XMP)	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	1600-8-8-8-20	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3K3/12GX (XMP)	12288MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1066-9-9-9-24)		•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3K2/4G	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX12800D3LLK3/6GX (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	(1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600EB1G	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-6-6-24 (1333-7-7-7-20)		•	•	•
OCZ	OCZ3G1600LV3GK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600LV3GK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3P16004GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7 (1333-7-7-7-20)	1.9	•	•	•
OCZ	OCZ3P1600EB4GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-6 (1333-7-7-7-20)	1.8	•	•	•
OCZ	OCZ3X16004GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20	1.9	•	•	•
OCZ	OCZ3G1600LV6GK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-16)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3X1600LV6GK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1600-8-8-8-24)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3X1600LV6GK (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8 (1066-7-7-7-16)	1.65	•	•	•
Super Talent	WB160UX6GB (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	1333-8-8-8-24		•	•	•
Cell Shock	CS322271	2048MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-14 (1066-7-7-7-20)	1.7-1.9	•	•	•
Mushkin	996657	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20		•	•	•
Mushkin	998659 (XMP)	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1333-9-9-9-24)	1.5-1.6	•	•	•
Patriot	PVT33G1600ELK	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
Patriot	PV534G1600ELK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.8	•	•	•
Patriot	PV534G1600LLK (XMP)	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-7-7-7-20)	1.9	•	•	•
Patriot	PV534G1600LLN	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-7-7-20 (1066-7-7-7-20)	2.0	•	•	•
Patriot	PVT36G1600ELK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
Patriot	PVT36G1600ELK	6144MB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1600-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
PQI	MFADR401PA0102 (XMP)	2048MB	DS	SAMSUNG	K4B1G08460	1066-8-8-8-20		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-1625MHz : CPU (2.66GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GN (EPP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GX (XMP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GXN	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-1625MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GN (EPP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GX (XMP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX13000D3LLK2/2GXN	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-1800MHz : CPU (2.66GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Apacer	78.0AGCD-CDZ (XMP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1800-8-8-8-24)	1.8	•	•	
CORSAIR	BoxP/N:TW3X4G1800C8DF (CM3X2G1800C8D) Ver4.1	4GB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24	1.80	•	•	
KINGSTON	KHX14400D3/1G	1GB	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	
KINGSTON	KHX14400D3K2/2GN (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	•
KINGSTON	KHX14400D3K3/3GX (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	1800-9-9-9-27	1.65	•	•	
OCZ	OCZ3P18002GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8		•		
OCZ	OCZ3P18004GK	4GB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8	1.9	•	•	
Transcend	TX1800KLU-2GK (XMP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8		•	•	•
Patriot	PVS32G1800LLKN (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-20 (1066-7-7-7-20)	1.9	•	•	

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-1800MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Apacer	78.0AGCD-CDZ (XMP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1800-8-8-8-24)	1.8	•	•	
CORSAIR	BoxP/N:TW3X4G1800C8DF (CM3X2G1800C8D) Ver4.1	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24	1.80	•	•	
KINGSTON	KHX14400D3/1G	1024MB	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	
KINGSTON	KHX14400D3K2/2GN (EPP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		1.9	•	•	
KINGSTON	KHX14400D3K3/3GX (XMP)	3072MB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	1800-9-9-9-27	1.65	•	•	
OCZ	OCZ3P18002GK	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8		•	•	
OCZ	OCZ3P18004GK	4096MB (Kit of 2)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8	1.9	•	•	
Transcend	TX1800KLU-2GK (XMP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8		•	•	
Patriot	PVS32G1800LLKN (EPP)	2048MB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-20 (1066-7-7-7-20)	1.9		•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1866MHz : CPU (2.66GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/ DS	チップ ブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Apacer	78.0AGCQ,CBZ (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-27 (1066-8-8-8-20)		•		
Crucial	BL12864BE2009.85FB3 (EPP)	1GB	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-28 (1333-9-9-9-24)	2	•	•	•
G.SKILL	F3-1600CL7T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-8-7-20 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	
G.SKILL	F3-1600CL9T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	
KINGSTON	KHX16000D3K2/2GN (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		2.0	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3K3/3GX (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3ULT1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3T1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3FXT20002GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8	1.9	•	•	
OCZ	OCZ3P20002GK (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9	1.9	•	•	
OCZ	OCZ3P2000EB2GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-8-8 (1066-8-7-7-20)	1.8	•	•	
Gingie	9CAASS37AZZ01D1	2GB	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-1866MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/ DS	チップ ブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
CORSAIR	TR3XG1866C9D (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1866-9-9-9-24)	1.65	•	•	
CORSAIR	TR3XG6G1866C9D	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1866-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX14900D3K3/3GX (XMP)	3GB	SS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	
OCZ	OCZ3RPR1866C9LV3GK	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	
OCZ	OCZ3RPR1866C9LV6GK	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9 (1066-7-7-7-20)	1.65	•	•	•
Super Talent	W1866LX2GB (XMP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1333-9-9-9-24)		•	•	•
Patriot	PV532G1866LLK (XMP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1066-7-7-7-20)	1.9		•	
Patriot	PV532G1866LLK (XMP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8-8-8-24 (1866-8-8-8-24)	1.9	•	•	

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR3-2000MHz : CPU (2.66GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/ DS	チップ ブランド	チップNO.	タイミング メモリ (BIOS)	電圧	メモリスロット サポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Apacer	78.0AGCQ,CBZ (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-27 (1066-8-8-8-20)		•		
Crucial	BL12864BE2009.85FB3 (EPP)	1GB	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-28 (1333-9-9-9-24)	2	•	•	•
G.SKILL	F3-1600CL7T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-8-7-20 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	
G.SKILL	F3-1600CL9T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	
KINGSTON	KHX16000D3K2/2GN (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		2.0		•	•
KINGSTON	KHX16000D3K3/3GX (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3ULT1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3T1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3FXT20002GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8	1.9	•	•	
OCZ	OCZ3P20002GK (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9	1.9	•	•	
OCZ	OCZ3P2000EB2GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-8-8 (1066-8-7-7-20)	1.8	•	•	
Gingie	9CAASS37AZZ01D1	2GB	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24		•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-2000MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミングメモリー (BIOS)	電圧	メモリスロットサポート (オプション)		
								A*	B*	C*
Apacer	780AGCQCBZ (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-27 (1066-8-8-8-20)		•	•	•
Crucial	BL12864BE2009.8SFB3 (EPP)	1GB	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-28 (1333-9-9-9-24)	2	•	•	•
G.SKILL	F3-16000CL7T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	7-8-7-20 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
G.SKILL	F3-16000CL9T-6GBPS (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3K2/2GN (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package		2.0	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3K3/3GX (XMP)	3GB (Kit of 3)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1333-9-9-9-24)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3ULT1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	8 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
KINGSTON	KHX16000D3T1K3/6GX (XMP)	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9 (1066-8-8-8-20)	1.65	•	•	•
OCZ	OCZ3PXT20002GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	8	1.9	•	•	•
OCZ	OCZ3P20002GK (EPP)	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9	1.9	•	•	•
OCZ	OCZ3P2000EB2GK	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-8-8 (1066-8-7-7-20)	1.8	•	•	•
Gigabyte	9CAAS537AZZ01D1	2GB	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24		•	•	•
Patriot	PV532G2000LLKN	2GB (Kit of 2)	SS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-7-7-7-20)	2	•	•	•

P7P55D EVO マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR3-2133MHz : CPU (2.8/2.93GHz)

ベンダー	パーツNo.	サイズ	SS/DS	チップブランド	チップNO.	タイミングメモリー (BIOS)	電圧	メモリスロットサポート (オプション)		
								A*	B*	C*
G.SKILL	F3-17066CL9T-6GB-T	6GB (Kit of 3)	DS	N/A	Heat-Sink Package	9-9-9-24 (1066-8-7-7-20)	1.65	•	•	•



SS-シングルサイド / DS-ダブルサイド

メモリサポート:

- **A*:** 1組のシングルチャンネルメモリ構成として1枚のメモリをスロットA1またはB1に取り付けることが可能。
- **B*:** 1組のデュアルチャンネルメモリ構成として2枚のメモリをブルーのスロット (A1とB1) に取り付けることが可能。
- **C*:** 2組のデュアルチャンネルメモリ構成として4枚のメモリをブルーとブラックのスロットA1とB1に取り付けることが可能。



- ハイパーメモリ (DDR3 1800MHz 以上のメモリ) のサポートはASUSのみです。
- ハイパーメモリのサポートは、CPUの物理的性質に左右されます。
- インテルの仕様では、DDR3-1600 メモリは各チャンネルに1枚のサポートとなりますが、ASUSの独自機能として、DDR3-1600 メモリを各メモリチャンネルに2枚取り付けることが可能です。
- Intel CPUの仕様により、コア周波数 2.66GのCPUがサポートする最大メモリ周波数はDDR3-1333 です。周波数DDR3-1333以上のメモリと2.66GのCPUを組み合わせる際は、BIOSの**DRAM O.C. Profile** 機能を有効にしてください。
- 最新のQVLはASUSのWeb サイトをご覧ください。(http://www.asus.co.jp)

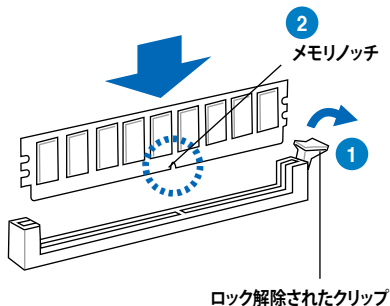
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが損傷する原因となります。

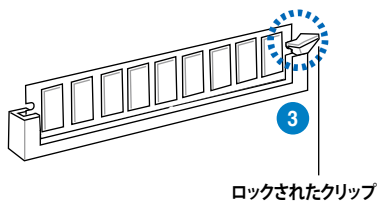
手順

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。



メモリは取り付け向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

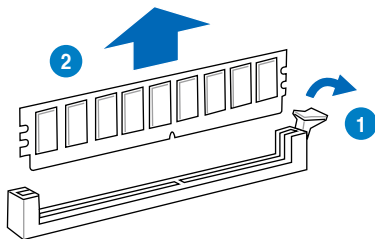
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが損傷する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter3をご参照ください。
2. IRQ（割り込み要求）番号をカードに合わせます。次ページの表をご参照ください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバが IRQ の共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。詳細は次項の表をご参照ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	–	IRQ#9 にリダイレクト
4	12	通信ポート (COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	不使用
7	15	不使用
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	不使用
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル

* 上記のIRQはPCIデバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIEx16_1	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIEx16_2	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIEx16_3	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIEx1_1	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIEx1_2	–	共有	–	–	–	–	–	–
LAN1 (8112)	–	–	–	共有	–	–	–	–
LAN2 (8110)	–	–	–	共有	–	–	–	–
JMicron ATAコントローラ	–	–	共有	–	–	–	–	–
SATAコントローラ1	–	–	–	–	–	共有	–	–
SATAコントローラ2	–	–	–	–	–	共有	–	–
USB 2.0コントローラ 1	–	–	–	–	–	–	–	共有
USB 2.0コントローラ 2	共有	–	–	–	–	–	–	–
1394コントローラ	–	–	共有	–	–	–	–	–
HDオーディオ	–	–	–	–	–	–	共有	–
PCI_1	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCI_2	–	共有	–	–	–	–	–	–

2.5.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。

2.5.5 PCI Express 2.0 x1 スロット (2.5GT/s)

PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード等の PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。

2.5.6 PCI Express 2.0 x16 スロット

PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 2.0 ビデオカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。



PCI スロット 2

PCIe 2.0 x16_3 スロット (ブラック、@ x4 リンク、2.5GT)

PCI スロット 1

PCIe 2.0 x16_2 スロット (グレー、@ x8 リンク)

PCI Express x1_2 スロット

PCI Express x1_1 スロット

PCIe 2.0 x16_1 スロット (ブルー、シングル @ x16、またはデュアル @ x8 リンク)

VGA構成	PCI Express 動作モード		
	PCIe x16_1	PCIe x16_2	PCIe x16_3
シングルVGA/PCIe カード	x16 (VGAカード 1 枚 に推奨)	N/A	x4 (PCIe card)
デュアルVGA/PCIe カード	x8	x8	x4
トリプルVGA/PCIe カード	x8	x8	x4



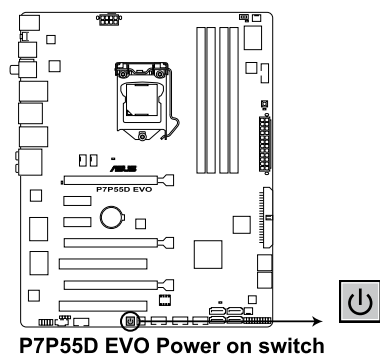
- パフォーマンスの観点からシングルVGAモードでは、PCI Express x16 ビデオカードをPCIe 2.0 x16_1 スロット (ブルー) に取り付けることを推奨します。
- パフォーマンスの観点からCrossFireX™ またはSLI™ モードでは、PCI Express x16 ビデオカードを PCIe 2.0 x16_1 (ブルー) スロットとPCIe 2.0 x16_2 (グレー) スロットに取り付けることを推奨します。
- Triple CrossFireX™ モードでは、3 基のPCIe 2.0 x16 スロットをご使用ください。
- CrossFireX™ モードまたはSLI™モードでは、十分な電源装置をご用意ください。
(詳細: ページ 2-38 参照)
- 複数のビデオカードを使用する場合は、熱管理の観点からケースファンをマザーボードコネクタ CHA_FAN1/2 に接続してください。(詳細: ページ 2-36 参照)

2.6 オンボードスイッチ

ベアシステムまたはオープンケースシステムでの作業中に、パフォーマンスを微調整することができます。このスイッチはシステムパフォーマンスを頻繁に変更するオーバークロックユーザー、ゲーマーに理想的なソリューションです。

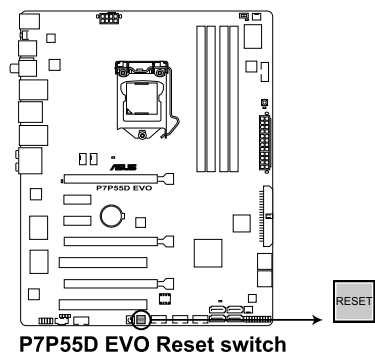
1. 電源スイッチ (Power-on switch)

本マザーボードには電源スイッチが搭載されており、システムの電源をONにする、またはウェイクアップすることができます。また、このスイッチはシステムが電源に接続されているときも点灯します。マザーボードコンポーネントを取り外す際にこのスイッチが点灯している場合は、システムをシャットダウンし電源ケーブルを取り外してください。電源スイッチの場所は下の図で確認ください。



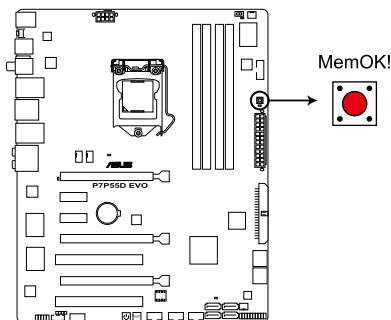
2. リセットスイッチ

このスイッチを押すと、システムが再起動します。



3. MemOK! スイッチ

本マザーボードと互換性のないメモリを取り付けると、システムが起動せず、このスイッチの隣にあるDRAM_LEDが点灯します。DRAM_LEDが点滅するまでこのスイッチを押し続けると、互換性が調整され、起動する確率が上がります。



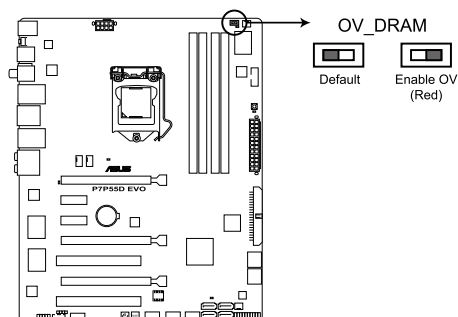
P7P55D EVO MemOK! switch



- DRAM_LEDの正確な位置は、セクション「2.8 オンボードLED」でご確認ください。
- DRAM_LEDはメモリが正しく取り付けられていない場合も点灯します。MemOK! 機能を利用する前にシステムの電源をOFFにし、メモリを正しく取り付けてください。
- MemOK! スイッチはWindows™ OS 環境では機能しません。
- 調整作業中は、システムはフェイルセーフメモリ設定をロードしテストを実行します。1つのフェイルセーフ設定のテストには約30秒かかります。テストに失敗した場合、システムは再起動し次のフェイルセーフ設定のテストを実行します。DRAM_LEDの点滅が速くなった場合は、異なるテストが実行されていることを示します。
- メモリ調整を行うため、各タイミング設定のテスト実行時にシステムは自動的に再起動します。なお、調整作業が終了しても取り付けたメモリで起動しない場合は、DRAM_LEDが点灯し続けます。その場合はメモリ推奨リストに記載のメモリをご使用ください。メモリ推奨リストは本書または弊社サイト (<http://www.asus.co.jp>) でご確認ください。
- 調整作業中にコンピュータの電源をOFFにする、またはメモリ交換するなどした場合、システム再起動後にメモリ調整作業を続行します。調整作業を終了するには、コンピュータの電源をOFFにし、電源コードを5秒から10秒取り外してください。
- BIOSでのオーバークロック設定によりシステムが起動しない場合は、MemOK! スイッチを押してシステムを起動しBIOSの初期設定値をロードしてください。POSTでBIOSが初期設定値に復元されたことが表示されます。
- MemOK! 機能をご利用の際は、事前にBIOSを最新バージョンに更新することをお勧めします。最新BIOSは弊社サイトにて公開しております。 (<http://www.asus.co.jp>)

4. DRAMオーバervoltage設定スイッチ (OV_DRAM)

BIOSのDRAMオーバervoltage設定の有効/無効を設定するためのものです。スイッチの設定変更の際は事前に本項の記載をご参照ください。



P7P55D EVO DRAM overvoltage setting

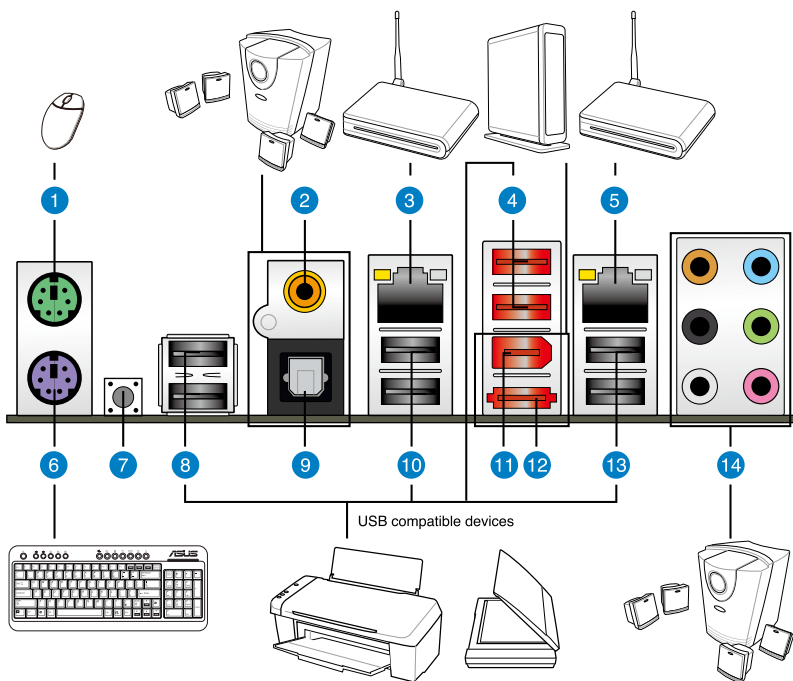
OV_DRAM	
初期設定値	最大 2.0V
OV有効時(レッド)	最大 2.5V



- 電圧を高く設定するために設定を変更する前に、まずBIOSの項目でDRAMのパフォーマンスを調節してください。BIOS電圧設定を最大にした場合でも、システムの機能が良好であることを確認してからスイッチの設定を変更してください。
- Intel CPUの仕様により、1.65Vを超過する電圧の必要なメモリを取り付けると、CPUが損傷することがあります。1.65V未満のメモリを取り付けることをお勧めします。
- 高い電圧に設定した場合、システムの安定を考慮した冷却システム(水冷クーラー等)を構築してください。

2.7 コネクタ

2.7.1 バックパネルコネクタ



バックパネルコネクタ

1. PS/2 マウスポート (グリーン)	8. USB 2.0 ポート 7 と 8
2. コアキシャルS/PDIF出力ポート	9. 光デジタルS/PDIF出力ポート
3. LAN (RJ-45) ポート 2*	10. USB 2.0 ポート 3 と 4
4. USB 2.0 ポート 5 と 6	11. IEEE 1394a ポート
5. LAN (RJ-45) ポート 1*	12. 外部SATAポート
6. PS/2 キーボードポート (パープル)	13. USB 2.0 ポート 1 と 2
7. Clear CMOSスイッチ	14. オーディオ I/O ポート**

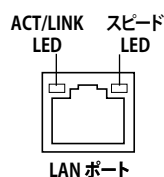
「*」、「**」: LANポートとオーディオポートの定義は次項の表をご参照ください。



- 外部SATAポートには専用のコネクタのみをご使用ください。
- 外部SATAデバイスのホットプラグ機能を有効にするには、BIOSの「**J-Micron eSATA/ PATA Controller**」を [AHCI Mode] にし、システムを再起動します。詳細はセクション「**3.6.3 オンボードデバイス設定構成**」をご参照ください。
- オーバークロックが原因でシステムが停止した場合のみ、Clear CMOSスイッチを押して BIOS Setup 情報をクリアしてください。

*LAN ポート LED

Activity Link LED		スピードLED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
オレンジ	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps

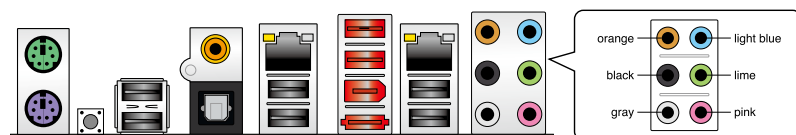


** オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロント スピーカー出力	フロント スピーカー出力	フロントスピーカー 出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	-	-	センター/ サブウーファ	センター/ サブウーファ
ブラック	-	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	-	-	-	サイドスピーカー 出力

2.7.2 オーディオ I/O接続

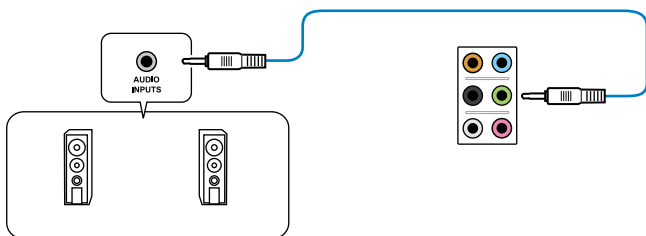
オーディオ I/O ポート



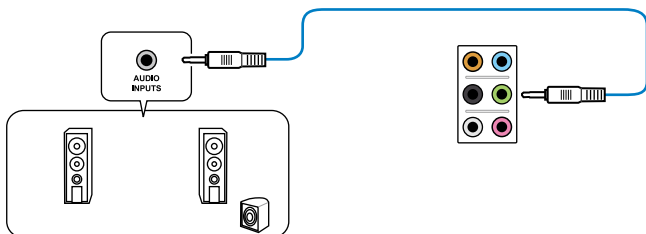
ヘッドホンとマイクを接続



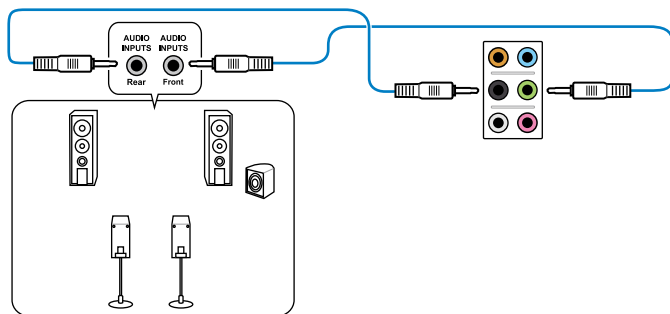
ステレオスピーカーに接続



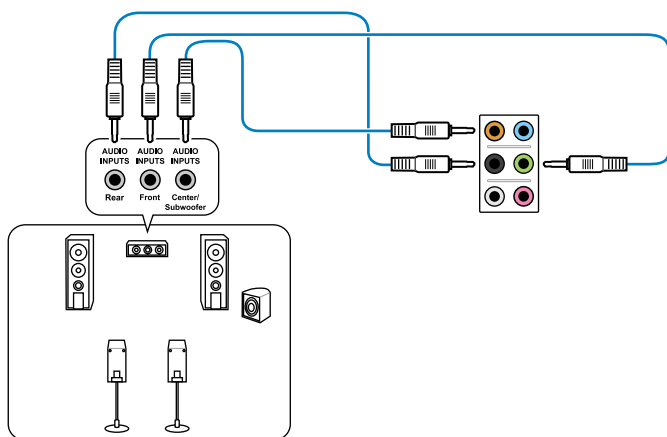
2.1 チャンネルスピーカーに接続



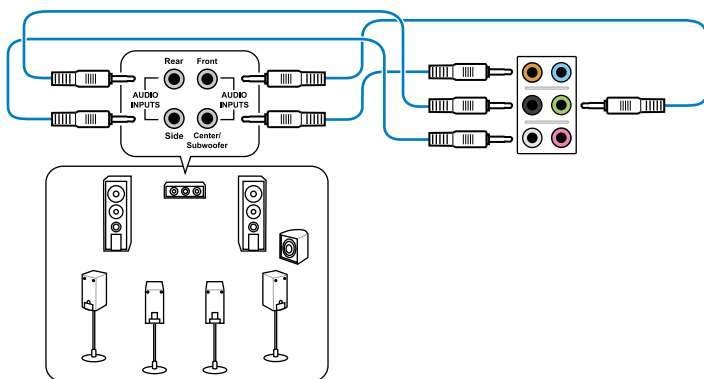
4.1 チャンネルスピーカーに接続



5.1 チャンネルスピーカーに接続



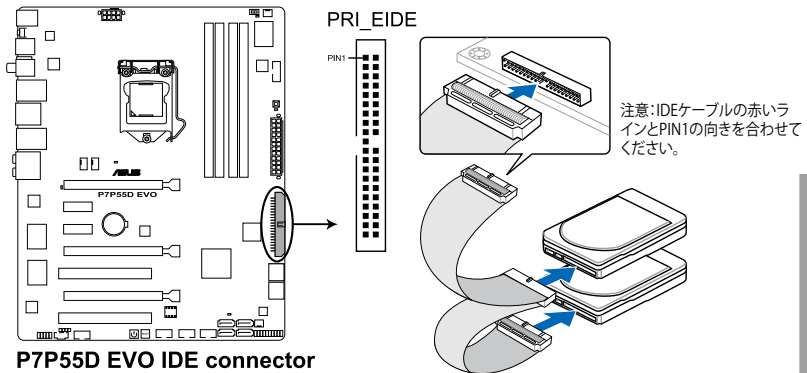
7.1 チャンネルスピーカーに接続



2.7.3 内部コネクタ

1. IDEコネクタ (40-1ピン PRI_EIDE)

Ultra DMA 133/100/66ケーブル用です。各Ultra DMA 133/100/66ケーブルにはブルー、グレー、ブラックの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。



	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラックまたは
	スレーブ	スレーブ	グレー



- 該当箇所がふさがれているUltra DMAケーブルに対応するため Pin 20は取り外されています。誤った方向でIDEケーブル接続を防ぐ措置です。



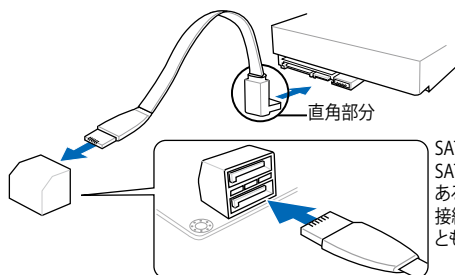
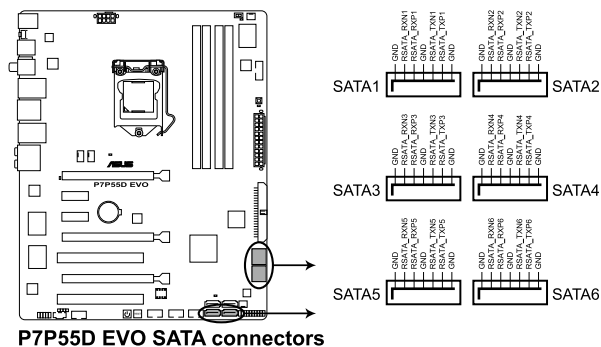
- Ultra DMA 133/100/66 IDEデバイスの場合は、80 conductor IDEケーブルを使用します。

あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。

2. Intel® P55 Serial ATAコネクタ (7ピン SATA 1-6)

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブと光学ディスクドライブに使用します。

Serial ATA HDDを取り付けた場合は、Intel® Matrix Storage Technology 対応のオンボード Intel® P55チップセットを使用して、RAID 0、1、5、10を構築することができます。



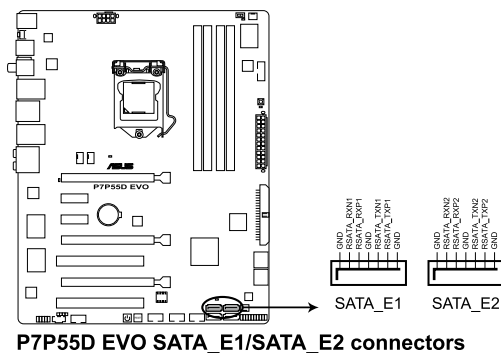
SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。



- これらコネクタは初期設定で [Standard IDE mode] に設定されています。Serial ATA 起動/データ用ハードディスクドライブをこれらコネクタに接続する場合は、このモードを利用してください。これらのコネクタで Serial ATA RAID セットを構築する場合は、BIOS の「**Configure SATA as**」の項目を [RAID] に設定してください。詳細はセクション「**3.4.2 記憶装置の設定**」をご参照ください。
- RAIDを構築する際には、セクション「**4.5 RAID**」、またはマザーボードのサポート DVDに収録されているマニュアルをご参照ください。
- Serial ATA HDDを使用する場合はWindows® XP Service Pack2以降のOSをインストールする必要があります。Windows® XP Service Pack2以降のOSをご利用の場合は Serial ATA RAIDの利用が可能です。
- ホットプラグ機能とNCQを使用する場合は、BIOS の「**Configure SATA as**」の項目を [AHCI] に設定してください。詳細はセクション「**3.4.2 記憶装置の設定**」をご参照ください。

3. JMicron® JMB322 Serial ATA コネクタ (7ピン SATA_E1 [グレー]、SATA_E2 [ダークブルー])

Serial ATAケーブルを使用してSerial ATAハードディスクドライブを接続します。Serial ATAハードディスクドライブをセットした場合、JMicron® JMB322 コントローラを通じてDrive Xpert Technologyの「EZ Backup」設定、または「Super Speed」設定が利用可能です。



Drive Xpert 機能をご利用になる際は、ハードディスクドライブ内のデータのバックアップを行ってください。



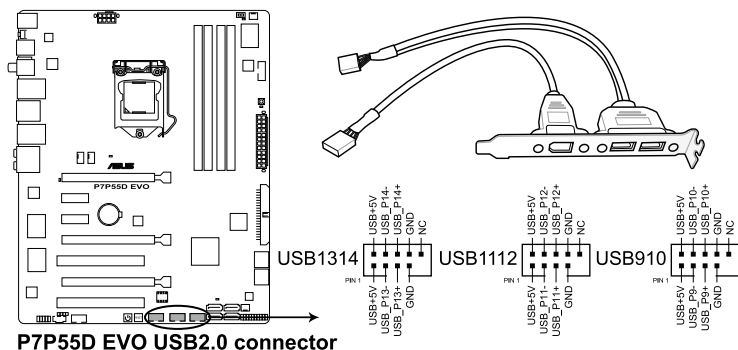
- Windows® 環境でDrive Xpert を利用する場合は、3 台のハードディスクドライブのご使用をお勧めします：
1 台：OSインストール済みのドライブ
2 台：Drive Xpert 設定用ドライブ
- Drive Xpert を利用する前に、SATA ケーブルでSATAハードディスクドライブをSATA_E1/ E2 コネクタに接続してください。
- SATA_E1 (グレー) ポートとSATA_E2 (ダークブルー) ポートは、SATAハードディスクドライブ専用です。ATAPI デバイスとホットプラグ機能はサポートしていません。
- Drive Xpert を利用するには、SATA_E1 (グレー) ポートとSATA_E2 (ダークブルー) ポートに接続したハードディスクドライブをデータドライブに設定する必要があります。



アプリケーションの操作については、「4.3.7 ASUS Drive Xpert」をご参照ください。

4. USB コネクタ (10-1ピン USB910; USB1112; USB1314)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。
このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



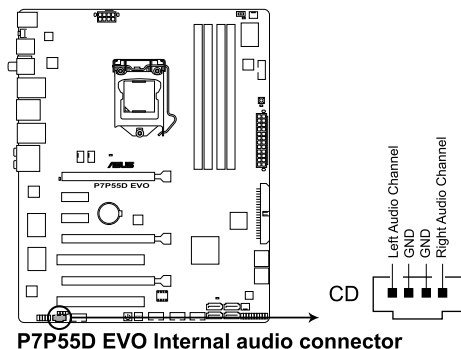
1394 ケーブルをUSBコネクタに接続しないでください。マザーボード故障の原因となります。



ご使用のケースがフロントパネル USB ポートをサポートしている場合、まずフロントパネル USB ケーブルをこのコネクタに接続します。USBケーブルをASUS Qコネクタ (USB、ブルー) に接続し、Qコネクタ(USB)をオンボードUSB コネクタに取り付けると接続が短時間で行えます。

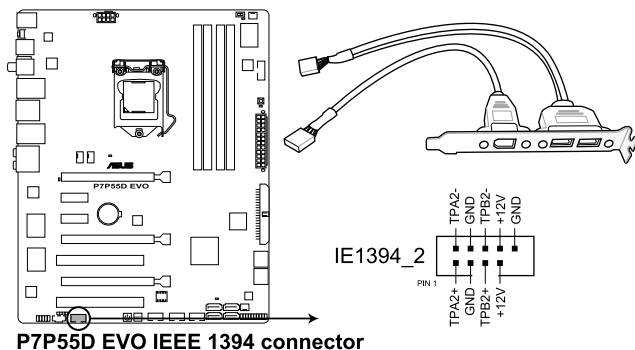
5. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)

CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



6. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1ピン IE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。



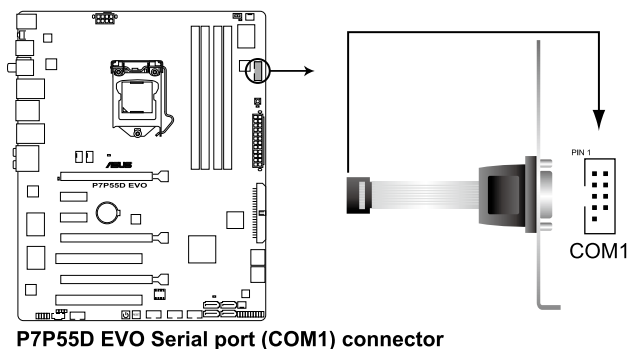
USBケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが損傷する原因となります。



IEEE 1394a モジュールは別売りとなっております。

7. Serial ポートコネクタ (10-1ピン COM1)

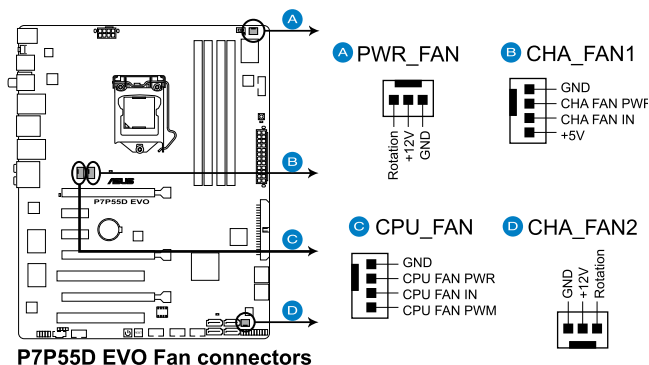
Serial (COM) ポート用です。



COMモジュールは別売りとなっております。

8. CPUファンコネクタ、ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN; 4ピン CHA_FAN1; 3ピン CHA_FAN2; 3ピン PWR_FAN)

各ファンコネクタは+12Vで、350 mA~2000 mA (最大24W)またはトータルで 1 A~7 A (最大84W)の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



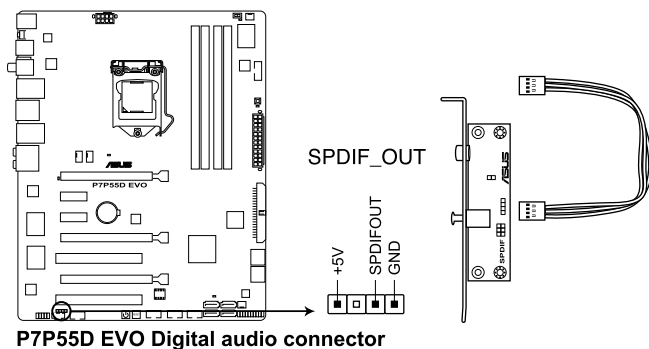
ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが損傷する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



- CPU_FANコネクタは最大2A (24W) のCPUファンをサポートしています。
- CPU_FAN、CHA_FAN 1-2コネクタのみが ASUS FAN Xpert 機能に対応しています。
- ビデオカードを2枚以上取り付ける場合は、システムの温度上昇を防ぐため、リアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1 または CHA_FAN2と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

9. デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)

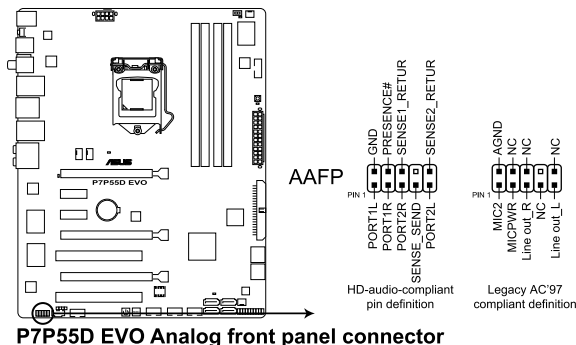
S/PDIFポート追加用のコネクタです。S/PDIF出力モジュールを接続します。



S/PDIFモジュールは別売りとなっております。

10. フロントパネルオーディオコネクタ コネクタ (10-1 ピン AAFP)

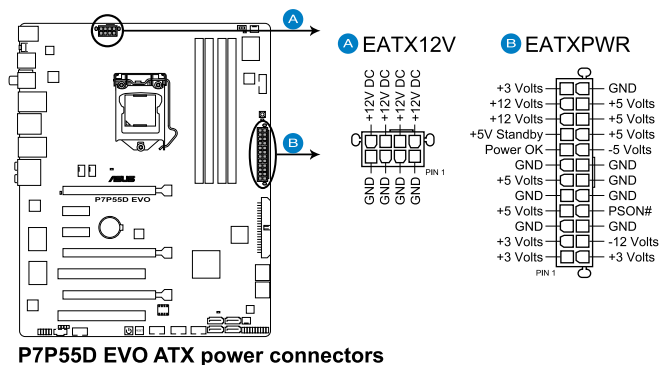
ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC'97オーディオをサポートしています。オーディオ I/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。



- HDオーディオ機能を最大限に活用するため、HDフロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- HDフロントパネルオーディオモジュールを接続するには、BIOSで「**Front Panel Type**」の項目を [HD Audio] に設定します。AC'97フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、この項目を [AC97] に設定します。AC'97フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、この項目を [AC97] に設定します。初期設定は [HD Audio] になっています。

11. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR; 8ピン EATX12V)

ATX 電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。

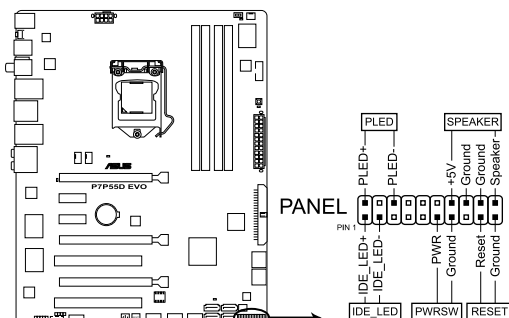


- システムの快適なご利用のために、最低 350W ATX 12 V 仕様 2.0 (またはそれ以降) 対応電源ユニットを使用することをお勧めします。
- 8 ピン EATX12 V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。
- システムに最低限必要な電源が分からない場合は、<http://support.asus.com/PowerSupplyCalculator/PSCalculator.aspx?SLanguage=ja-jp> の「電源用ワット数計算機」をご参照ください。
- 2 枚以上のハイエンド PCI Express x16 カードを使用する場合は、システム安定のため、1000W 以上の電源ユニットをご利用ください。

推奨電源ユニット	
Coolive AP-350F	OCZ OCZGX850
AcBel PC7030	Seasonic SS-850EM
Antec SG-850	Seasonic SS-900HP
Be quiet P6-PRO-850W	Seventeam ST-420BKP
Corsair CMPSU-620HX	Seventeam ST-522HLP
CWT PSH650V-D	Silverstone PSU ST562F
CWT PSH750V-D	Silverstone SST-ST50EF
EnerMAX EGX1000EWL	Silverstone SST-ST85F
EnerMAX EIN720AWT	Snake PSH500V
EnerMAX ELT500AWT	Tagan TG1100-U33
FSP FSP500-60GLN	Thermaltake PUREPower-600AP
IcuteAP-600S	Thermaltake TW500W-AP
OCZ OCZ1000PXS	Thermaltake W0133RU
OCZ OCZ780MXS	Zalman ZM600-HP

12. システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)

このコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



P7P55D EVO System panel connector

- **システム電源LED (2ピン PLED)**

システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- **HDDアクティビティLED (2ピン IDE_LED)**

HDDActivity LED用です。HDDActivity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。

- **ビープ(ビープ)スピーカー (4ピン SPEAKER)**

ケース取り付けのビープスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を発します。

- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)**

システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。またBIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。

- **リセットボタン (2ピン RESET)**

ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

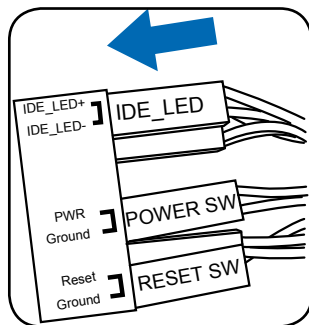
2.7.4. ASUS Q-コネクタ(システムパネル)

ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

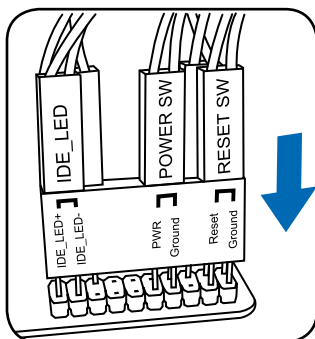
1. フロントパネルケーブルを
ASUS Q-Connector に接続します。
向きはQ-Connector 上にある表示を参考にし、フ
ロントパネルケーブルの表示と一致するように接
続してください。



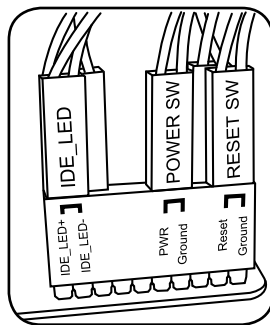
フロントパネルの表示は、ケースの製造
元により異なる場合があります。



2. ASUS Q-Connector をシステムパネルコネクタ
に取り付けます。マザーボードの表示と一致する
ように取り付けてください。



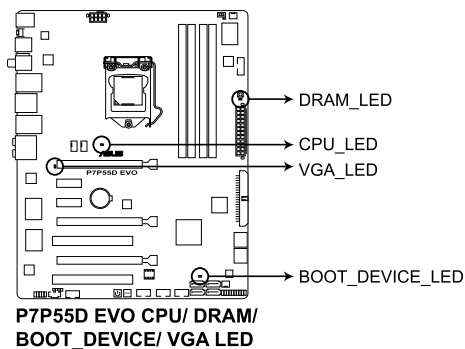
3. フロントパネル機能が有効になりました。右は
Q-connector を取り付けた写真です。



2.8 オンボードLED

1. POST State LED

POST State LEDはシステム起動中に、キーコンポーネント (CPU、DRAM、ビデオカード、HDD) を順番にチェックします。エラーが見つかったら、エラーが見つかったデバイスのLEDが点灯し、問題が解決するまで点灯し続けます。数秒でエラーを検出する便利な機能です。



POST State LEDはBIOSで無効にすることができます。詳細はセクション「**3.8.2 起動設定**」をご参照ください。

2.9 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニター
 - b. 外部デバイス類(デジチーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面/パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニターが「グリーン」規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニターのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンプ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。

BIOS ビーブ	説明
短いビーブ 1 回	VGA 検出 BIOS の「Quick Boot」設定が [Disabled] の時 キーボード未検出
長いビーブ 1 回+短いビーブ 2 回、 数秒後同じパターンで繰り返し	メモリ未検出時
長いビーブ 1 回+短いビーブ 3 回	VGA 未検出時
長いビーブ 1 回+短いビーブ 4 回	ハードウェアコンポーネント エラー

7. 電源をオンにした直後に、<Delete>キーを押すとBIOS設定に入ります。Chapter 3の指示に従ってください。

2.10 コンピュータをオフにする

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
(詳細: Chapter 3「3.7 電源メニュー」参照)

3.1 BIOSとは

BIOS (Basic Input and Output System) はマザーボードCMOS内にあり、BIOSには記憶装置の構成やオーバークロック設定、電源管理、起動デバイス等、システム起動に必要なシステムのハードウェア設定が保存されています。通常、BIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。以下の状況以外では、**初期設定値のままで使用することをお勧めします**。

- システム起動中にエラーメッセージが表示され、BIOS Setup を起動するように指示があった場合
- BIOS設定を必要とするコンポーネントをシステムに取り付けた場合



不適切なBIOS設定を行うと、システムが起動しない、または不安定になるといった症状が出る場合があります。**BIOS設定を変更する際は、専門知識を持った技術者等のアドバイスを受けることを強くお勧めします。**

3.2 BIOSを更新する

ASUSのWeb サイトでは、システムの安定性や互換性、パフォーマンスを向上させるため、最新バージョンのBIOSを公開しておりますが、BIOS更新には常にリスクが伴います。現在ご使用のBIOSバージョンで問題がない場合は、**更新の必要はありません**。不適切なBIOS更新はシステム起動エラーの原因となります。BIOS更新が必要な場合のみ、以下の手順に従い慎重に更新作業を行ってください。



本マザーボード用の最新バージョンのBIOSファイルは、ASUS Web サイトからダウンロード可能です。<http://www.asus.co.jp>

次の各ユーティリティで本マザーボードのBIOS更新が可能です。

1. **ASUS Update:** Windows® 環境でBIOSを更新
2. **ASUS EZ Flash 2:** USBフラッシュメモリを使用してBIOSを更新
3. **ASUS CrashFree BIOS 3:** BIOSファイルの破損/エラー発生時に、マザーボードサポートDVDまたはBIOSを保存したUSBフラッシュメモリを使用してBIOSを更新

各ユーティリティの詳細については、本項以降の説明をご参照ください。



いつでもBIOSを復旧できるよう、オリジナルのマザーボードBIOSファイルをUSBフラッシュメモリにコピーしておいてください。BIOSのコピーにはASUS Update をご使用ください。

3.2.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードのBIOSの管理、保存、更新が可能です。以下のような機能が特長です。

- ・ 現在使用中のBIOSファイルを保存
- ・ 最新バージョンのBIOSファイルをダウンロード（インターネット使用）
- ・ 予めダウンロードしたBIOSファイルへの更新
- ・ インターネットから直接BIOSを更新
- ・ BIOSのバージョン情報を参照

本ユーティリティはマザーボードに同梱のサポートDVDに収録されています。



ASUS Update を使用するには、インターネットアクセスが必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. サポートDVDを光学ドライブにセットします。
2. メインメニューから**Utilities** タブをクリックし、「**Install ASUS Update VX.XX.XX**」をクリックします。
3. ASUS Update がシステムにコピーされます。

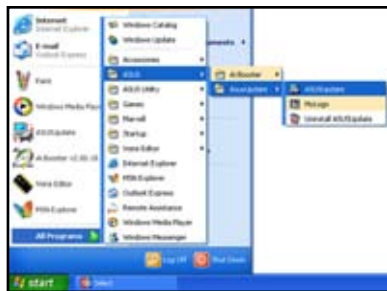


本ユーティリティでBIOS更新を行う場合は、Windows® アプリケーションを全てから行ってください。

インターネットからBIOSを更新する

手順

1. Windows® デスクトップから、「スタート」→「**プログラム**」→「**ASUS**」→「**ASUSUpdate**」→「**ASUSUpdate**」の順にクリックします。続いてASUS Update のメイン画面が表示されます。
2. ドロップダウンメニューから、「**Update BIOS from the internet**」を選択し、「**Next**」をクリックします。



3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。
4. ダウンロードする BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。



5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。

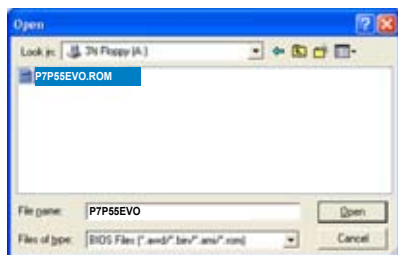


ASUS Update ユーティリティをインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるよう、常に最新版をご使用ください。

BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. Windows® デスクトップから、「スタート」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUS Update」→「ASUS Update」の順にクリックします。続いて ASUS Update のメイン画面が表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。
3. Open ダイアログから BIOS ファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



BIOS 更新後はシステムの互換性/安定性の観点から、必ず BIOS の初期設定値をロードしてください。ロードの際は、終了メニューの「Load Setup Defaults」を選択します。詳細は本マニュアル「3.10 終了メニュー」をご参照ください。

3.2.2 ASUS EZ Flash 2

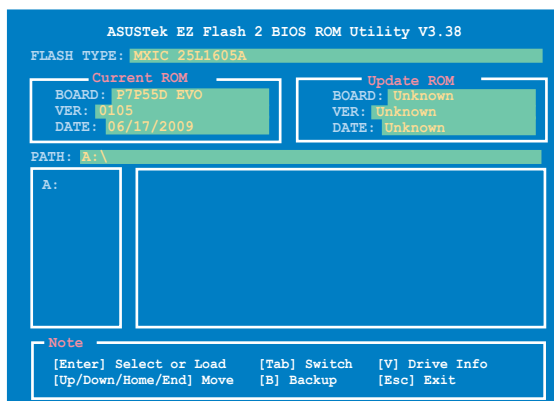
ASUS EZ Flash 2 は起動ディスクやOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS更新を行います。EZ Flash 2 はBIOSチップに内蔵されていますので、POSTの段階で <Alt + F2> キーを押すだけで起動することができます。



このユーティリティでBIOS更新を行う前に、ASUSのWeb サイト (<http://www.asus.co.jp>) から最新バージョンのBIOSをダウンロードしてください。

Flash 2 を使用してBIOSを更新する

1. 最新バージョンのBIOSファイルを保存したUSBフラッシュメモリをシステムにセットし、以下のいずれかの方法でEZ Flash 2 を起動します。
 - POST 中に <Alt> + <F2> を押し、次のような画面を表示させます。
 - BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。



2. <Tab> を押してドライブを切り替え、BIOSファイルを保存したドライブを指定します。BIOSファイルが検出されると EZ Flash 2 はBIOSを更新します。更新が終了するとシステムは自動的に再起動します。



- **FAT 32/16** フォーマットのUSBフラッシュメモリでシングルパーティションのみをサポートします。
- BIOS更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。



BIOS更新後はシステムの互換性/安定性の観点から、必ずBIOSの初期設定値をロードしてください。ロードの際は、終了メニューの「**Load Setup Defaults**」を選択します。詳細は本マニュアル「**3.10 終了メニュー**」をご参照ください。

3.2.3 ASUS CrashFree BIOS 3

本ユーティリティはBIOS自動復旧ツールで、BIOSファイルが破損した場合やエラーが発生した場合でも、更新作業中にBIOSを復旧することができます。更新したBIOSファイルを保存したUSBフラッシュメモリまたはマザーボードサポートDVDを使用して、破損したBIOSを更新できます。



マザーボードサポートDVDに収録のBIOSファイルは最新バージョンではない場合があります。新しいBIOSファイルを使用する場合は、弊社のWeb サイトからファイルをダウンロードし、USBフラッシュメモリにコピーしてください。(http://www.asus.co.jp)

BIOSを復旧する

手順

1. システムをONにします。
2. BIOSファイルを保存したUSBフラッシュメモリ、またはサポートDVDをシステムにセットします。
3. BIOSファイルを保存したデバイスの検出が始まります。検出されると、BIOSファイルを読み込み、破損したBIOSファイルを更新します。
4. 更新が終了したら、システムをOFFにし、システムをONにします。
5. BIOS更新後はシステムの互換性/安定性の観点から、<F2>を押して必ずBIOSの初期設定値をロードしてください。



BIOS更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

3.3 BIOS Setup プログラム

BIOS Setup プログラムは、BIOS項目を変更するためのもので、コンピュータを起動するときに行うことができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS Setup プログラムが起動します。

POST終了後にBIOS Setupプログラムを実行する場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。また、システムをOFFにし、それからまたONにすることによって再起動することもできます。ただし、この方法は最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

これらの操作後に再びPOST画面が出現しましたら、POST画面が出ている間にを押して、BIOS Setup プログラムに入ります。

BIOS Setupプログラムの使用方法是簡単です。メニュー画面から、ナビゲーションキーで各サブメニューをスクロールし、利用可能なオプションから設定を選択することができます。



- 本書に掲載したBIOS画面は参考用で、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- BIOS設定を変更した後にシステムが不安定になった場合は、初期設定値をロードしてください。ロードの際は、終了メニューの「Load Setup Defaults」を選択します。詳細は本マニュアル「3.10 終了メニュー」をご参照ください。
- BIOS設定を変更した後にシステムが起動しなくなった場合は、CMOSのクリアを行い、マザーボードをリセットしてください。詳細はセクション「2.7.1 バックパネルコネクタ」をご参照ください。

3.3.1 BIOSメニュー画面

メニュー

メニューバー

構成フィールド

ヘルプ

BIOS SETUP UTILITY

Main | Ai Tweaker | Advanced | Power | Boot | Tools | Exit

System Time
System Date
Language

SATA1
SATA2
SATA3
SATA4
SATA5
SATA6
Storage Configuration
System Information

[13:51:25]
[Thu 07/09/2009]
[English]
[HDT722516DLA380]
[Not Detected]
[ATAPI DVD DH1]
[Not Detected]
[Not Detected]
[Not Detected]

Use [ENTER], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.
Use [+] or [-] to configure system Date.
Select Screen
Select Item
Change Field
Select Field
General Help
Save and Exit
Exit

v02.61 (C) Copyright 1985-2009, American Megatrends, Inc.

サブメニュー

ナビゲーションキー

3.3.2 メニューバー

画面上部のメニューバーには、次の表示されます。

Main	基本システム設定を変更
Ai Tweaker	オーバークロック設定を変更
Advanced	拡張システム設定を変更
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定を変更
Boot	システム起動設定を変更
Tools	特別な機能の設定オプション
Exit	終了オプションを選択／初期設定値をロード

3.3.3 ナビゲーションキー

BIOSメニュー画面の右下には、メニュー内で操作を行うためのナビゲーションキーの説明が表示されます。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。



掲載したナビゲーションキーは参考用です。実際に表示される内容と異なる場合があります。

3.3.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目

(Ai Tweaker, Advanced, Power, Boot, Tools, Exit) には、それぞれのメニューがあります。

3.3.5 サブメニュー

サブメニューが含まれる項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

3.3.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

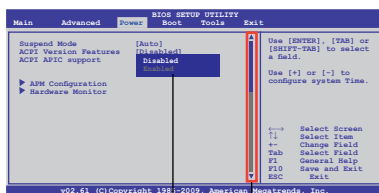
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「3.3.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

3.3.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

3.3.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



スクロールバー
ポップアップウィンドウ

3.3.9 ヘルプ


メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

3.4 メインメニュー

BIOS Setup プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。また、システム時間やBIOS言語の設定も可能です。項目を選択し、<Enter>を押すとデバイスの情報が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「3.3.1 BIOSメニュー画面」をご参照ください。

BIOS SETUP UTILITY						
Main	Ai Tweaker	Advanced	Power	Boot	Tools	Exit
System Time		[13:51:25]			Use [ENTER], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.	
System Date		[Thu 07/09/2009]				
Language		[English]				
▶ SATA1		[HDT722516DLA380]			Use [+] or [-] to configure system Date.	
▶ SATA2		[Not Detected]				
▶ SATA3		[ATAPI DVD DH1]				
▶ SATA4		[Not Detected]				
▶ SATA5		[Not Detected]				
▶ SATA6		[Not Detected]				
▶ Storage Configuration					 Select Screen Select Item Change Field Select Field General Help Save and Exit Exit	
▶ System Information						
v02.61 (C)Copyright 1985-2009, American Megatrends, Inc.						

3.4.1 SATA 1-6

BIOS Setup を起動する段階で、BIOSは自動的にSATAデバイスを検出します。各SATAデバイスには、それぞれサブメニューが表示されます。デバイスを選択し、<Enter>を押すとデバイスの情報が表示されます。

BIOS SETUP UTILITY		
Main		
SATA 1		Select the type of device connected to the system.
Device	: Hard Disk	
Vendor	: HDT722516DLA380	
Size	: 164.7GB	
LBA Mode	: Supported	
Block Mode	: 16Sectors	
PIO Mode	: 4	
Async DMA	: MultiWord DMA-2	
Ultra DMA	: Ultra DMA-6	
SMART Monitoring:Supported		
Type	[Auto]	↔ Select Screen ↑↓ Select Item +- Change Field F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit
LBA/Large Mode	[Auto]	
Block(Multi-sector Transfer)M	[Auto]	
PIO Mode	[Auto]	
DMA Mode	[Auto]	
SMART Monitoring	[Auto]	
32Bit Data Transfer	[Enabled]	
v02.61 (C)Copyright 1985-2009, American Megatrends, Inc.		

BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoringの各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムにSATAデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Type [Auto]

取り付けたデバイスのタイプを選択します。

- [Not Installed] デバイスを取り付けていない場合は、この項目を選択します。
- [Auto] 適切なデバイスタイプが自動的に選択されます。
- [CDROM] CD-ROMドライブを特定して構成する場合、この項目を選択します。
- [ARMD] デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのいずれかである場合、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス) を選択します。



この項目は「SATA1-4」でのみ表示されます。

LBA/Large Mode [Auto]

- [Auto] 自動的にデバイスがLBAモードをサポートしているかどうかを検出し、サポートしている場合はLBAモードが有効になります。
- [Disabled] この機能を無効にします。

Block (Multi-Sector Transfer) M [Auto]

- [Auto] [Auto] に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。
- [Disabled] [Disabled] に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

PIO Mode [Auto]

- [Auto] PIO (Programmed input/output) モードを自動的に選択し、これにより異なるデータ転送速度に対応します。
- [0] [1] [2] [3] [4] PIOモードを0、1、2、3、4に設定します。

DMA Mode [Auto]

DMA (Direct Memory Access) は、ハードウェアとメモリの間のデータ転送を直接行うため、CPUへの負荷を抑えます。

DMA モードにはSDMA (single-word DMA)、MDMA (multi-word DMA)、UDMA (Ultra DMA) があり、[Auto] に設定すると、DMAモードが自動的に選択されます。

SMART Monitoring [Auto]

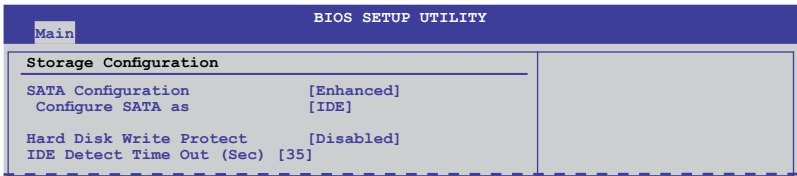
- [Auto] S.M.A.R.T (Smart Monitoring, Analysis & Reporting Technology) を自動的に選択します。
- [Enabled] S.M.A.R.T 機能を有効にします。
- [Disabled] S.M.A.R.T 機能を無効にします。

32Bit Data Transfer [Enabled]

- [Enabled] コントローラの設定により、ハードディスクからの2つの16bit 読み込みを1つの32bit ダブルワード転送としてプロセッサに転送します。これによりデータのやり取りの回数が減り、PCI バスがより効果的に使用されます。
- [Disabled] この機能を無効にします。

3.4.2 記憶装置の設定

記憶装置の設定を行います。設定を変更したい項目を選択し<Enter>を押します。



SATA Configuration [Enhanced]

設定オプション: [Disabled] [Compatible] [Enhanced]

Configure SATA as [IDE]

SATAの設定を行います。この項目はSATA設定項目を[Enhanced]もしくは[Compatible]にした時にのみ表示されます。

- [IDE] シリアルATA/ハードディスクドライブをParallel ATA 物理的記憶装置でバスとして使用する場合は「IDE」にセットしてください。
- [RAID] SATA/ハードディスクドライブを使用してRAIDを構築する場合、このオプションを選択します。
- [AHCI] SATA/ハードディスクドライブでAHCI (Advanced Host コントローラ Interface) を利用する場合はこのオプションを選択します。AHCI を有効にすると、オンボードストレージドライバによりSATAに関連する詳細機能が有効になります。これにより、ランダムな負荷に対してドライブ内部でコマンドの順序を最適化できるようになるため、ストレージのパフォーマンスが向上します。

Hard Disk Write Protect [Disabled]

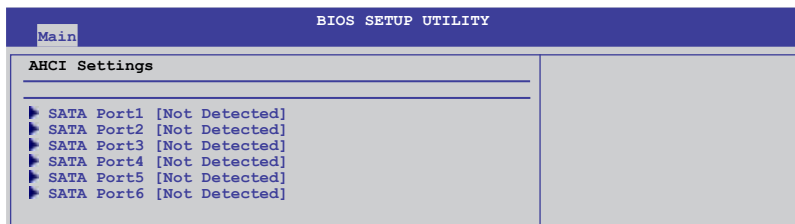
- [Enabled] ハードディスクにライトプロテクトを有効にします。BIOSからのアクセスしか行わない場合に使用します。
- [Disabled] この機能を無効にします。

IDE Detect Time Out (Sec) [35]

ATA/ATAPI デバイスの検出用にタイムアウトを設定します。
設定オプション:[0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

3.4.3 AHCI Configuration

AHCI の設定を行います。このメニューは「**SATA Configuration**」メニューの「**Configure SATA as**」の項目を[AHCI]にすると表示されます。



SATA Port1-6 [XXXX]

SATAデバイスの自動検出の状態を表示します。

SATA Port1-6 [Auto]

[Auto] システム接続されているデバイスタイプの自動選択をします。
 [Not Installed] SATAデバイスが接続されていない場合はこちらを選択してください。

SMART Monitoring [Enabled]

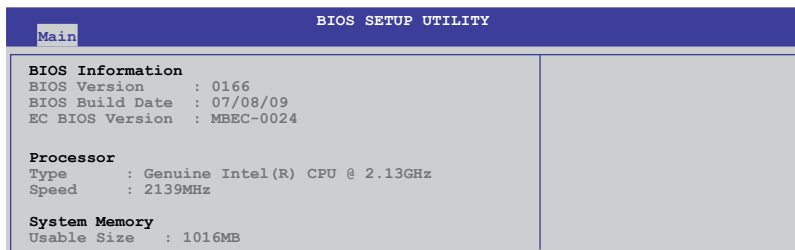
S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology) はモニタシステムです。ハードディスクへの読み込みや書き込みエラーが起こった場合、POST時に警告メッセージを出します。

[Enabled] SMARTモニタリング機能を有効にします。

[Disabled] SMARTモニタリング機能を無効にします。

3.4.4 システム情報

システム仕様の概要です。BIOSはCPUの仕様、システムメモリ等の情報を自動的に検出します。



3.5 Ai Tweakerメニュー

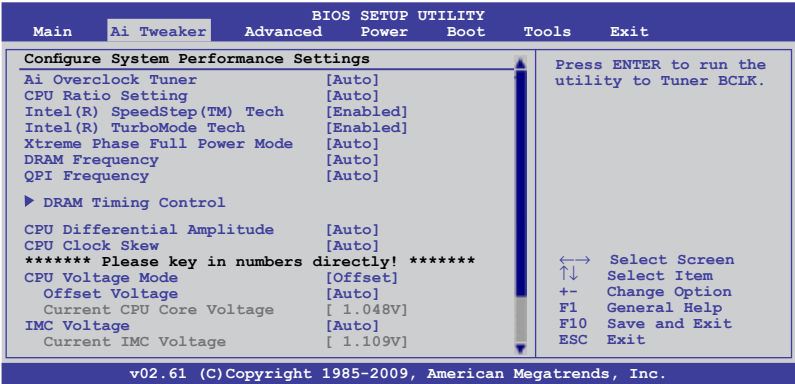
Ai Tweaker メニューではオーバークロックに関連する設定を行います。



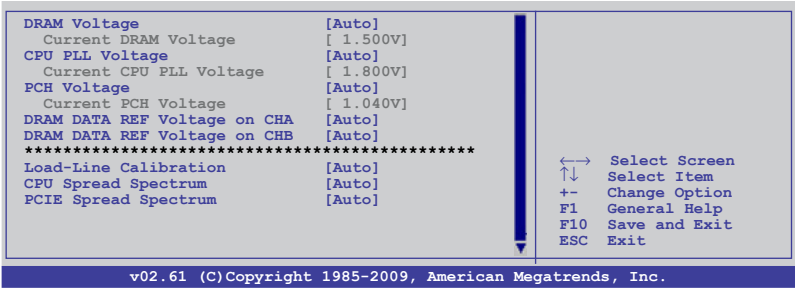
Ai Tweaker メニューで設定値を変更する際はご注意ください。不正な値を設定するとシステム誤作動の原因となります。



各項目の初期設定値は取り付けたCPUとメモリによって異なります。



スクロールすると非表示の部分が表示されます。



3.5.1 Ai Overclock Tuner [Auto]

CPUオーバークロックオプションを選択して、CPU内部周波数を設定することができます。下の設定オプションから1つ選択します。設定オプション：

Manual	オーバークロックの値を個々に設定します。
Auto	システムに対して最適な設定をロードします。
D.O.C.P	ベースクロックを変更することでDRAM周波数を上げます。
X.M.P.	eXtreme Memory Profile (X.M.P.) に対応するメモリモジュールを取り付ける場合、この項目を選択してご使用のメモリモジュールがサポートするプロファイルを選択してください。システムパフォーマンスが向上します。



次の項目の設定オプションの内容は、使用するメモリによって異なります。

DRAM O.C. Profile [DDR3-1600MHz]

「**Ai Overclock Tuner**」を [D.O.C.P.] に設定すると表示され、DRAM O.C. プロファイルを選択することが可能です。DRAM 周波数、DRAM タイミング、DRAM 電圧の設定に様々な値を適用することができます。

設定オプション: [DDR3-1600MHz] [DDR3-1800MHz] [DDR3-1866MHz] [DDR3-2000MHz] [DDR3-2133MHz]

DRAM 周波数 (MHz)	CPU 周波数 (GHz)		
	2.66	2.8	2.93
1333	自動	自動	自動
1600	D.O.C.P.	自動	自動
1600以上	D.O.C.P.	D.O.C.P.	D.O.C.P.



- Intel® CPU の仕様より高い周波数のメモリをご使用の際は、ASUS の独自機能「**DRAM O.C. Profile**」機能で DRAM のオーバークロックが可能です。
- D.O.C.P 機能を適用した後にベースクロック周波数を調節し、より良いパフォーマンスを実現してください。

eXtreme Memory Profile [High Performance]

「**Ai Overclock Tuner**」を [X.M.P.] に設定すると表示されます。ご使用のメモリモジュールがサポートする X.M.P. モードを選択することが可能です。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| [Disabled] | メモリプロファイルを選択できません。 |
| [High Performance] | メモリをハイパフォーマンスで動作させます。 |
| [High Frequency] | メモリを高い周波数で動作させます。 |



X.M.P メモリ、1600MHz メモリを最大限に動作させるため、各メモリチャンネルに取り付けるメモリは 1 枚にしてください。

3.5.2 CPU Ratio Setting [Auto]

CPU コアクロックとベースクロック周波数の倍率を設定します。<+><-> キーで数値を調整します。数値は CPU モデルにより異なります。

3.5.3 Intel(R) SpeedStep(TM) Tech [Enabled]

- | | |
|------------|----------------------|
| [Enabled] | CPU スピードは OS で制御します。 |
| [Disabled] | CPU は定格周波数で動作します。 |

3.5.4 Intel(R) TurboMode Tech [Enabled]

[Enabled] プロセッサのコアを特定の条件下で定格よりも高速で動作させます。
[Disabled] この機能を無効にします。

3.5.5 Xtreme Phase Full Power Mode [Auto]

[Auto] 自動設定を行います。
[Enabled] Full Power Mode を有効にし、最高のCPUオーバークロックパフォーマンスを提供します。



次の2項目は「**Ai Overclock Tuner**」を [Manual]、[D.O.C.P.] または [X.M.P.] にすると表示されます。

3.5.6 BCLK Frequency [XXX]

CPUの動作周波数を調節します。数値の調節は <+> <-> キー、または数字キーで直接入力します。設定範囲は 80 ～ 500 です。

3.5.7 PCIE Frequency [XXX]

PCI Express 周波数を設定します。数値の調節は <+> <-> キー、または数字キーで直接入力します。設定範囲は 100 ～ 200 です。

3.5.8 DRAM Frequency [Auto]

DDR3 動作周波数を設定します。
設定オプションは「**BCLK Frequency**」の設定内容により異なります。



Intel CPUの仕様では、コア周波数 2.66GのCPUがサポートする最大メモリ周波数はDDR3-1333 です。周波数DDR3-1333以上のメモリと2.66GのCPUを組み合わせで使用する際は、BIOSの**DRAM O.C. Profile** 機能を有効にしてください。詳細はセクション「**3.5.1 Ai Overclock Tuner**」をご参照ください。



DRAM周波数の設定値が高すぎるとシステムが不安定になる場合があります。不安定になった場合は、設定を初期設定値に戻してください。

3.5.9 QPI Frequency [Auto]

QPI 周波数を設定します。

3.5.10 DRAM Timing Control

DRAMタイミングコントロール機能を設定します。



次のいくつかの項目の設定オプションは、実際に取り付けたメモリによって異なります。

1st Information: 6-6-6-15-4-36-6-5-16

値は、以下の項目の設定状態によって変化します:

DRAM CAS# Latency [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 DRAM Clock] [4 DRAM Clock] – [10 DRAM Clock]
[11 DRAM Clock]

DRAM RAS# to CAS# Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 DRAM Clock] [4 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]
[10 DRAM Clock]

DRAM RAS# PRE Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 DRAM Clock] [4 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]
[10 DRAM Clock]

DRAM RAS# ACT Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 DRAM Clock] [4 DRAM Clock] – [30 DRAM Clock]
[31 DRAM Clock]

DRAM RAS# to RAS# Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [7 DRAM Clock]

DRAM REF Cycle Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [30 DRAM Clock] [36 DRAM Clock]
[48 DRAM Clock] [60 DRAM Clock] [72 DRAM Clock] [82 DRAM Clock]
[88 DRAM Clock] [90 DRAM Clock] [100 DRAM Clock] [110 DRAM Clock]

DRAM WRITE Recovery Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [15 DRAM Clock]

DRAM READ to PRE Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [15 DRAM Clock]

DRAM FOUR ACT WIN Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [63 DRAM Clock]

2nd Information: 1N-49-52

値は、以下の項目の設定状態によって変化します:

DRAM Timing Mode [Auto]

設定オプション: [Auto] [1N] [2N] [3N]

DRAM Round Trip Latency on CHA/B [Auto]

[Auto] [Advance 15 Clock]–[Advance 1 Clock] [Normal] [Delay 1 Clock]
[Delay 15 Clock]

3rd Information: 6-6-13-9-9-9-7-6-4-7-7-4

値は、以下の項目の設定状態によって変化します:

DRAM WRITE to READ Delay(DD) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [8 DRAM Clock]

DRAM WRITE to READ Delay(DR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clock] – [8 DRAM Clock]

DRAM WRITE to READ Delay(SR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [10 DRAM Clock] – [22 DRAM Clock]

DRAM READ to WRITE Delay(DD) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [14 DRAM Clock]

DRAM READ to WRITE Delay(DR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [14 DRAM Clock]

DRAM READ to WRITE Delay(SR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [14 DRAM Clock]

DRAM READ to READ Delay(DD) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]

DRAM READ to READ Delay(DR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]

DRAM READ to READ Delay(SR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [4 DRAM Clock] [6 DRAM Clock]

DRAM WRITE to WRITE Delay(DD) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]

DRAM WRITE to WRITE Delay(DR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 DRAM Clock] – [9 DRAM Clock]

DRAM WRITE to WRITE Delay(SR) [Auto]

設定オプション: [Auto] [4 DRAM Clock] [6 DRAM Clock]

3.5.11 CPU Differential Amplitude [Auto]

AMPの設定を変更することで、ベースクロックのオーバークロック性能が向上する場合があります。

設定オプション: [Auto] [700mV] [800mV] [900mV] [1000mV]

3.5.12 CPU Clock Skew [Auto]

この項目を調節することで、ベースクロックオーバークロック性能が向上する場合があります。

「CPU Clock Skew」の項目も同時に調節する必要があります。

設定オプション: [Auto] [Normal] [Delay 100ps]–[Delay 1500ps]



次の項目のいくつかは、数字キーまたは<+> と <-> キーで数値を入力します。入力したら <Enter> キーを押します。なお、初期設定値に戻す場合は、文字キーで [auto] と入力し <Enter> キーを押します。

3.5.13 CPU Voltage Mode [Offset]

CPU電圧モードを設定します。サブ項目の内容は「**CPU Voltage Mode**」の設定により異なります。
設定オプション: [Offset] [Manual]

Offset Voltage [Auto]

「**CPU Voltage Mode**」を [Offset] にすると表示され、オフセット電圧を設定できます。
設定範囲は 0.00625V～0.50000Vで、0.00625V刻みで調節します。

Offset Sign [-]

「**Offset Voltage**」を [Auto] 以外に設定すると表示されます。

- [+] オフセット電圧を「+」単位で設定します。
- [-] オフセット電圧を「-」単位で設定します。

Fixed Voltage [Auto]

「**CPU Voltage Mode**」を [Manual] にすると表示され、CPU電圧を設定することができます。
設定範囲は 0.85V～1.7Vで、0.00625V刻みで調節します。



CPU Vcore 電圧の設定を行う前にCPUの説明書をご参照ください。設定値が高すぎるとCPUの損傷、低すぎるとシステム不安定の原因となることがあります。

3.5.14 IMC Voltage [Auto]

CPU Integrated Memory Controller の電圧を設定します。
設定範囲は 1.1V～1.7Vで、0.00625V刻みで調節します。

3.5.15 DRAM Voltage [Auto]

DRAM電圧を設定します。
設定範囲は 1.50V～2.5V* で、0.0125V刻みで調節します。



- この項目の値 [2.5V] は「**OV_DRAM**」を有効にしたときの値です。無効にした場合の最高値は [2.0V] です。この項目はXMPメモリを取り付けると自動的に最適化されます。詳細はページ 2-26 「**4. DRAM オーバーボルテージ設定スイッチ**」をご参照ください。
- Intel CPUの仕様により、1.65Vを超過する電圧の必要なメモリを取り付けるとCPUが損傷することがあります。1.65V未満の電圧を必要とするメモリを取り付けることをお勧めします。

3.5.16 CPU PLL Voltage [Auto]

CPU PLL 電圧を設定します。
設定範囲は 1.8V～2.1Vで、0.1V刻みで調節します。

3.5.17 PCH Voltage [Auto]

Platform Controller Hub 電圧を設定します。
設定範囲は 1.05V～1.15Vで、0.10V刻みで調節します。



- 「IMC Voltage」、「DRAM Voltage」、「CPU PLL Voltage」の各項目の数値はリスクの度合いに応じて色分けして表示されます。詳細は下の表をご参照ください。
- 電圧を高く設定する場合は、冷却システムを増強することをお勧めします。

	ブルー	イエロー	パープル	レッド
IMC Voltage	1.10000V– 1.16875V	1.17500V– 1.22500V	1.23125V– 1.30000V	1.30625V– 1.70000V
DRAM Voltage	1.5000V– 1.5625V	1.5750V– 1.6250V	1.6375V– 1.6875V	1.7000V– 2.0000V
DRAM Voltage (OV DRAM有効時)	1.5000V– 1.5625V	1.5750V– 1.6250V	1.6375V– 1.6875V	1.7000V– 2.5000V
CPU PLL Voltage	1.80V–1.90V	2.00V–2.10V	N/A	N/A

3.5.18 DRAM DATA REF Voltage on CHA/B [Auto]

Channel A/BのDRAM DATAリファレンス電圧を設定します。
設定範囲は 0.395x～0.630x で、0.005x 刻みで調節します。
倍率を変更するとDRAM オーバークロック性能が向上する場合があります。

3.5.19 Load-Line Calibration [Auto]

- [Auto] BIOSで電圧を自動設定します。
[Disabled] インテルの仕様に従います。
[Enabled] CPU VDrop を直接上げます。

3.5.20 CPU Spread Spectrum [Auto]

- [Auto] 自動設定を行います。
[Disabled] ベースクロックオーバークロック性能を上げます。
[Enabled] EMI を制御します。

3.5.21 PCIE Spread Spectrum [Auto]

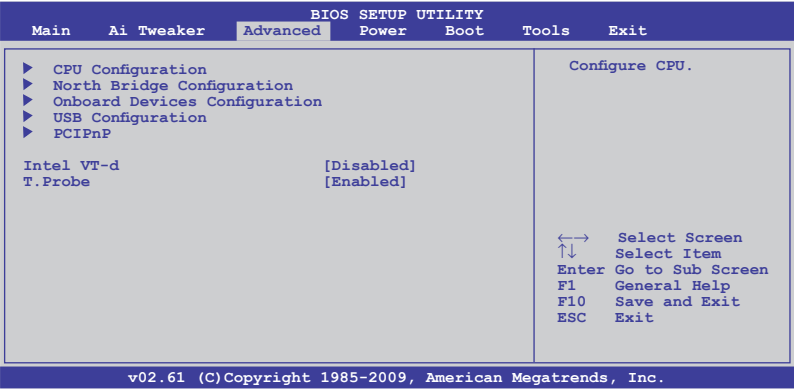
- [Auto] 自動設定を行います。
[Disabled] PCIE オーバークロック性能を上げます。
[Enabled] EMI を制御します。

3.6 拡張メニュー

CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。

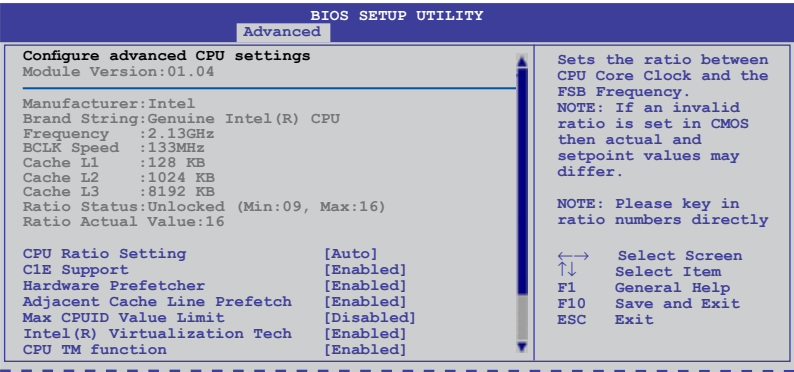


3.6.1 CPUの設定

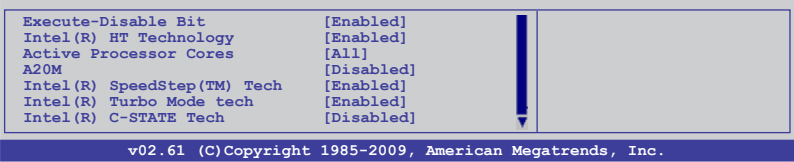
BIOSが自動的に検出するCPU関連の情報です。



この画面に表示される項目は、取り付けたCPUにより異なります。



スクロールすると非表示の部分が表示されます。



CPU Ratio Setting [Auto]

CPUコアクロックとベースクロック周波数の倍率を設定します。数値の調整は <+> <-> キーで調節します。設定範囲はCPUモデルにより異なります。

C1E Support [Enabled]

[Enabled] C1E サポートを有効にします。Enhanced Halt State を有効にするには、この項目を有効にします。

[Disabled] この機能を無効にします。

Hardware Prefetcher [Enabled]

[Enabled] プロセッサがメモリからのデータと指示を予めキャッシュに読み出しておく機能です。この機能を有効にすると、メモリ読み込みの遅延が短縮されます。

[Disabled] この機能を無効にします。

Adjacent Cache Line Prefetch [Enabled]

[Enabled] プロセッサが、現在リクエストされたキャッシュの行と隣接するキャッシュの行を読み込みます。これにより、プロセッサのリクエストに応じて次のキャッシュの行を即座に読み取ることができるため、キャッシュの遅延が短縮されます。

[Disabled] プロセッサは現在リクエストされたキャッシュの行のみを読み込みます。

Max CPUID Value Limit [Disabled]

[Enabled] 拡張CPUID機能搭載のCPUをサポートしていない場合でも、レガシーOSを起動させます。

[Disabled] この機能を無効にします。

Intel(R) Virtualization Tech [Enabled]

[Enabled] Intel® Virtualization Technology はハードウェアプラットフォームで複数のOSを別々に、かつ同時に動作させることで、1つのシステムを仮想的に複数のシステムとして動作させます。

[Disabled] この機能を無効にします。

CPU TM function [Enabled]

[Enabled] オーバーヒートしたCPUのクロックを抑えることで冷却を図ります。

[Disabled] この機能を無効にします。

Execute Disable Bit [Enabled]

[Enabled] No-Execution Page Protection テクノロジを有効にします。

[Disabled] XD 機能フラグが常にゼロ(0)に戻ります。

Intel(R) HT Technology [Enabled]

Intel Hyper-Threading Technology は Hyper-Threading 対応プロセッサをOS環境で2つの論理プロセッサとして動作させることで、OSが同時に2つのスレッドを処理できるようにします。

[Enabled] 有効なコア1つにつき、スレッド2つが有効になります。

[Disabled] 有効なコア1つにつき、スレッド1つのみが有効になります。

Active Processor Cores [All]

有効にするプロセッサパッケージのCPUコア数を選択します。
設定オプション: [All] [1] [2]

A20M [Disabled]

[Enabled] レガシーOSとAPでは、この項目を有効にする必要がある場合があります。
[Disabled] この機能を無効にします。

Intel(R) SpeedStep(TM) Tech [Enabled]

[Enabled] CPUスピードはOSで制御されます。
[Disabled] CPUは定格周波数で動作します。

Intel(R) TurboMode Tech [Enabled]

[Enabled] プロセッサのコアを特定の条件下で定格よりも高速で動作させます。
[Disabled] この機能を無効にします。

Intel(R) C-STATE Tech [Disabled]

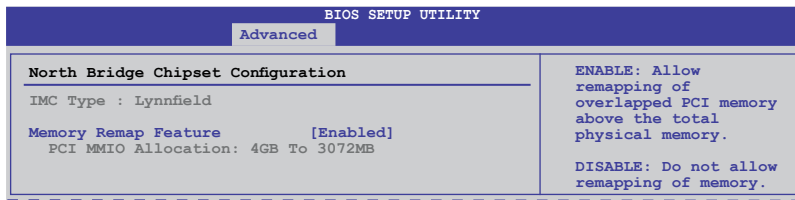
Intel® C-State Technology はアイドルモードでCPUの電力をセーブします。
[Enabled] この設定はC-State Technology対応CPUを取り付ける場合にのみ有効です。
[Disabled] この機能を無効にします。

C State package limit setting [Auto]

「Intel(R) C-STATE Tech」を [Enabled] にするとこの項目が表示されます。この設定を [Auto] にし、BIOSに自動的にCPUがサポートするC-State モードを検出させることをお勧めします。
設定オプション: [Auto] [C1] [C3] [C6]

3.6.2 North Bridge Configuration

チップセットの詳細設定を行います。



Memory Remap Feature [Enabled]

[Disabled] メモリのリマッピングを行いません。
[Enabled] PCI デバイスに上書きされたシステムメモリのセグメントを、トータル物理メモリの上にリマッピングさせます。

3.6.3 オンボードデバイス設定構成

BIOS SETUP UTILITY		
Advanced		
Onboard Devices Configuration		Options
HDA Controller	[Enabled]	Enabled Disabled
Front Panel Type	[HD Audio]	
Realtek LAN1	[Enabled]	
LAN Boot ROM	[Disabled]	
Realtek LAN2	[Enabled]	
LAN Boot ROM	[Disabled]	
Onboard 1394 Controller	[Enabled]	
J-Micron eSATA/PATA Controller	[IDE Mode]	
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]	

HDA Controller [Enabled]

- [Enabled] HD Audio Controller を有効にします。
- [Disabled] HD Audio Controller を無効にします。



次の項目は「High Definition Audio」を [Enabled] にすると表示されます。

Front Panel Type [HD Audio]

フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) モードを、フロントパネルオーディオモジュールのサポートする規格に従って、レガシー AC'97 または HD オーディオに設定します。

- [AC97] フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) モードを AC'97 にします。
- [HD Audio] フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) モードを HD オーディオにします。

Realtek LAN1/LAN2 [Enabled]

- [Enabled] Realtek LAN1/LAN2 Controller を有効にします。
- [Disabled] Realtek LAN1/LAN2 Controller を無効にします。

LAN Boot ROM [Disabled]

上の項目を有効にすると表示されます。

- [Enabled] Realtek Gigabit LAN Boot ROM を有効にします。
- [Disabled] LAN Boot ROM を無効にします。

Onboard 1394 Controller [Enabled]

- [Enabled] オンボード IEEE 1394a Controller を有効にします。
- [Disabled] オンボード IEEE 1394a Controller を無効にします。

J-Micron eSATA/PATA Controller [IDE Mode]

JMicron eSATA/PATA Controller の動作モードを選択します。

- [Disabled] J-Micron Ccontroller を無効にします。
- [IDE Mode] SATA ハードディスクドライブを Parallel ATA 物理記憶デバイスとして使用する際にこのオプションを選択します。
- [AHCI Mode] Serial ATA ハードディスクドライブで AHCI (Advanced Host Controller Interface) を利用する場合はこのオプションを選択します。AHCI を有効にすると、オンボードストレージドライブにより Serial ATA に関連する詳細機能が有効になります。これにより、ランダムな負荷に対してドライブ内部でコマンドの順序を最適化できるようになるため、ストレージのパフォーマンスが向上します。

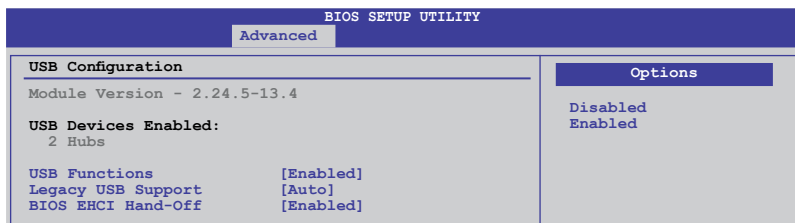
Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを設定します。

設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

3.6.4 USB設定

USB関連の機能を変更することができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。



「USB Devices Enabled」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Functions [Enabled]

[Enabled] USBホストコントローラを有効にします。

[Disabled] USBホストコントローラを無効にします。



次の項目は「USB Support」を [Enabled] に設定すると表示されます。

Legacy USB Support [Auto]

[Auto] 起動時にUSB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシーUSBのサポートは無効になります。

[Enabled] レガシーOS用にUSBデバイスのサポートを有効にします。

[Disabled] この機能を無効にします。

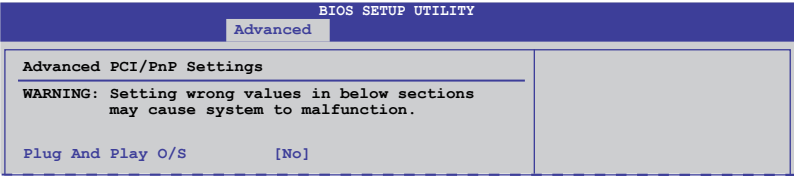
BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled] EHCI ハンドオフ機能のないOSでも問題なく動作させることができます。

[Disabled] この機能を無効にします。

3.6.5 PCIPnP

PCI/PnP デバイスの設定を変更します。



Plug And Play O/S [No]

- [Yes] [Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に必要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。
- [No] システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。

3.6.6 Intel VT-d [Disabled]

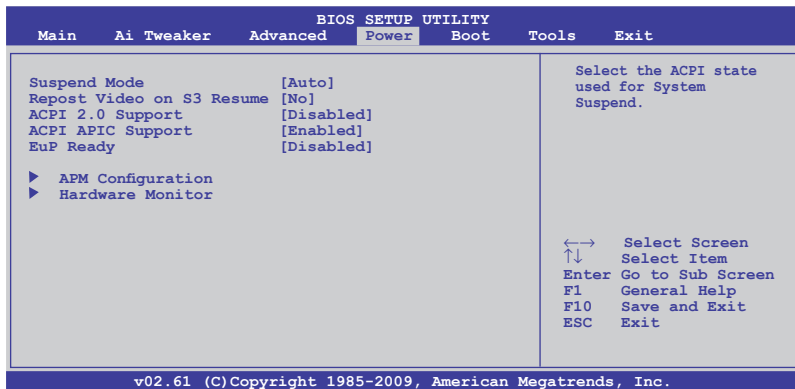
- [Disabled] 「Intel Virtualization Technology for Directed I/O」を無効にします。
- [Enabled] 「Intel Virtualization Technology for Directed I/O」を有効にします。

3.6.7 T.Probe [Enabled]

- [Disabled] T.Probe 機能を無効にします。
- [Enabled] T.Probe 機能を有効にします。有効にすると、vCore 電源コンポーネントの温度を検出し、均一化します。

3.7 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



3.7.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) の状態を選択します。

- [Auto] システムで自動的にACPI サスペンドモードを設定します。
- [S1 (POS) only] ACPI サスペンドモードをS1/POS (Power On Suspend) に設定します。
- [S3 only] ACPI サスペンドモードをS3/STR (Suspend To RAM) に設定します。

3.7.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STR レジュームでVGA BIOS POST を呼び出すかを設定します。

- [No] S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出しません。
- [Yes] S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出します。

3.7.3 ACPI 2.0 Support [Disabled]

- [Disabled] ACPI 2.0 基準に適合させるための、ACPI テーブルのリストを拡張しません。
- [Enabled] 基準に適合させるために、ACPI テーブルのリストを拡張します。

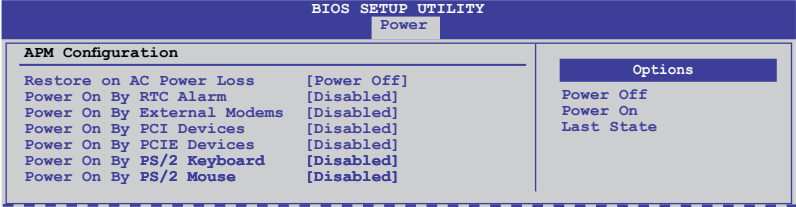
3.7.4 ACPI APIC Support [Enabled]

- [Disabled] APIC (Advanced Programmable Interrupt Controller) でのACPI (Advanced Configuration and Power Interface) のサポートを無効にします。
- [Enabled] RSDTポインタリストにACPI APICテーブルのポインタが追加されます。

3.7.5 EuP Ready [Disabled]

- [Disabled] EuP (Energy Using Products) Ready 機能を無効にします。
- [Enabled] EuPの条件を満たすよう、S5 状態時になるとBIOSが特定の電源をOFFにします。
[Enabled] にすると、WOL、WO_USB、オーディオLEDとオンボードLEDの電源がS5状態でOFFになります。

3.7.6 APMの設定



Restore On AC Power Loss [Power Off]

- [Power On] 電力が遮断され、その後で通電したときに電源がONになります。
- [Power Off] 電力が遮断され、その後で通電したときに電源がOFFになります。
- [Last State] 電力が遮断され、その後で通電したときに、電源は遮断される直前の状態に戻ります。

Power On By RTC Alarm [Disabled]

- [Disabled] RTCによるウェイクアップを行いません。
- [Enabled] 「RTC Alarm Date (Days) / System Time」が設定可能になり、数値の設定が可能になります。

Power On By External Modems [Disabled]

- [Disabled] コンピュータがソフトオフモードになっている状態で、外部モデムが受信しても、電源をONにしません。
- [Enabled] コンピュータがソフトオフモードになっている状態で、外部モデムが受信すると、コンピュータの電源をONにします。



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By PCI Devices [Disabled]

- [Disabled] PCI デバイスを使用したS5状態からPMEウェイクアップを行いません。
- [Enabled] PCI デバイスを使用したS5状態からPMEウェイクアップを行います。この機能を利用するには、+5V SBリード線で最低1Aを供給するATX電源が必要です。

Power On By PCIE Devices [Disabled]

- PCIE デバイスによるウェイクアップの有効/無効を設定します。
- [Disabled] PCIE デバイスによるウェイクアップを行いません。
 - [Enabled] PCIE デバイスによるウェイクアップを行います。

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

- [Disabled] PS/2 キーボードで電源をONにする機能を無効にします。
- [Enabled] PS/2 キーボードの特定キーを押して電源をONにします。この機能を利用するには、+5V SBリード線で最低1Aを供給するATX電源を必要とします。

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

- [Disabled] PS/2 マウスで電源をONにする機能を無効にします。
- [Enabled] PS/2 マウスで電源をONにする機能を有効にします。この機能を利用するには、+5V SBリード線で最低1Aを供給するATX電源を必要とします。

3.7.7 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	
CPU Temperature	[35°C/95°F]
MB Temperature	[34°C/93°F]
CPU Fan Speed	[3590RPM]
CPU Q-Fan Control	[Disabled]
Chassis Fan 1 Speed	[N/A]
Chassis Fan 2 Speed	[N/A]
Chassis Q-Fan Control	[Disabled]
Power Fan Speed	[N/A]
CPU Voltage	[1.040V]
3.3V Voltage	[3.008V]
5V Voltage	[4.776V]
12V Voltage	[11.648V]
CPU Temperature (PECI)	
←→	Select Screen
↑↓	Select Item
Enter	Go to Sub Screen
F1	General Help
F10	Save and Exit
ESC	Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2009, American Megatrends, Inc.	

CPU/MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタはCPU温度とマザーボードの温度を自動的に検出して表示します。なお、[Ignored] にすると表示されなくなります。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

Chassis Fan 1/2 Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

Power Fan Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

オンボードハードウェアモニタはCPUファン、ケースファン、電源ファンのスピードを自動検出し、RPMで表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには [N/A] と表示されます。

CPU Q-Fan Control [Disabled]

[Disabled] CPU Q-Fan 機能を無効にします。

[Enabled] CPU Q-Fan 機能を有効にします。

CPU Fan Profile [Standard]

「**CPU Q-Fan Control**」を有効にすると表示され、CPU Q-Fan のパフォーマンスを設定します。

[Standard] CPUファンをCPU温度に合わせて自動的に調節します。

[Silent] CPUファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。

[Turbo] CPUファン速度は最大になります。

Chassis Q-Fan Control [Disabled]

[Disabled] Chassis Q-Fan 機能を無効にします。

[Enabled] Chassis Q-Fan 機能を有効にします。

Chassis Fan Profile [Standard]

「Chassis Q-Fan Control」を有効にすると表示され、Chassis Q-Fan のパフォーマンスを設定します。

[Standard] ケースファンをケースの温度に合わせて自動的に調節します。

[Silent] ケースファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。

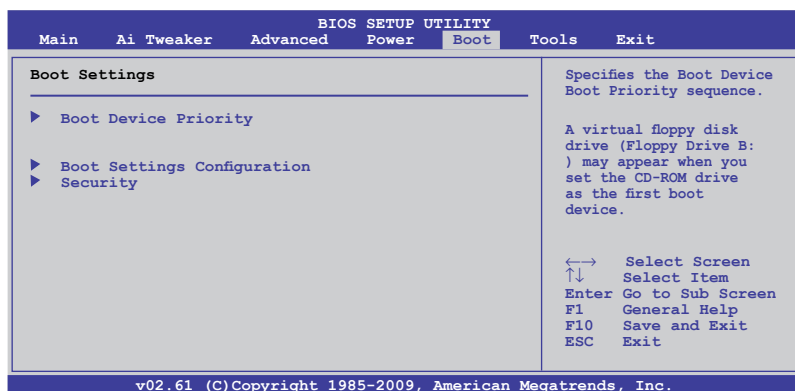
[Turbo] ケースファン速度は最大になります。

CPU Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

オンボードハードウェアモニタはオンボード電圧レギュレーターを通過する電圧出力を自動検出します。なお、[Ignored] にするとこの値は検出されなくなります。

3.8 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



3.8.1 ブートデバイスの優先順位



1st – xxth Boot Device [Removable Dev.]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [Removable Dev.] [Hard Drive] [ATAPI CD-ROM] [Disabled]



- システム起動中にブートデバイスを選択するには、ASUSロゴが表示されたら<F8> キーを押します。
- セーフモードでWindows® OSを起動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ASUSロゴが表示されたら<F5> キーを押します。
 - POSTの後に<F8> キーを押します。

3.8.2 起動設定

BIOS SETUP UTILITY	
Boot	
Boot Settings Configuration	
Quick Boot	[Enabled]
Full Screen Logo	[Enabled]
AddOn ROM Display Mode	[Force BIOS]
Bootup Num-Lock	[On]
Wait For 'F1' If Error	[Enabled]
Hit 'DEL' Message Display	[Enabled]
POST State LEDs	[Enabled]
Allows BIOS to skip certain tests while booting. This will decrease the time needed to boot the system.	

Quick Boot [Enabled]

[Disabled] BIOSは全ての自己診断テスト (POST) の項目を実行します。

[Enabled] 起動中にいくつかのPOST項目をスキップして、システムの起動時間を短縮します。

Full Screen Logo [Enabled]

[Enabled] フルスクリーンロゴを表示します。

[Disabled] フルスクリーンロゴを表示しません。



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「**Full Screen Logo**」の項目を [Enabled] に設定してください。

AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]

[Force BIOS] ブートシーケンス中に、サードパーティのROMメッセージを強制的に表示させます。

[Keep Current] サードパーティがメッセージを表示するように設定している場合のみ、ブートシーケンス中にROMメッセージを表示させます。

Bootup Num-Lock [On]

[Off] 電源をONにしたときの、NumLock 機能をOFFにします。

[On] 電源をONにしたときの、NumLock 機能をONにします。

Wait For 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] エラー発生時に<F1>キーを押すまでシステムを待機させます。

[Disabled] この機能を無効にします。

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

[Enabled] POST中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOS Setupを表示)」というメッセージを表示させます。

[Disabled] この機能を無効にします。

POST State LEDs [Enabled]

[Enabled] デバイスのPOST実行順にオンボードデバイスLEDが点灯します。

[Disabled] この機能を無効にします。

3.8.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。

BIOS SETUP UTILITY	
	Boot
Security Settings	
Supervisor Password : Not Installed	<Enter> to change password. <Enter> again to disable password.
User Password : Not Installed	
Change Supervisor Password	
Change User Password	

Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、初期設定値は「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以内の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを変更する場合は、パスワードの設定と同じ手順で行います。

管理者パスワードの消去は、「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「**Password uninstalled**」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOSリアルタイムクロック (RTC) RAMを消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAMを消去する方法については、「[2.7.1 バックパネルコネクタ](#)」のページをご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。

BIOS SETUP UTILITY	
	Boot
Security Settings	
Supervisor Password : Installed	<Enter> to change password. <Enter> again to disabled password.
User Password : Installed	
Change Supervisor Password	
User Access Level [Full Access]	
Change User Password	
Clear User Password	
Password Check [Setup]	

User Access Level [Full Access]

BIOS Setup へのアクセスの制限を設定します。

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| [No Access] | BIOS Setup へのユーザーのアクセスを拒否します。 |
| [View Only] | アクセスは許可しますが設定の変更はできません。 |
| [Limited] | 日時など、限られた設定のみを変更することができます。 |
| [Full Access] | 全ての項目を表示、変更することができます。 |

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「**User Password**」は初期設定値では「**Not Installed**」になっています。パスワードを設定すると、「**Installed**」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「**Change User Password**」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以内の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

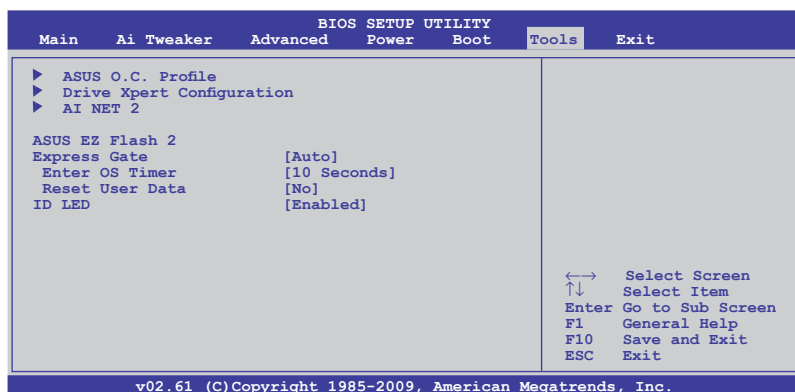
ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

- | | |
|----------|--|
| [Setup] | BIOS は BIOS Setup へのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。 |
| [Always] | BIOS は BIOS Setup へのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。 |

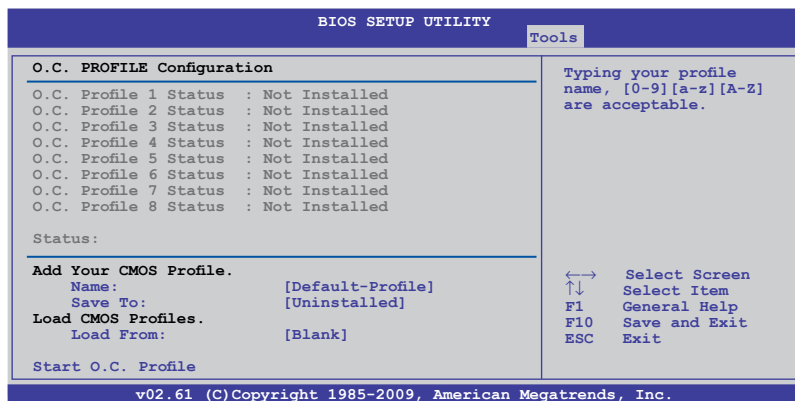
3.9 ツールメニュー

本マザーボードに搭載の特殊機能の設定を行います。項目を選択し、<Enter>を押してサブメニューを表示します。



3.9.1 ASUS O.C. Profile

複数のBIOS設定を保存/ロードすることができます。



Add Your CMOS Profile

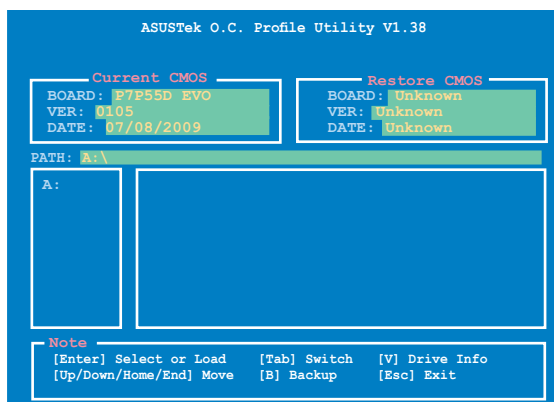
現在のBIOSファイルをBIOSフラッシュに保存できます。「Name」の右のフィールドにファイル名を入力して<Enter>を押し、「Save to」の右のフィールドでプロファイルナンバーを選択して、CMOS設定を保存します。

Load CMOS Profiles

BIOS Flash に保存したBIOS設定をロードすることができます。<Enter> を押してロードするファイルを選択します。

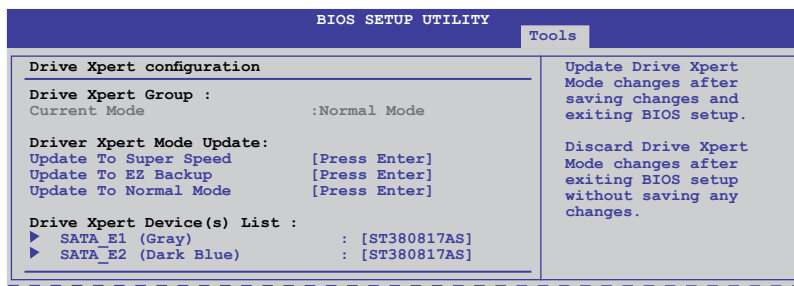
Start O.C. Profile

ユーティリティを起動して CMOSを保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動します。



- このツールが利用できるのは、フロッピーディスクまたはFAT 32/16 でフォーマットされた USB フラッシュメモリで、シングルパーティションの場合のみです。
- BIOS の更新中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。
- BIOS ファイル更新の際は、同一のメモリ/CPU 構成で BIOS バージョンが同じ BIOS ファイルの使用をお勧めします。
- ロードできるのは CMO ファイルのみです。

3.9.2 Drive Xpert Configuration



- Drive Xpert を利用する前に、SATA ケーブルで SATA ハードディスクドライブを SATA_E1 コネクタ (グレー) と SATA_E2 コネクタ (ダークブルー) に接続してください。
- Drive Xpert の変更は 1 度に 1 回だけです。新たな変更を行う際は BIOS 設定を保存しコンピュータを再起動する必要があります。

Drive Xpert Group:

Current Mode

現在の Drive Xpert モードを表示します。

Changed Mode

Drive Xpert モード変更時に表示され、変更した後のDrive Xpert モードが表示されます。

Ultra Space

「Ultra Space」機能でドライブパーティションを作成すると表示されます。

Drive Xpert Mode Update:

Update To Super Speed [Press Enter]

Super Speed 機能を有効にします。**Super Speed**機能は 2 台のHDDを 1 つのドライブパーティションとして動作させる機能です。



Super Speed を実行すると、2 台のHDD内部のデータは全て消去されます。実行する前に重要なデータのバックアップを行うことをお勧めします。

Update To EZ Backup [Press Enter]

EZ Backup 機能を有効にします。**EZ Backup** 機能はSATA_E1 (グレー) ドライブから SATA_E2 (ダークブルー) ドライブに同一のデータイメージを複製し保存します。



EZ Backup を実行すると、SATA_E2 (ダークブルー) HDD内のデータは全て消去されます。実行する前に重要なデータのバックアップを行うことをお勧めします。

Update To Normal Mode [Press Enter]

SATA_E1 (グレー) コネクタとSATA_E2 (ダークブルー) コネクタを通常のSATAコネクタとして動作させます。



1 台のHDDを「**Normal Mode**」で使用する場合は、そのHDDをSATA_E1 (グレー) コネクタに接続してください。

Create Ultra Space [Press Enter]

容量の異なるHDDを 2 台使用して**Super Speed** または **EZ Backup** セットを構築した場合に表示されます。Drive Xpertが使用しないドライブ領域を全て使用してドライブパーティションを 1 つ作成できます。

Delete Ultra Space [Press Enter]

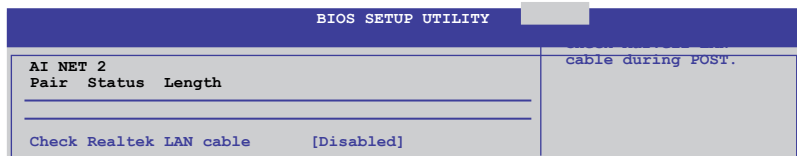
Ultra Space 機能でドライブパーティションを 1 つ作成した場合に表示されます。Ultra Space パーティション内のデータを全て消去できます。

Drive Xpert Device(s) List:

SATA_E1 (Gray) / SATA_E2 (Dark Blue)

<Enter> を押すと、SATA_E1 (グレー) コネクタとSATA_E2 (ダークブルー) コネクタに接続したHDDの情報が表示されます。

3.9.3 AI NET 2



Check Realtek LAN cable [Disabled]

[Disabled] POST中にBIOSによるRealtek LANケーブルのチェックを行いません。

[Enabled] POST中にBIOSによるRealtek LANケーブルのチェックを行います。

3.9.4 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [Yes] または [No] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。



詳細はセクション「3.2.2 ASUS EZ Flash 2」をご参照ください。

3.9.5 Express Gate [Auto]

ASUS Express Gate 機能を設定します。ASUS Express Gate はブラウザや Skype 等のアプリケーションに瞬時にアクセスできる機能です。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Enter OS Timer [10 Seconds]

Express Gate のトップ画面での待機時間を設定します。この時間が経過すると、Windows OS (または他のOS) が起動します。[Prompt User] を選択すると、ユーザーがアクションを起こすまで無制限に待機します。

設定オプション: [Prompt User] [1 second] [3 seconds] [5 seconds] [10 seconds] [15 seconds] [20 seconds] [30 seconds]

Reset User Data [No]

Express Gate のユーザーデータを消去します。

[Reset] 次にExpress Gate を開くときにユーザーデータが消去されますので、各設定データをBIOSに保存してください。消去されるデータには Express Gate の設定、ブラウザ上に保存した個人データ (ブックマーク、Cookie、履歴など) が含まれます。これは不正なデータ設定により、Express Gateを正常に起動できなくなる問題を防ぐのに有効な手段となります。

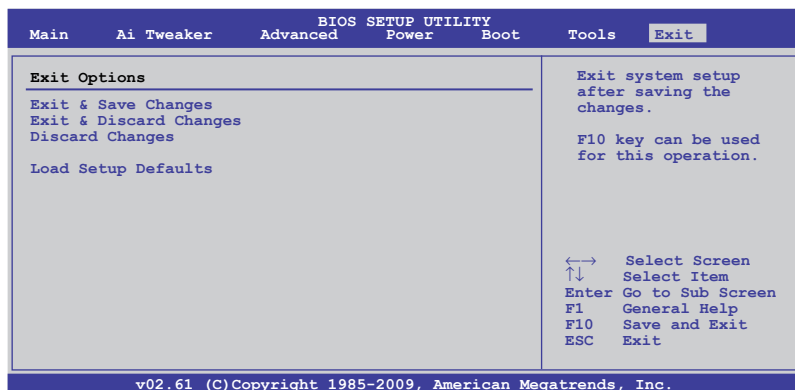
[No] Express Gate を開くときにユーザーデータを消去しません。



設定が削除されてからExpress Gate 環境に初めて入ると、設定ウィザードが起動します。

3.10 終了メニュー

BIOS設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。終了メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「OK」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「OK」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

Chapter 4

4.1 OSをインストールする

このマザーボードは Windows® XP/ 64-bit XP/ Vista / 64-bit Vista / 7 / 64-bit 7 OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大限に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® XPは Service Pack 2 以降のサービスパック適用済みのOSであることをご確認ください。

4.2 サポートDVD情報

マザーボードに付属のサポートDVDには、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。



サポートDVDの内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) でご確認ください。

4.2.1 サポートDVDを実行する

サポートDVDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。メニュータブを選択し、インストールする項目を選択してください。

ドライバメニュー：

インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。

Make disk メニュー：
RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

マニュアルメニュー：

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを閲覧することができます。

ユーティリティメニュー：
マザーボードで利用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。

インストールする項目を選択します。



コンタクトインフォメーション：
ASUSコンタクトインフォメーションを表示します。

サポートDVDとマザーボードの情報を表示します。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートDVDの BIN フォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

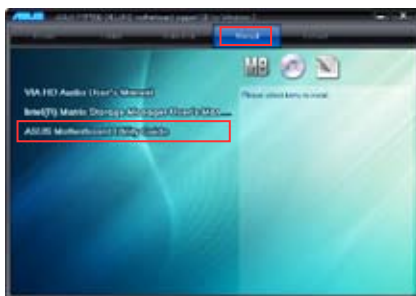
4.2.2 ソフトウェアのユーザーマニュアルを閲覧する

各ソフトウェアのユーザーマニュアルはサポートDVDに収録されています。次の手順に従って、各マニュアルをご参照ください。

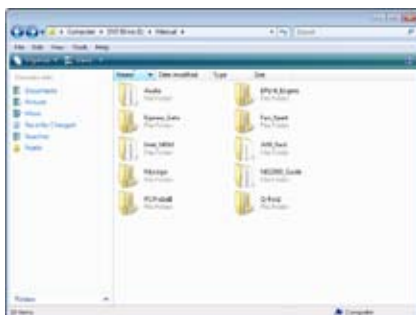


ほとんどのユーザーマニュアルはPDFファイルで収録されています。PDFファイルを開くには、UtilitiesタブのAdobe® Acrobat® Readerをインストールしてください。

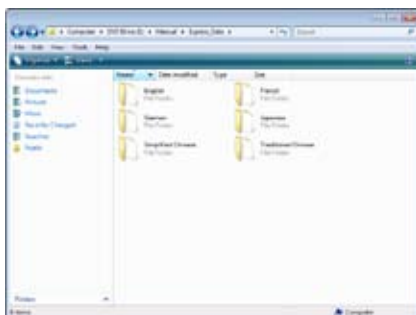
1. 「Manual」タブをクリックし、左のリストから「ASUS Motherboard Utility Guide」をクリックします。



2. サポートDVDの「Manual」フォルダが表示されます。選択したマニュアルのフォルダをダブルクリックします。



3. ソフトウェアマニュアルによって、複数の言語版が用意されています。



本書に記載のスクリーンショットは参照用です。モデルにより異なるため、実際とは異なる場合があります。ご了承ください。

4.3 ソフトウェア情報

サポートDVDのほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadmeファイルをご参照ください。

4.3.1 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントを監視し、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心に監視します。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時から監視を開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II を起動する

1. マザーボードサポートDVDからPC Probe II をインストールします。
2. 「スタート」→「プログラム」→「ASUS」→「PC Probe II」→「PC Probe II v1.xx.xx」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。
3. アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを起動・終了できます。

PC Probe II メイン画面



ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる




ソフトウェアについての詳細は、サポートDVDに収録のユーザーマニュアルをご参照ください。ユーザーマニュアルはASUSのWeb サイトでも公開しております。(http://www.asus.co.jp)

4.3.2 ASUS AI Suite

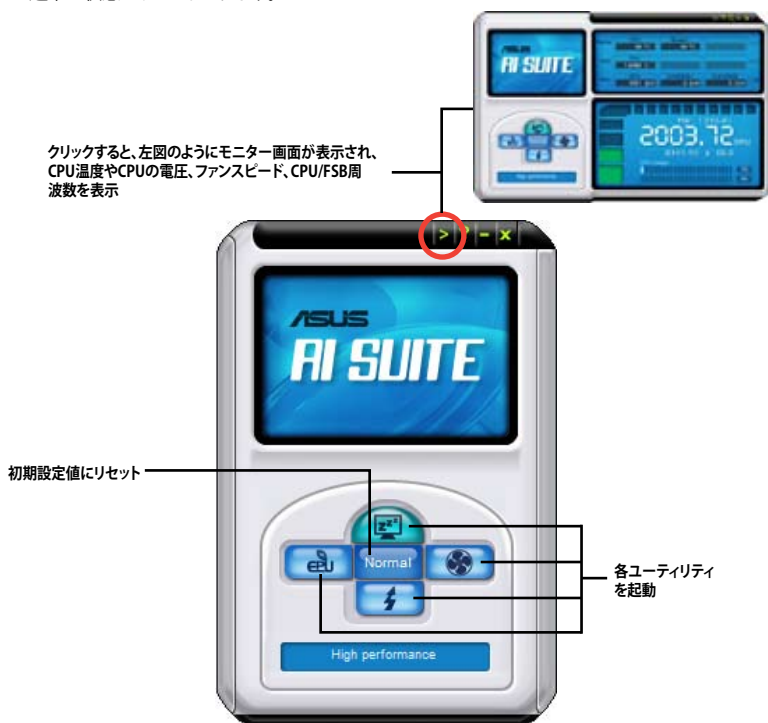
ASUS AI Suite はASUS提供の各ユーティリティを簡単に起動することができます。

AI Suite を起動する

1. マザーボードサポートDVDからAI Suite をインストールします。
2. 「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「AI Suite」→「AI Suite v1.xx.xx」の順にクリックすると、AI Suite のメイン画面が表示されます。
3. AI Suite アイコン  がシステムトレイに表示されます。アプリケーションが最小化表示されているときにこのアイコンをクリックすると、元の大きさの画面で表示されます。

AI Suite を使用する

起動するユーティリティのアイコンをクリックします。なお、Normal アイコンをクリックすると、システムは通常の状態にリセットされます。




- 本書に掲載のスクリーンショットは参考用です。実際に表示されるボタンはモデルにより異なります。
- ソフトウェアについての詳細は、サポートDVDに収録のユーザーマニュアルをご参照ください。ユーザーマニュアルはASUSのWeb サイトでも公開しております。
(<http://www.asus.co.jp>)

4.3.3 ASUS Fan Xpert

ASUS Fan Xpert は、システムの負荷と環境温度に応じて、効果的にCPUファンとケースファンのスピードを調節することができます。オプションから設定を選択することにより、ファンスピードを臨機応変にコントロールすることができます。

Fan Xpert を起動する

AI Suite をサポートDVDからインストールしたら、Fan Xpert をダブルクリックします。AI Suite アイコンをダブルクリックし AI Suite メインウインドウの Fan Xpert ボタン  をクリックしてください。

Fan Xpert を使用する







ファンのプロファイル


- **Disable:** Fan Xpert 機能を無効にします。
- **Standard:** 標準的なファンスピードに設定します。
- **Silent:** ファンスピードを最低限に抑え、ノイズの低減を優先させます。
- **Turbo:** ファンスピードを最大にし、冷却を優先させます。
- **Intelligent:** CPUファンスピードを環境温度に応じて自動調整します。
- **Stable:** CPUファンスピードを一定に保ち、スピードの切り替えによるノイズを抑えます。ただし、温度が70°Cを超えた場合は、ファンのスピードを自動的に加速します。
- **User:** プロファイルを一定の制限でユーザー定義します。

4.3.4 ASUS EPU

ASUS EPUは電力管理をアシストするツールで、システム全体の節電ソリューションを提供します。自動的にコンピュータの負荷を検出し、リアルタイムで電力を調節します。自動的に各コンポーネントへの電源供給のフェーズを切り替え、効果的に加速／オーバークロックを行うことで、電力効率が増加します。

ASUS EPUには次のモードがあります。

-  Turbo モード
-  Medium Power Saving モード
-  High Performance モード
-  Max. Power Saving モード

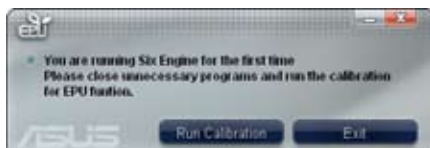
Auto モード  を選択するとシステムの状態に応じてモードを自動的に選択します。また、各モードをカスタマイズすることもできます。

EPUを起動する

EPUをマザーボードサポートDVDからインストールしたら、EPUトレイアイコンをダブルクリックします。



初めて起動すると、右のようにキャリブレーションを行うかを確認するメッセージが表示されます。キャリブレーションを行うと、システムはCPUのプロパティを検出し電源管理の最適化を行います。



キャリブレーションを行う場合は、「**Run Calibration**」をクリックします。キャリブレーションは数秒で終了し、メインメニューが表示されます。

EPUメインメニュー



ソフトウェアの詳細については、サポートDVDに収録のユーザーマニュアルまたは弊社サイトをご参照ください。(<http://www.asus.co.jp>).

4.3.5 ASUS Express Gate

ASUS Express Gate ブラウザやSkype、フォトアルバム等のアプリケーションに瞬時にアクセスできる機能です。コンピュータの電源を入れてからわずか数秒で、Express Gate メニューが開き、ブラウザやSkype等のExpress Gate アプリケーションを起動することができます。

ASUS Express Gate ご利用の際の注意点



- ASUS Express Gate は、マザーボードサポートDVDからインストールしてご使用ください。なお、Express Gate をコンピュータにインストールする前に、Windows OSをインストールする必要があります。
- ASUS Express Gate がサポートするのは、IDEモードのSATAデバイスのみです。詳細は本書のChapter 3 をご参照ください。
- ASUS Express Gate がサポートするHDDは、マザーボードのチップセットが制御するオンボードSATAポートに接続したSATAデバイスのみです。オンボード拡張SATAポートと外部SATAポートは全てサポート対象外です。オンボードSATAポートの位置はChapter 2 をご参照ください。
- ASUS Express Gate がサポートするファイル転送方式は、光学ドライブとUSBドライブからのアップロード、USBドライブへのダウンロードのみです。
- ASUS Express Gate はSATA HDD、USB HDD、フラッシュドライブにインストールでき、インストールに必要なディスク領域は1.2GB です。USB HDDまたはフラッシュドライブにインストールする場合は、コンピュータの電源をONにする前に、ドライブを本マザーボードのUSBポートに接続してください。
- ディスプレイは解像度 **1024 x 768** をサポートしているものをご使用ください。それ以外のものではASUS Express Gate は起動せずに通常のOSが直接起動します。
- パフォーマンスの観点から、最低 1GBのシステムメモリの使用をお勧めします。

トップ画面

コンピュータの電源をONにすると、数秒後に Express Gate のトップ画面が表示されます。



アプリケーションアイコンのいずれかを
クリックすると、Express Gate 環境に
入り、選択したアプリケーションが起動

コンピュータをOFF

クリックするとOSをすぐに起動、
タイマーが「0」になるとOSが起動



- マザーボードのBIOS Ssetup を起動する場合は、トップ画面で「Exit」を押し、POSTで キーを押します。
- ソフトウェアの詳細については、サポートDVDに収録のユーザーマニュアルを参照するか、Express Gate 環境で表示される ? をクリックしてください。
- Express Gate はOpenGL規格を満たしています。Express Gate のソースコードは弊社サイトを参照ください。(http://www.asus.co.jp)

4.3.6 VIA® High Definition Audio ユーティリティ

VIA® High Definition Audio CODECは8チャンネルオーディオを提供することで、最高のオーディオをPC環境で実現します。本ソフトウェアはJack-Detection、Multi-Streaming、Front Panel Jack-Retasking、S/PDIF出力をサポートしています。

インストールウィザードに従って、サポートDVDから VIA® Audio Driver をインストールしてください。

VIA オーディオソフトをインストールするとタスクバーに **VIA HD Audio Deck** アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、VIA HD Audio Deck が表示されます。



VIA HD Audio Deck

A. VIA HD Audio Deck: Windows® Vista™ / Windows® 7™



B. VIA HD Audio Deck: Windows XP



ソフトウェアの詳細はサポートDVDに収録のユーザーマニュアルまたは弊社サイトをご参照ください。(http://www.asus.co.jp)

4.3.7 ASUS Drive Xpert

Drive Xpert はASUSの独自技術で、面倒な操作を行うことなく、HDD内のデータのセキュリティレベルを上げる、またはHDDのパフォーマンスを上げることができます。ユーザーフレンドリーなGUIにより、データのバックアップの設定、転送速度の向上ができます。

Drive Xpert モード

Drive Xpertには3つのモードがあります：**EZ Backupモード**、**Super Speedモード**、**Normal モード**

- **EZ Backup**: 1台のHDDが自動的にもう1台のバックアップディスクとして機能します。一方のHDDが故障しても、ユーザーの大切なデータは保護されます。
- **Super Speed**: 2台のHDDが同時にデータにアクセスします。このデュアルチャンネル設計により、データ転送速度が倍増します。
- **Normal モード**: Drive Xpert 機能を無効にし、2台のSATAコネクタをオンボードSATAコネクタとして使用します。

容量の異なるHDDを2台使用して Drive Xpert セット (**Super Speed**または**EZ Backup**) を構築した場合、**Ultra Space** 機能を使用して、Drive Xpertが使用しないドライブ領域を全て使用してドライブパーティションを1つ作成できます。



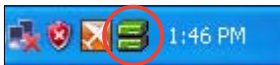
Drive Xpert 機能を実行する際、または既存のDrive Xpert モードを変更する際はHDD内の全てのデータのバックアップを行ってください。



- Windows® 環境でDrive Xpert を利用する場合は、3台のハードディスクドライブのご使用をお勧めします：
1台: OSインストール済みのドライブ
2台: Drive Xpert 設定用ドライブ
- Drive Xpert を利用する前に、SATA ケーブルでSATAハードディスクドライブをSATA_E1/E2 コネクタに接続してください。
- SATA_E1 (グレー) ポートとSATA_E2 (ダークブルー) ポートは、SATAハードディスクドライブ専用です。ATAPI デバイスとホットプラグ機能はサポートしていません。
- Drive Xpert を利用するには、SATA_E1 (グレー) ポートとSATA_E2 (ダークブルー) ポートに接続したハードディスクドライブをデータドライブに設定する必要があります。

Windows® OS環境でDrive Xpert を起動する

付属のサポートDVDからDrive Xpert をインストールしたらデスクトップ上の**Drive Xpert** アイコンをダブルクリックします。続いて図のようなメインスクリーンが表示されます。



Express Gate と BIOS Setup の両方でDrive Xpert 機能を利用できます。ソフトウェアの詳細はサポートDVDに収録のユーザーマニュアルまたは、弊社サイトを参照ください。
(<http://www.asus.co.jp>)

4.3.8 ASUS T.Probe

オンボードT.Probe マイクロチップは電源フェーズの負荷と温度をリアルタイムで検出しそのバランスを調節します。この機能により、電源フェーズの機能を最適化し、各コンポーネントを低温で動作させることが可能になるため、コンポーネントの寿命を延ばすことに繋がります。電源フェーズの負荷と温度は、付属のT.Probe アプリケーションにより Windows® 環境でモニター可能です。

ASUS T.Probeをインストールする

手順

1. サポートDVDを光学ドライブに入れます。Autorun 機能が有効になっていれば、**Drivers** インストールタブが表示されます。
2. 「**Utilities**」タブを選択し、「**ASUS T.Probe**」をクリックします。
3. 画面の指示に従って、インストールを実行します。

ASUS T.Probeを使用する前に

ASUS T.Probe で使用の前に、関連するBIOS設定を行う必要があります。

1. システム起動中のPOSTの段階で キーを押し、BIOS Setup を開きます。
2. 「**Advanced**」メニューから「**T.Probe**」を選択し、[Enabled]に設定します。
3. BIOS設定を変更し、コンピュータを再起動します。



BIOS設定に関する詳細は、本書のBIOSに関連する項目をご参照ください。

ASUS T.Probeを使用する

Windows® システムトレイのT.Probe アイコンをクリックし、T.Probe を起動します。



T.Probeを有効にすると、電源フェーズの温度は徐々に中央のAVG(平均値)に近づきます。



T.Probeが有効の状態では画面右上の「Power Saving Mode」を選択すると、4フェーズモードに切り替わります。電源フェーズの温度は徐々に中央のAVG(平均値)に近づきます。



フェーズパーの数は、マザーボードのモデルにより異なります。

4.4 ASUSだけのオーバークロックユーティリティ —TurboV EVO

ASUS TurboV EVO の**TurboV** と **Turbo Key**—この2つのツールを使用すれば、システムを効果的にオーバークロックできます。ASUS TurboV EVOは付属のサポートDVDからインストールできます。

TurboV EVOがインストールされると、システムトレイに**TurboV EVO**アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、TurboV EVOコントロールパネルが表示されます。



ソフトウェアの詳細はサポートDVDに収録のユーザーマニュアルまたは、弊社サイトをご参照ください。(http://www.asus.co.jp)

4.4.1 ASUS TurboVを使用する

ASUS TurboVは、ベースクロック周波数、CPU電圧、IMC電圧、DRAMバス電圧をWindows環境でオーバークロックできるツールです。また、OSのシャットダウンや再起動は不要で、設定変更がすぐに適用されます。



CPU電圧の調節を行う前にCPUの説明書をご参照ください。設定値が高すぎるとCPUの損傷、低すぎるとシステム不安定の原因となることがあります。



システム安定のため、ASUS TurboV (**Auto Tuning**を除く)で行った設定変更はBIOSには保存されず、次回起動する際にも適用されません。設定変更後のオーバークロック設定を保存するには、「Save Profile」機能を設定をプロファイルとして保存し、Windowsが起動したら、そのプロファイルを手動でロードしてください。

Easy モード Auto Tuning モード

Manual モード

プロファイルをロード

目標値

スタートアップ値

CPU/
チップセット/
DRAM 電圧の
詳細設定

現在の設定を
新しいプロフ
ファイルとして
保存

電圧調節バー

詳細設定の表示切
り替え

全てのスタートアップ
設定を復旧

やり直し(全ての変更を適用しない)
全ての変更をすぐに適用



- BIOSの「CPU Ratio Setting」を [Auto] にしてから、TurboV のCPU Ratio 機能をご利用ください。(詳細: Chapter 3 参照)
- より効果的にオーバークロック設定を行うには、まずBIOS項目の設定変更を行い、その後TurboVで微調整を行うことをお勧めします。

4.4.2 ASUS TurboV Auto Tuning モードを使用する

Auto Tuning モードは自動的にオーバークロック設定を行うモードです。次の手順に従って TurboV EVO にシステムを検出させ、オーバークロック設定を行ってください。

1. 「**Auto Tuning**」タブをクリックし、「**Start**」をクリックします。オーバークロックを実行する前に、「**More Setting**」をクリックしてオーバークロックのパラメータを設定することも可能です。



2. 警告メッセージを読み、「**Yes**」を選択し、自動オーバークロックを実行します。



3. オーバークロックの経過を示す動画が表示されます。現在のオーバークロックをキャンセルするには「**Stop**」をクリックします。



- 「Start」を押すと、システムはパフォーマンスの調整を開始し、再起動を数回行います。この間は、手動での再起動を含め、一切の操作を行わないでください。
- OS再起動後、現在のオーバークロックの情報がメッセージで表示されます。ここで「**Stop**」を選択すると、現在のオーバークロック設定が保存されます。待機すると TurboV EVO がシステムの調整を続行し、より良いパフォーマンス用の設定が適用されます。
- 自動調節されるシステムパフォーマンスの内容は、取り付けたデバイスにより異なります。(例: CPU、DRAM)
- 自動調節機能によりシステム設定のオーバークロックを実行します。それに対応可能な冷却システムの増強をお勧めします。
- 自動調節設定はシステム BIOS に保存され、次回の起動時に適用されます。

4.4.3 ASUS Turbo Key を使用する

ASUS Turbo Key は、各ホットキーをオーバークロックボタンとして使用できる機能です。簡単なセットアップを行うだけで、ゲームや作業を中断することなくワンタッチでパフォーマンスを上げることができます。

TurboV EVOがインストールされると、システムトレイに**TurboV EVO**アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、TurboV EVOコントロールパネルが表示されます。**Turbo Key** タブをクリックしTurbo Key インターフェースに切り替えます。



ASUS Turbo Key の設定を行う



1. 使用するホットキーを選択します。
2. パフォーマンスのレベルは、Turbo Key Profile を選択することで決定できます。また、ASUS TurboV ユティリティに保存した個人プロファイルを読みすることもできます。
3. Turbo Key OSDと状態を表示するかを選択します。
4. 設定を適用するには、「**Apply**」をクリックします。



Turbo Key 機能をご使用するには、割り当てたホットキーを使用します。

4.5 RAID

本マザーボードには Intel® P55 チップセットが搭載されており、Serial ATA/ハードディスクドライブで RAID 0、RAID 1、RAID 10、RAID 5 を構築することができます。



- Serial ATA ハードディスクドライブを使用する際は、Windows® XP Service Pack 2 以降を適用済みのOSをご使用ください。Serial ATA RAID機能を使用するには、Windows® XP SP2 以降のOSが必要となります。
- Windows® XP / Vista の制限により、トータル容量が2TB以上のRAIDアレイを起動ディスクに設定することはできません。トータル容量が2TB以上のRAIDアレイはデータディスクとしてご使用ください。
- RAIDアレイに組み込まれたハードディスクドライブにWindows® OSをインストールする場合、RAIDドライバディスクを作成し、RAIDドライバをOSインストール中にロードする必要があります。詳細はセクション「4.6 RAIDドライバディスクを作成する」をご参照ください。

4.5.1 RAID の定義

RAID 0 (データストライピング)：

HDDに対しパラレル方式でデータを読み/書きします。それぞれのハードディスクの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低 2 台のHDD (同じモデル、同容量) が必要です。

RAID 1 (データミラーリング)：

1 台目のドライブから、2 台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが 1 台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低 2 台の新しいHDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズがそれ以上である必要があります。

RAID 5：3台以上のハードディスクドライブ間のデータとパリティ情報をストライピングします。利点は、ハードディスクドライブのパフォーマンスの向上、フォールト・トレランス、記憶容量の増加です。データのやり取り、相関的なデータベースのアプリケーション、企業内のリソース作成など、ビジネスにおけるシステムの構築に最適です。セットアップには最低 3 台の同じハードディスクドライブが必要です。

RAID 10：

データストライピングとデータミラーリングをパリティ (冗長データ) なしで結合したものです。RAID 0とRAID1構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低4台のHDDが必要です。

Intel® Matrix Storage: ICH10R チップでサポートする Intel® Matrix Storage テクノロジーでは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10* の構築が可能です。また、RAIDセットを2つ組み合わせることと、より高いパフォーマンスとフォールト・トレランス、より大きな容量を実現します (例：同一のハードディスクドライブ2台を使用して RAID 0 と RAID 1 が構築可能)。

4.5.2 Serial ATAハードディスクを取り付ける

本製品は、Serial ATA ハードディスクをサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じハードディスクをご使用ください。

手順

1. SATAハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA信号ケーブルを接続します。
3. SATA電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

4.5.3 BIOSでRAIDを設定する

RAIDを作成する前に、BIOS Setup でRAIDを設定してください。

1. POST実行中にBIOSに入ります。
2. 「Main Menu」で**Storage Configuration**を選択し、<Enter>を押します。
3. 「Configure SATA as」を [RAID] に設定します。
4. 設定の変更を保存し、BIOS Setup から退出します。



BIOS Setup への入り方、設定方法は Chapter 3 をご参照ください。

チップセットの制限により、SATAポートのいずれかをRAIDモードにすると、全てのSATAポートがRAIDモードで動作します。

4.5.4 Intel® Matrix Storage Manager option ROMユーティリティ

Intel® Matrix Storage Manager option ROMユーティリティを開く

1. システムの電源をONにします。
2. POSTで <Ctrl+I> を押し、メインメニューを開きます。

```
Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM v8.9.0.1014 PCH-D wRAID5
Copyright(C) 2003-09 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]
1. Create RAID Volume
2. Delete RAID Volume
3. Reset Disks to Non-RAID
4. Recovery Volume Options
5. Exit

[ DISK/VOLUME INFORMATION ]

RAID Volumes:
None defined.

Physical Disks:
Port Drive Model Serial # Size Type/Status (Vol ID)
0 ST3160812AS 9LS0HJA4 149.0GB Non-RAID Disk
1 ST3160812AS 9LS0F4HL 149.0GB Non-RAID Disk
2 ST3160812AS 3LS0JYL8 149.0GB Non-RAID Disk
3 ST3160812AS 9LS0BJ5H 149.0GB Non-RAID Disk

[↑↓]-Select [ESC]-Exit [ENTER]-Select Menu
```

メニューを選択する際は画面の下に表示されるナビゲーションキーを使用します。



本マニュアルに記載のRAID BIOS 画面は参照用です。実際に表示される画面とは異なることがあります。



本ユーティリティはRAID設定として最大4台のハードディスクドライブをサポートします。

RAIDボリュームを作成する

RAIDセットを作成する

1. ユーティリティメニューから「**1. Create RAID Volume**」を選択し、<Enter>を押します。続いて次のような画面が表示されます。

```
Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM v8.9.0.1014 FCH-D wRAID5
Copyright(C) 2003-09 Intel Corporation. All Rights Reserved.

=[ CREATE VOLUME MENU ]=

Name: Volume0
RAID Level: RAID0(Stripe)
Disks: Select Disks
Strip Size: 128KB
Capacity: 0.0 GB
Sync: N/A
Create Volume

[ HELP ]=

Enter a unique volume name that has no special characters and is
16 characters or less.

[↑↓]-Change [TAB]-Next [ESC]-Previous Menu [ENTER]-Select
```

2. RAIDの名前を入力し、<Enter>を押します。
3. 「**RAID Level**」の項目がハイライト表示されたら、上下キーで作成するRAIDモードを選択し、<Enter>を押します。
4. 「**Disks**」の項目がハイライト表示されたら<Enter> を押し、RAIDに使用するハードディスクドライブを選択します。選択すると次のような画面が表示されます。

```
[ SELECT DISKS ]=

Port Drive Model      Serial #      Size      Status
0  ST3160812AS        9LS0H3A4     149.0GB   Non-RAID Disk
1  ST3160812AS        9LS0F4HL     149.0GB   Non-RAID Disk
2  ST3160812AS        3LS0JYL8     149.0GB   Non-RAID Disk
3  ST3160812AS        9LS0BJ5H     149.0GB   Non-RAID Disk

Select 2 to 6 disks to use in creating the volume.

[↑↓]-Prev/Next [SPACE]-SelectDisk [ENTER]-Done
```


5. 上下キーでドライブをハイライト表示させ、<Space>を押して選択します。小さな三角のマークが選択したドライブを表示しています。設定を確認したら<Enter>を押します。
6. RAID 0、10、5のいずれかを構築した場合は、上下キーでRAIDアレイのストライプのサイズを選択し、<Enter>を押します。設定可能な値は 4 KB から 128 KB です。次の数値は各アレイの一般的な数値です。
RAID 0:128KB
RAID 10:64KB
RAID 5:64KB



サーバーには低めの値、オーディオ、サウンドなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値をお勧めします。

7. **Capacity** 項目を選択したら、希望のRAIDボリューム値を入力し <Enter>を押します。初期設定値は許容最大値です。
8. **Create Volume** 項目を選択したら、<Enter>を押します。続いて次のような警告メッセージが表示されます。

WARNING: ALL DATA ON SELECTED DISKS WILL BE LOST.
Are you sure you want to create this volume? (Y/N):

9. RAIDボリュームを作成し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、**CREATE VOLUME** メニューに戻る場合は <N> を押してください。

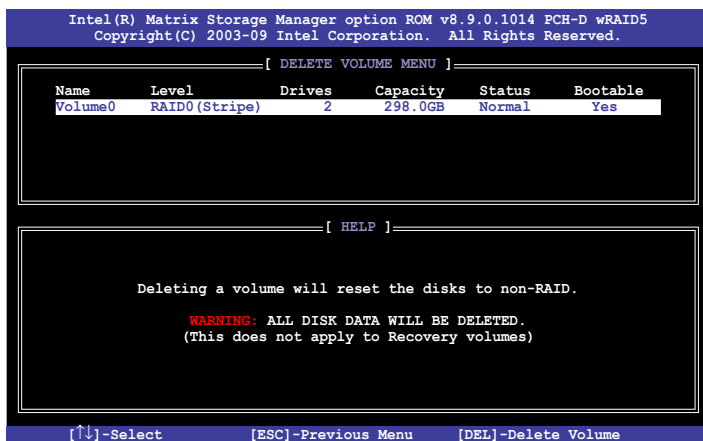
RAIDセットを削除する



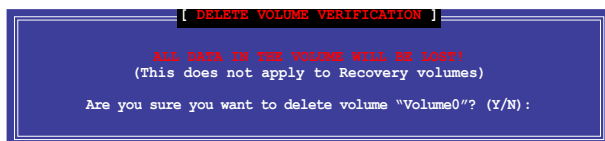
RAIDセットを削除するとハードディスクドライブ内のデータは全て削除されます。ご注意ください。

手順

1. ユーティリティメニューから「**2. Delete RAID Volume**」を選択し <Enter> を押します。続いて次のような画面が表示されます。



2. 上下矢印キーで削除するRAIDセットを選択し、を押します。続いて次のような警告メッセージが表示されます。

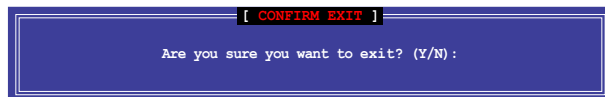


3. RAID ボリュームを削除し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、**CREATE VOLUME** メニューに戻る場合は <N> を押してください。

Intel® Matrix Storage Manager を閉じる

手順

1. ユーティリティメニューから「**4. Exit**」を選択し <Enter> を押します。続いて次のような警告メッセージが表示されます。



2. ユーティリティを閉じるには <Y> を、ユーティリティメニューに戻るには <N> を押します。

4.6 RAIDドライバディスクを作成する

Windows® XP/Vista OSをRAID に組み込まれたHDDにインストールするとき、RAIDドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。Windows® Vista™ OSをお使いの場合は、RAIDドライバが入ったフロッピーディスクまたはUSBフラッシュメモリが必要です。



- 本マザーボードにはフロッピードライブコネクタは搭載されていません。SATA RAIDドライバディスク構築の際は、USBフロッピードライブをご使用ください。
- Windows® XP の制限により、Windows® XP ではUSBフロッピーディスクドライブを認識しない場合があります。詳細はセクション「4.6.4 USBフロッピーディスクドライブを使用する」をご参照ください。

4.6.1 OSに入らずにRAIDドライバディスクを作成する

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に を押し、BIOSに入ります。
3. 光学ドライブをプライマリブートデバイスに設定します。
4. サポートDVDを光学ドライブにセットします。
5. 設定を保存しBIOSを退出します。
6. 「**Make Disk**」メニューが表示されたら、<1> を押して「32/64bit Intel AHCI/RAIDドライバディスク」を作成します。
7. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし<Enter>を押します。
8. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

4.6.2 RAIDドライバディスクを Windows® 環境で作成する

手順

1. Windows®を起動します。
2. USBフロッピーディスクドライブをシステムに接続し、フロッピーディスクを入れます。
3. サポートDVDを光学ドライブにセットします。
4. 「**Make Disk**」メニューに入り、「**Intel AHCI/RAID Driver**」をクリックしてIntel® RAIDドライバディスクを作成します。
5. USBフロッピーディスクドライブを宛先ディスクに設定します。
6. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。



ウィルス感染していないPCで必ず作業を行い、RAIDドライバー導入用フロッピーディスク作成後は、ライトプロテクトを実施してください。

4.6.3 Windows® OSインストール中にRAIDドライバをインストールする

Windows® XPにRAIDドライバをインストールする

1. OSのインストール中に、「**Press the F6 key if you need to install a third-party SCSI or RAID driver...**」という指示が表示されます。
2. <F6>を押し、RAIDドライバを保存したフロッピーディスクをUSBフロッピーディスクドライブに入れます。
3. プロンプトが表示されたら、取り付けるSCSI アダプタを選択します。ここでは必ず「**Intel(R) ICH8R/ICH9R/ICH10R/DO/PCH SATA RAID Controller**」を選択してください。
4. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

Windows® Vista™以降のOSにRAIDドライバをインストールする

1. RAIDドライバを保存したフロッピーディスク/USBデバイスをシステムにセットします。
2. OSのインストール中に「Intel(R) ICH8R/ICH9R/ICH10R/DO/PCH SATA RAID Controller」を選択します。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

4.6.4 USBフロッピーディスクドライブを使用する

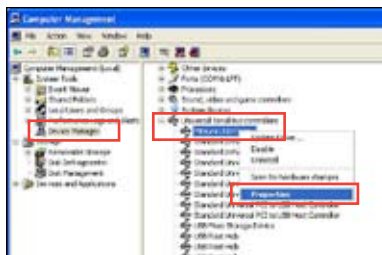
Windows® OSのインストール中に、RAIDドライバをフロッピーディスクからインストールする必要がありますが、Windows® XPの制限により、Windows® XPではUSBフロッピーディスクドライブを認識しない場合があります。

この問題を解決するには、RAIDドライバを保存したフロッピーディスクにUSBフロッピーディスクドライブのベンダー ID (VID)とプロダクト ID (PID)を加える必要があります。

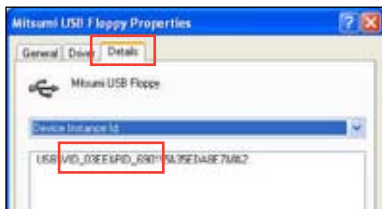
1. 他のコンピュータにUSBフロッピーディスクドライブを接続し、RAIDドライバを保存したフロッピーディスクを入れます。
2. デスクトップから「My Computer (マイコンピュータ)」を右クリックするか、スタートメニューを押して、「Manage (管理)」を選択します。
3. Device Manager (デバイス マネージャ) を選択し、「Universal Serial Bus controllers」から「xxxxxx USB Floppy」を右クリックし、「Properties (プロパティ)」を選択します。



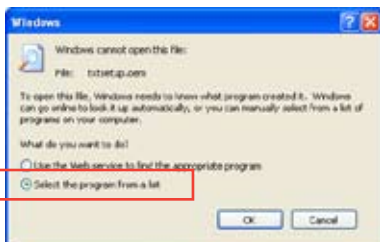
USBフロッピーディスクドライブの名称はベンダーにより異なります。



4. 「Details (詳細)」タブを選択し、ベンダー ID (VID)とプロダクト ID (PID)を表示させます。



5. RAIDドライバディスクの内容を参照し、ファイル「**txtsetup.oem**」の場所を確認します。
6. ファイルをダブルクリックします。
「**Select the program from a list (リストからプログラムを選択)**」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



7. Notepad を選択し、ファイルを開きます。



8. 変更を保存し、ファイルを閉じます。
9. [HardwareIds.scsi.iaAHCI_PCH] と [HardwareIds.scsi.iaStor_8R9R10RDOPCH] セクションを **txtsetup.oem** ファイルで探します。
10. 図のように、各セクションの下に以下の文字列をそれぞれ入力します。
id = "USB\VID_xxxx&PID_xxxx", "usbstor"

```
[HardwareIds.scsi.iaAHCI_PCH]
id= "PCI\VEN_8086&DEV_3A22&CC_0106", "iaStor"
id= "USB\VID_03EE&PID_6901", "usbstor"

[HardwareIds.scsi.iaStor_8R9R10RDOPCH]
id= "PCI\VEN_8086&DEV_3A22&CC_0106", "iaStor"
id= "USB\VID_03EE&PID_6901", "usbstor"
```



入力する文字列の内容は同じです。



VIDとPIDはベンダーにより異なります。

Chapter 5

5.1 ATI® CrossFireX™ テクノロジー

本マザーボードはATI® CrossFireX™ テクノロジーを採用しており、マルチGPUビデオカードを取り付けることができます。

5.1.1 必要条件

- Dual CrossFireXモード: 同一のATI® 公認CrossFireX対応カード 2 枚、またはCrossFireX対応デュアルGPUビデオカード 1 枚
- Triple CrossFireXモード: 同一のATI® 公認CrossFireX対応ビデオカード 3 枚
- ビデオカードドライバがATI CrossFireXテクノロジーをサポートしていること。最新のドライバはAMDのWebサイト (www.amd.com) でダウンロード可能。
- 最低電源条件を満たす電源装置 (詳細: Chapter 2-38 参照)



- 熱管理の観点から、ケースファンの追加をお勧めします。
- ATI Triple CrossFireX テクノロジーは Windows® Vista OSのみによってサポートされます。
- ATI Game ウェブサイト (<http://game.amd.com>) で最新のビデオカードと対応する3D アプリケーションリストを入手してください。

5.1.2 始める前に

ATI CrossFireX を動作させるには、ATI CrossFireXビデオカードを取り付ける前に、システムにインストールされているビデオカードドライバを削除する必要があります。

手順

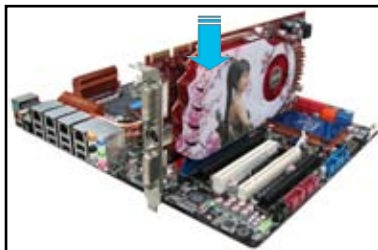
1. 全てのアプリケーションを閉じます。
2. Windows XPをご使用の場合は、「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」の順に開きます。
Windows Vistaをご使用の場合は、「コントロールパネル」→「プログラムと機能」の順に開きます。
3. システムにインストールされているビデオカードドライバを選択します。
4. Windows XPをご使用の場合は、「変更と削除」を選択します。
Windows Vistaをご使用の場合は、「アンインストール」を選択します。
5. コンピュータをOFFにします。

5.1.3 CrossFireX™ ビデオカードを2枚取り付ける

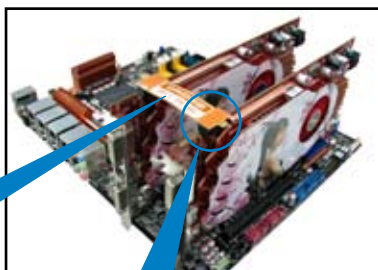


本マニュアルに記載の写真は参照用です。ビデオカードとマザーボードのレイアウトはモデルにより異なりますが、セットアップ手順は同じです。

1. CrossFireX対応ビデオカード2枚を手元に準備します。
2. 両方のビデオカードをPCIEX16スロットに取り付けます。マザーボードにPCIEX16スロットが2基以上ある場合は、Chapter 2でビデオカードを2枚以上取り付ける際に推奨するPCIEX16スロットをご確認ください。
3. 各カードをしっかりと取り付けます。



4. CrossFireXブリッジコネクタを各ビデオカードのゴールドフィンガーに挿入します。コネクタはしっかりと取り付けます。

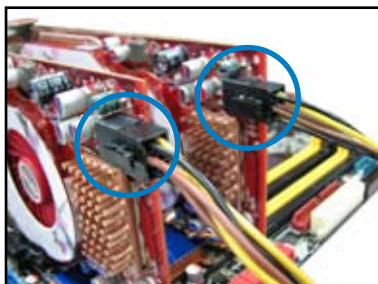


CrossFireX ブリッジ



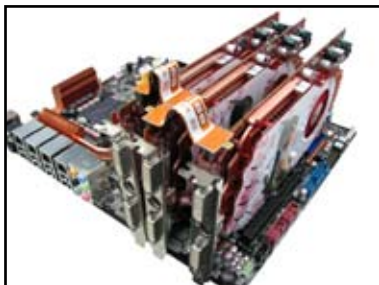
ゴールドフィンガー

5. 各ビデオカードに補助電源装置を接続します。
6. VGAケーブルまたはDVIケーブルをビデオカードに接続します。

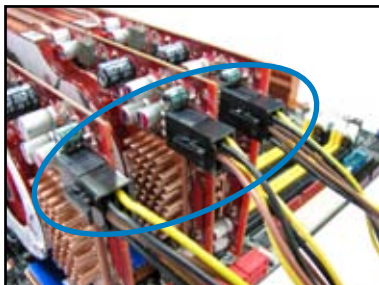


5.1.4 CrossFire™ ビデオカードを 3 枚取り付ける

1. CrossFireX対応ビデオカード 3 枚を手元に準備します。
2. 3 枚のビデオカードをPCIEX16スロットに取り付けます。マザーボードにPCIEX16スロットが 2 基以上ある場合は、Chapter 2 でビデオカードを 2 枚以上取り付ける際に推奨するPCIEX16スロットをご確認ください。
3. 各カードをしっかりと取り付けます。
4. CrossFireXブリッジコネクタを各ビデオカードのゴールドフィンガーに挿入します。コネクタはしっかりと取り付けます。



5. 各ビデオカードに補助電源装置を接続します。
6. VGAケーブルまたはDVIケーブルをビデオカードに接続します。



5.1.5 デバイスドライバをインストールする

デバイスドライバのインストールの詳細は、ビデオカードに付属のマニュアルをご参照ください。



- PCI Express ビデオカードドライバがATI® CrossFireX™ テクノロジをサポートしていることをご確認ください。最新のドライバはAMDのWebサイト (www.amd.com) でダウンロード可能です。
- Triple CrossFireXシステムを構成した場合は、ATI® Catalyst™ ドライバをWindows® Vista™ 環境でインストールしてください。ATI Triple CrossFireX テクノロジは現在、Windows® Vista™ のみでサポートされています。

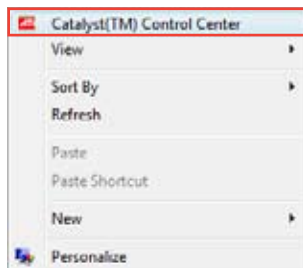
5.1.6 ATI® CrossFireX™ テクノロジを有効にする

ビデオカードとデバイスドライバをセットアップしたら、Windows® Vista™ を起動し、ATI Catalyst™ Control Center で CrossFireX™ 機能を有効にします。

ATI Catalyst Control Center を起動する

手順

1. デスクトップ上で右クリックし、「**Catalyst (TM) Control Center**」を選択します。または、システムトレイのATI アイコンを右クリックし「**Catalyst Control Center**」を選択します。



2. 複数のビデオカードが検出されると、「**Catalyst Control Center Setup Assistant**」の画面が表示されます。続いて「**Go**」をクリックして、「**Catalyst Control Center Advanced View**」を表示させます。



CrossFireX を有効にする

1. Catalyst Control Center 画面で「Graphics Settings」→「CrossFireX」→「Configure」の順にクリックします。
2. Graphics Adapter リストからディスプレイ用GPUとして使用するビデオカードを選択します。
3. 「Enable CrossFireX」を選択します。
4. 「Apply」をクリックし、「OK」をクリックして設定画面を閉じます。



Triple CrossFireX を有効にする

1. Catalyst Control Center 画面で「Graphics Settings」→「CrossFireX」→「Configure」の順にクリックします。
2. Graphics Adapter リストからディスプレイ用GPUとして使用するビデオカードを選択します。
3. 「Enable CrossFireX」を選択します。
4. リストからCrossFireXテクノロジーを適用するGPUの組み合わせを選択します。
5. 「Apply」をクリックし、「OK」をクリックして設定画面を閉じます。



5.2 NVIDIA® SLI™ テクノロジー

本マザーボードはNVIDIA® SLI™ (Scalable Link Interface) テクノロジーをサポートしており、マルチGPUビデオカードを取り付けることができます。

5.2.1 必要条件

- SLI モード: 同一のNVIDIA® 公認SLI 対応のビデオカード 2 枚。
- NVIDIA SLI テクノロジー対応のビデオカードドライバ。最新のドライバはNVIDIAのWebサイト (www.nvidia.com) でダウンロード可能。
- 最低電源条件を満たす電源装置 (PSU)。(詳細: Chapter 2 参照)



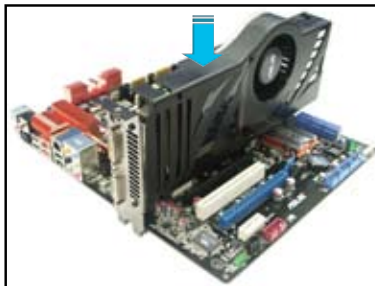
- 熱管理の観点から、ケースファンの追加をお勧めします。
- NVIDIA Zone Webサイト (<http://www.nzone.com>) で最新の公認ビデオカードとサポートする3Dアプリケーションのリストをご確認ください。

5.2.2 SLI対応ビデオカードを 2 枚取り付ける

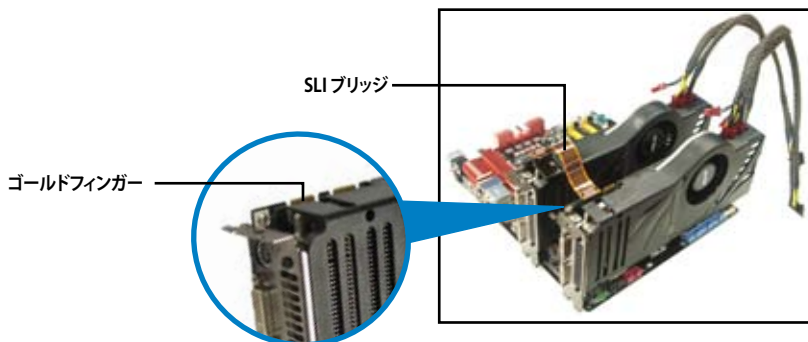


本マニュアルに記載の写真は参照用です。ビデオカードとマザーボードのレイアウトはモデルにより異なりますが、セットアップ手順は同じです。

1. SLI対応ビデオカード 2 枚を手元に準備します。
2. 両方のビデオカードをPCIEX16スロットに取り付けます。マザーボードにPCIEX16スロットが 2 基以上ある場合は、Chapter 2 でビデオカードを 2 枚以上取り付ける際に推奨するPCIEX16スロットをご確認ください。
3. 各カードをしっかり取り付けます。



4. SLI ブリッジコネクタを各ビデオカードのゴールドフィンガーに挿入します。コネクタはしっかり取り付けます。
5. 各ビデオカードに補助電源装置を接続します。
6. VGAケーブルまたはDVIケーブルをビデオカードに接続します。



5.2.3 デバイスドライバをインストールする

ビデオカードに付属のマニュアルを参考にして、デバイスドライバをインストールしてください。



PCI Express ビデオカードドライバがNVIDIA® SLI™ テクノロジテクノロジーをサポートしていることをご確認ください。最新のドライバはNVIDIA Webサイト (www.nvidia.com) でダウンロード可能です。

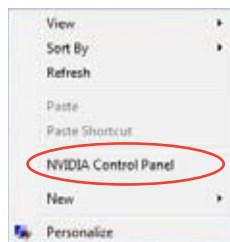
5.2.4 NVIDIA® SLI™ テクノロジを有効にする

ビデオカードとデバイスドライバをセットアップしたら、Windows® Vista™ を起動し、NVIDIA® Control PanelでSLI 機能を有効にします。

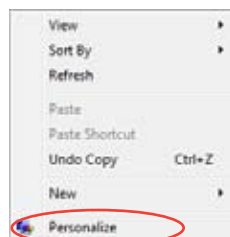
NVIDIA Control Panelを開く

手順

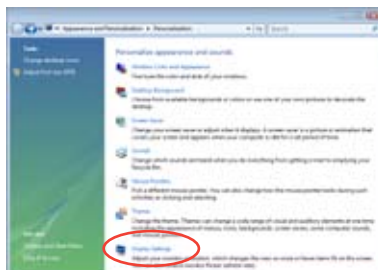
- A. デスクトップ上で右クリックし、「NVIDIA Control Panel」を選択します。(手順B5 を参照)



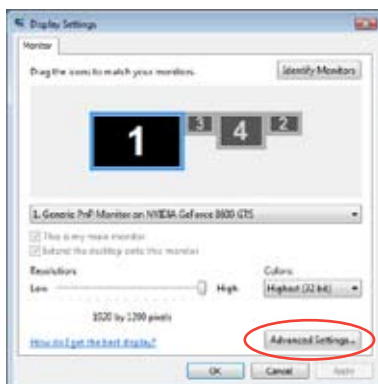
B1. 表示されない場合は、「**Personalize**」を選択します。



B2. 右のような画面が表示されたら「**Display Settings**」を選択します。



B3. Display Settings のダイアログボックスで「**Advanced Settings**」をクリックします。



- B4. NVIDIA GeForce タブを選択し、
「Start the NVIDIA Control Panel」をクリックします。



- B5. NVIDIA Control Panel 画面が表示されます。



SLI 設定を有効にする

NVIDIA Control Panel から「Set SLI Configuration」を選択します。

「Enable SLI」をクリックし、SLI レンダリングコンテンツ用のディスプレイを設定します。設定後「Apply」をクリックします。



This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.